

# 2022年度

## 教育学部 講義計画と内容

[目次]

基礎教育学専修 基礎教育学コース  
教育社会科学専修  
教育社会科学専修 比較教育社会学コース  
教育社会科学専修 教育実践・政策学コース  
心身発達科学専修  
心身発達科学専修教育心理学コース  
心身発達科学専修 身体教育学コース  
教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目  
教職課程科目 (I) 本郷キャンパス  
教職課程科目 (II) 駒場キャンパス  
特設科目

※この資料は UTAS の簡易版です。

※UTAS と情報が食い違う場合は、UTAS を是としてください。

2022年度は UTAS のシラバス情報が随時更新される予定のため、注意してください。

時間割コード	09221101	担当教員	山名 淳		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 4
講義題目	教育哲学概説(教育思想論) Introduction to Philosophy of Education				

授業の目的・概要	<p>本授業では、教育哲学の基礎およびそれをもとにした議論の方法を学びます。教育哲学とは、教育について根本的に考察する学問です。ところで、教育を「根本的」に考察するとは、いったいどのようなことを言うのでしょうか。本授業では、教育について考えるためのおよそ 10 のテーマを設定し、そのテーマに関わる主要概念や問題構成を概説します。</p> <p>本授業の目標は、(1) 教育哲学とは何かということの概略を示すことができる、(2) 教育哲学の基礎知識を習得する、(3) そのような基礎知識をもとにして教育に関する基本的な議論を行うことができる、以上の 3 点にあります。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本授業のキーワードと概要</li> <li>2 教育としてのアーキテクチャ(1)――都市空間と人間形成の思想</li> <li>3 教育としてのアーキテクチャ(2)――〈田園〉の創造と人間形成</li> <li>4 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(1)――〈タムロ〉問題から考える</li> <li>5 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(2)――電子空間の拡張と人間形成</li> <li>6 アーキテクチャと学校教育(1)――学校空間の基本構造とその歴史</li> <li>7 アーキテクチャと学校教育(2)――開放型学校空間のバリエーション</li> <li>8 アーキテクチャと学校教育(3)――今日の学校における空間・身体・教育</li> <li>9 アーキテクチャとしての教育(1)――授業における構造的なるもの</li> <li>10 アーキテクチャとしての教育(2)――構造をくずす(「命の教育」)</li> <li>11 アーキテクチャとしての教育(3)――構造と暴力(教育的関係論)</li> <li>12 アーキテクチャとしての教育(4)――構造と暴力(いじめ)</li> <li>13 アーキテクチャと人間形成――想起文化論における空間問題と教育</li> <li>14 アーキテクチャ消失と人間形成――「野生の少年」を再考する</li> <li>15 本授業のまとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>教育に関する多様な事例をとりあげて、人間と文化との力動的な関係性とそこに介入する試みとしての教育の問題について考える。各授業時間における導入部分では、授業担当者がその回のテーマおよび問題視角を提示する(30分)。具体的な事例が紹介された後(30分)、再び授業担当者が解説を試みる(30分)。授業の内容について受講生はリアクションペーパーを作成する(15分)。次回の授業冒頭で受講生の感想が紹介され、そして次のテーマへの導入へと続く。</p>
成績評価方法	<p>平常点(毎時のリアクションペーパー、授業時の参加姿勢)と期末レポートの総合的評価(前者 5 割、後者 5 割)とする。</p>
教科書	<p>授業時にレジュメを配布します。</p>
参考書	<p>山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2015 年 その他、授業中に適宜提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>専門的な知識をあらかじめ習得している必要ありません。ただし受講生の積極的な参加を求めます。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照</p>

時間割コード	09221102	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	教育人間学概説 Introduction to Educational Thought and Anthropology				

授業の目的・概要	<p>教育の理念とイデオロギーは、その目的とする人間像をめぐる対立・相克し、揺れ動いてきた。そうした対立と相克の様相を、教育の哲学と思想史の基礎理論を学ぶことによって明らかにする。それによって、現代の教育が直面する課題について批判的にとらえる視点を養うことをめざす。「主体的、対話的で深い学び」ということが学習指導要領に盛り込まれ、それを「評価」するためのデータ利活用が喧伝されつつある今日、それは本当の意味での主体性を養うことにつながるのか、統治や管理のための主体性の動員、飼育慣らしにならない保証はどこにあるのか。そうした問題を含め、OECD のエージェンシーをめぐる議論やバトラーのエージェンシー論を検討の素材としつつ、議論を深めていきたい。</p>
授業計画	<p>今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。</p> <p>論文構想の発表と検討、論文の作成方法についてのガイダンスなど 2 回</p> <p>近代教育における主体化＝服従化のメカニズム(教師によるプレゼンと、討論)3 回</p> <p>OECD『2030 年に向けた生徒エージェンシー』の検討 1 回</p> <p>ジュディス・バトラー『権力の心的な生』月曜社、序論の検討 3 回</p> <p>ジュディス・バトラー『問題＝物質となる身体』以文社、序章の検討 4 回</p>
授業の方法	<p>講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、卒業論文の準備にも資するようにしたい。また、卒論執筆者による発表と検討の時間も設ける。</p>
成績評価方法	<p>レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。</p>
教科書	<p>小玉重夫『シティズンシップの教育思想』白澤社</p>
参考書	<p>関連する資料、教材をウェブサイトアップして、受講者がダウンロードできるようにする。</p>
履修上の注意・備考	<p>初回の授業時(4月8日予定)に発表の分担等を行う予定である。</p> <p>本授業は感染状況にもよるが、原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件希望者の希望者のオンラインでの受講も認める。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)哲学(公)哲学</p>

時間割コード	09221103	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 2
講義題目	日本教育史概説 Introduction to Japanese Educational History				

授業の目的・概要	現在の学校教育の抱えている問題を歴史的に照射することを目的とする。教師になろうと考えている学生たちにとって、歴史的観点から学校教育の特徴を理解することを、日本教育史の研究を志す学生たちにとって、教育史研究の基礎的な素養が獲得できることを目指している。
授業計画	<p>講義の具体的な柱は次の通りである。</p> <p>第1回:オリエンテーション(日本教育史を展望する)</p> <p>第2回:&lt;戦前期1&gt;国民教育の成立</p> <p>第3回:&lt;戦前期2&gt;総力戦体制と教育</p> <p>第4回:占領政策と教育</p> <p>第5回:子どもと人権</p> <p>第6回:高度経済成長下の教育</p> <p>第7回:教育における管理体制の再編</p> <p>第8回:高校紛争とは何だったのか</p> <p>第9回:非行問題から見えてくるもの</p> <p>第10回:臨教審答申と教育改革</p> <p>第11回:国際化と教育</p> <p>第12回:生涯学習社会の到来と「学習権」</p> <p>第13回:新自由主義施策と教育の格差</p> <p>第14回:コミュニティスクールから見えてくるもの</p> <p>第15回:まとめ—未来への展望</p>
授業の方法	<p>本授業はオンラインで行う。</p> <p>予め文献を指定したり、簡単な課題を設定し、学生によるディスカッションを毎回取り入れる。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義後に提出する課題提出、期末レポートをもって評定する。</p> <p>なお出席3分の2以上をもって、単位認定の最低要件とする。</p>
教科書	特に指定しない。授業中に資料を電子的に配付する。
参考書	適宜紹介する
履修上の注意・備考	<p>初回到履修方法について説明するので欠席しないこと。</p> <p>毎回、共通文献の事前学習を課し、文献に基づいたディスカッションを時間内に展開するので、事前学習の時間(毎回2時間程度)の確保をお願いしたい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)日本史(地)日本史

時間割コード	09221301	担当教員	山名 淳		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 4
講義題目	文化と教育の哲学 Seminar in Philosophy of Culture and Education				

授業の目的・概要	文化と教育にかかわる現代的なトピックにかかわる教育哲学的な文献をとりあげ、その内容を把握するとともに、発展的かつ批判的に検討を行う。受講生は、(1)教育哲学というジャンルの基礎知識を獲得し、(2)文化と教育に関する考察の歴史と体系について理解を深めると同時に、(3)自らの問題関心に基づいて議論をさらに発展させることができる。
授業計画	毎回、一トピックを取り上げる。そのトピックに関連するテキストを授業者が選定して、受講生で担当を割り振る。各授業では、各担当受講生が報告を行った後、グループディスカッションを行い、それを全体討議に繋ぎ、最後に授業者が解説を試みる。
授業の方法	授業者が関連テキストを選定して、受講生による報告、グループディスカッション、全体討議、授業担当者による解説、受講生のコメントおよびそのフィードバックを重ねていく。
成績評価方法	平常点(60パーセント)と期末レポート(40パーセント)の総合的評価を行う。
教科書	授業時に指示する。なお、関連資料を授業時に配付する。
参考書	森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』東信堂、2019年 山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2015年
履修上の注意・備考	専門知識を前提としないが、教育や人間形成に対する関心をもって積極的に参加していただきたい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09221302	担当教員	小国 喜弘
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	月 2
講義題目	日本教育史演習 Seminar in History of Japanese education		

授業の目的・概要	<p>日本教育史研究に必要な研究能力、基礎的教養を獲得することを目指している。</p> <p>具体的には、戦後教育の構造が行き詰まり、現代の教育問題を抱えることとなった 1970 年代以降に焦点をしばり、歴史的検討を通じて、現代の問題に対する再検討を試みたい。具体的には、以下のようなテーマを受講者の関心に応じで取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育と貧困格差はどのように論じられたかー地域間格差を含めて</li> <li>・「障害」は教育を通してどのように生み出されたか</li> <li>・「受験地獄」はどのように形成されたのか</li> <li>・「学力」はどう論じられたのか</li> <li>・「不登校問題」はどのように形成されたか</li> </ul> <p>などなど</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション:ゼミの参加の仕方、教育史研究の意義</p> <p>第 2 回:ゼミでの文献の調べ方について、取り上げてみたいテーマを考える</p> <p>第 3 回:&lt;全員発表&gt;「1970 年代と教育」について</p> <p>第 4 回:「不登校」はどのように生み出されてきたのか</p> <p>第 5 回:「障害」は、いかにして教育の中で取り上げられてきたのか</p> <p>第 6 回:&lt;個人テーマ&gt;の絞り込み</p> <p>第 7 回:「貧困」からみた学校教育史</p> <p>第 8 回:「不登校」からみた学校教育史</p> <p>第 9 回 中間発表の相互交流 1、論文の書き方 1</p> <p>第 10 回 中間発表の相互交流 2、論文の書き方 2</p> <p>第 11 回 個人発表 1</p> <p>第 12 回 個人発表 2</p> <p>第 13 回 個人発表 3</p>
授業の方法	基本的に対面で開講します。オンラインでの参加を希望する場合は、ご相談ください。
成績評価方法	<p>基本的に発表の質によって評価する。</p> <p>1文献を十分に読み込み論点を整理できているか</p> <p>2周辺の文献、先行研究を踏まえているか</p> <p>3発表回までのゼミの流れを踏まえた発表になっているか</p> <p>4新たな視点の提示をなし得ているか</p> <p>* 単位の取り方:講義の毎回終わりに、コメントペーパーを書いていただきます。その提出をもって出席とみなし、3 分の 2 以上の参加と小レポートによって単位を認定します(第 11~13 回目に発表する小レポートで成績を付けます)。</p>
教科書	共通文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。
参考書	適宜紹介する。

**履修上の注意・備考**

基本的に対面で行います。感染対策に留意して開講します。オンラインでの参加をご希望になる場合は個別にご相談ください。活発に議論したり、できれば見学に出かけたりといった対面での良さを活かしたゼミ活動を行いたいと考えます。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09221303	担当教員	片山 勝茂
単位数	2.0	学 期	A1A2
		時 限	木 2
講義題目	価値と教育Ⅲ Seminar in Values and Education Ⅲ		

授業の目的・概要	<p>2021 年度の「価値と教育 Ⅱ」に引き続き、「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、英語文献と日本語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会における人格教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。</p>
授業計画	<p>奇数回が対面、偶数回がオンライン授業の予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: Foreword 精読</li> <li>3. アリストテレス「第6巻 思考の徳と正しい道理」講読</li> <li>4. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: Executive Summary 精読</li> <li>5. アリストテレス「第7巻 抑制のなさや快楽の本性」講読</li> <li>6. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 1 Purpose of the Report 精読</li> <li>7. アリストテレス「第8巻 友愛」講読</li> <li>8. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.1. Historical Background 精読</li> <li>9. アリストテレス「第9巻 友愛(続き)」講読</li> <li>10. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.2 Problem Statement and Conceptual Clarification 精読</li> <li>11. アリストテレス「第10巻 快楽の諸問題と幸福の生」講読</li> <li>12. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.3 Overall Evaluative Goals 精読</li> <li>13. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3 Methodology 精読</li> <li>14. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 4 Findings 精読</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。</p> <p>対面とオンラインを隔週で組み合わせる予定。</p> <p>授業で使用する教材やレジュメは ICT-LMS やメールを通じて電子的に配布します。</p>
成績評価方法	<p>試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、ゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。期末レポートは「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに 2,000 字程度で論じたものとする予定である。</p>
教科書	<p>Jubilee Centre for Character and Virtues (2014) Knightly Virtues: Enhancing Virtue Literacy Through Stories Research Report (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues).</p> <p>アリストテレス(2002)『ニコマコス倫理学』朴一功訳(京都大学学術出版会)。</p>
参考書	<p>Jubilee Centre for Character and Virtues (2017) A Framework for Character Education in Schools (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues).</p> <p>クリスチャン・クリスチャンソン(2018)『子どもを開花させるモラル教育—21 世紀のアリストテレス的人格教育』中山理監訳(麗澤大学出版会)。</p> <p>片山勝茂(2017)「イギリスの道德教育改革からみる日本の道德『教科化』」明治図書「教育 ZINE」  <a href="https://www.meijitosh.co.jp/eduzine/opinion/?id=20170108">https://www.meijitosh.co.jp/eduzine/opinion/?id=20170108</a></p>



酒井喜八郎(2019)「イギリス・ジュリビーセンターにおけるキャラクター教育の特質—わが国の社会科と道徳科の関連に示唆するもの」『南九州大学人間発達研究』第9巻。  
その他、授業中に紹介する。

**履修上の注意・備考**

2021年度の「価値と教育 II」を受講していない人も、受講を歓迎する。また、正当な理由があって欠席する人は配慮する。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09221304	担当教員	田中 智志
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	火 4
講義題目	教育臨床学演習 Seminar in Clinical Approach to Education		

授業の目的・概要	この演習では、臨床哲学の知見を踏まえつつ、自律性、関係性、固有性(かけがえのなさ)、弱さの力、交感、共鳴共振などの教育臨床学の基礎概念について、具体的な文学作品、映画、音楽、ミュージカルなどを題材に、現代の社会状況を踏まえつつ、その理解を深めることをめざす。
授業計画	<p>第1回 教育臨床学の目的</p> <p>第2回 教育臨床学の方法</p> <p>第3回 教育臨床学の基礎概念</p> <p>第4回 文学作品から臨床哲学的に考える1</p> <p>第5回 文学作品から臨床哲学的に考える2</p> <p>第6回 文学作品から臨床哲学的に考える3</p> <p>第7回 映画から臨床哲学的に考える1</p> <p>第8回 映画から臨床哲学的に考える2</p> <p>第9回 映画から臨床哲学的に考える3</p> <p>第10回 音楽・ミュージカルから臨床哲学的に考える1</p> <p>第11回 音楽・ミュージカルから臨床哲学的に考える2</p> <p>第12回 音楽・ミュージカルから臨床哲学的に考える3</p> <p>第13回 自己を越えるコミットメント</p> <p>第14回 コミットメントが支える人間性</p> <p>第15回 演習のまとめと最終レポート</p>
授業の方法	<p>授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発話分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。</p> <p>内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。</p>
成績評価方法	毎回の各人の発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教科書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	<p>出席を重視する。また教育学の基礎的素養を必要とする。</p> <p>オンライン zoom で行います。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09221305	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	金 3
講義題目	<b>教育人間学演習</b> Seminar in Educational Thought and Anthropology				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>教育学について文献を読み、議論する方法に慣れ、論文の執筆に見通しが持てるようになることを目指したい。内容としては、S セメスター(教育人間学概説)での議論とも関係するが、教育における主体性の問題を、政治やシティズンシップとの関係をふまえて議論する。具体的には、ジャック・ランシエールの代表的著作を検討し、そこから、教育における政治的主体化の可能性を議論したい。また、昨年延長で、現代の推し文化の問題点と可能性についても検討したい。</p>
<b>授業計画</b>	<p>今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。</p> <p>教員からの問題提起と議論 2回</p> <p>ランシエール『不和あるいは了解なき了解』インスクリプト 6回</p> <p>ランシエール『解放された観客』法政大学出版社 5回</p>
<b>授業の方法</b>	<p>講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、論文の準備にも資するようにしたい。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。</p>
<b>教科書</b>	<p>小玉重夫『シティズンシップの教育思想』白澤社</p>
<b>参考書</b>	<p>関連する資料、教材をウェブサイトアップして、受講者がダウンロードできるようにする。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>初回の授業時に発表の分担等を行う予定である。</p> <p>本授業は感染状況にもよるが、原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件希望者の希望者のオンラインでの受講も認める。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09221306	担当教員	大塚 類		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	木 5
講義題目	教育の臨床現象学 Seminar in Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。</p> <p>本講義ではまず、講義者の自己紹介も兼ねて、臨床現象学的事例研究の論文を数本読み、その形式を学びます。そのうえで、若者・家族・教育にまつわる個別具体的なトピックを取り上げている『さらにあたりまえを疑え！』を教科書として、皆で対話を重ねます。</p> <p>人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋がられるはずです。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 臨床現象学に関する論文講読①</li> <li>3 臨床現象学に関する論文講読②</li> <li>4 序章:みんなと普通に生きられること+第一章:家族の形</li> <li>5 第二章:児童虐待</li> <li>6 第三章:発達障害</li> <li>7 第四章:生きられる時空間</li> <li>8 第五章:いじめ</li> <li>9 第六章:自閉症スペクトラム障害</li> <li>10 第七章:カウンセリング</li> <li>11 第八章:不登校</li> <li>12 第九章:非行</li> <li>13 第十章:キャリア教育</li> <li>14 終章:みんなと普通に生き続けること</li> <li>15 本ゼミのまとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>対面授業を想定しているが、感染状況によってはオンライン授業になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のゼミ形式で行う。</li> <li>・受講者は事前に教科書の該当章を読み、質問(任意)とグループワークで話したいテーマ(必須)を、LMSにて提出</li> <li>・授業冒頭は、前回のリアクションペーパーへの回答、事前質問への回答を講義者より行う。(約 15 分)</li> <li>・メンバーを変えて 2 回グループワークを行う(25 分×2 回)</li> <li>・残りの時間は全体討論。テーマへの考察を深める。(約 20 分)</li> </ul>
成績評価方法	平常点(毎回の出席状況と予習課題・オンラインリアクションペーパーの提出状況)
教科書	遠藤野ゆり・大塚類 2020『さらにあたりまえを疑え！』新曜社
参考書	授業中に適宜指示します
履修上の注意・備考	<p>特になし。</p> <p>当事者意識をもった積極的な受講を期待します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09221307	担当教員	隠岐 さや香
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	月 4
講義題目	文系・理系の教育史 History of Education in Science and Humanities		

授業の目的・概要	本授業では、西洋の教育思想・教育制度に関する基礎知識として、西洋の古代から近現代までの学問観の思想および制度の歴史を扱う。具体的には、授業は主に次の二つの部分から構成される。まず、日本では「文系」「理系」、欧米では「二つの文化」といった表現で知られる二元論的な学問観の歴史的形成に寄与したと思われる諸要素を検討し、そのような学問観が実際の教育制度や研究政策とどのような関わりを持つに至っているのかを考察する(第1回～第12回)、その上で、近現代の人々が西洋由来の二元論的な学問分類概念との関わりの中で、どのような政治的・文化的な言説を育んできたのかを検討する(第12回～第14回)。
授業計画	<p>第1回 「二つの文化」論と科学史方法論—本授業の概要</p> <p>第2回 古代の学問観と学問分類</p> <p>第3回 中世ヨーロッパの大学組織</p> <p>第4回 フランシス・ベーコンと『百科全書』</p> <p>第5回 フランス革命期の教育論と科学観</p> <p>第6回 近代大学の成立—カント、フィヒテ</p> <p>第7回 自然科学の制度化—リービヒと実験教育</p> <p>第8回 社会科学の方法論論争—J. S. ミル</p> <p>第9回 新カント派の人文科学(人文学)論</p> <p>第10回 「二つの文化」論争—スノウとリーヴィス</p> <p>第11回 科学・技術イノベーション政策と大学改革</p> <p>第12回 東アジアと文系・理系</p> <p>第13回 ジェンダーと「二つの文化」</p> <p>第14回 諸科学と「有用性」をめぐる言説</p> <p>第15回 総括—学際化の時代</p>
授業の方法	基本的には講義形式で授業を行う。可能な限り授業に関する短いコメントを書く時間を設け、その内容を受けて次回授業へとつなげる。受講生数によっては、ディスカッションを取り入れる可能性はある。
成績評価方法	平常点(40%)と期末レポート(60%)の総合的評価を行う。
教科書	特に指定しない。授業時に関連資料を配付する。
参考書	<p>隠岐さや香『文系と理系はなぜ別れたか』星海社新書、2018年</p> <p>C. P. スノウ『二つの文化と科学革命』松井巻之助訳、みすず書房、2011年(1967年初版)</p> <p>ガイ・オルトラノ『「二つの文化」論争 戦後英国の科学・文学・文化政策』みすず書房、2019年</p> <p>塚原東吾・綾部広則・藤垣裕子・柿原泰・多久和理実編『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房、2022年</p> <p>その他、各回ごとに参考文献を提示する。</p>
履修上の注意・備考	受講にあたり、一般教養レベルの世界史の知識はあった方がよいですが、細かい知識は必要ありません。不安な場合は参考文献の『文系と理系はなぜ分かれたか』を読めばだいたいの流れはわかります。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09221401	担当教員	片山 勝茂
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	道徳と教育 Morality and Education		
時限	木 2		

授業の目的・概要	<p>「道徳と教育」をテーマに、道徳教育に関する近年の動向及び理論・歴史・実践についての知識・理解や、人間の道徳性についての近年の研究への知識・理解を得るとともに、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点から多様な道徳教育の授業を実践し、批評する能力を身につけ、現代の道徳と教育に関わる問題について(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、道徳科の学習指導案の実例と作成のポイント</li> <li>2. 道徳の原義と本質、道徳と道徳を教えることへの疑い</li> <li>3. 日常生活における道徳、道徳教育の目的—道徳教育及び道徳科の目標としての道徳性</li> <li>4. 道徳教育の基本とよくある指導法の問題点、「考え合うことができる」発問</li> <li>5. 道徳授業の経験のふりかえり、オリジナルな道徳授業の作成—教材の開発と活用</li> <li>6. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」①学習指導要領改訂の経緯と道徳科の主な内容</li> <li>7. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」②指導計画の作成と道徳科の評価</li> <li>8. いじめについて—いじめの定義の変遷とその背景、いじめの理解</li> <li>9. いじめの未然防止、ケアの共同体としての学校</li> <li>10. 道徳(性)はいかにして変化するのか、情報モラル</li> <li>11. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①戦前・戦後 20 年のモラル、修身科、教育二関スル勅語</li> <li>12. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①国定修身教科書、国民学校と太平洋戦争下の教育</li> <li>13. モラルジレンマ授業と道徳的判断の理由づけの発達(模擬授業の実施)</li> <li>14. 問題解決型の道徳授業、モラルスキルを育成する道徳授業(模擬授業の実施)</li> <li>15. エンカウンターと価値の明確化による道徳教育(模擬授業の実施)、まとめと解説</li> </ol>
授業の方法	<p>講義による。ただし、(新型コロナウイルスの感染状況によるが)できる限りワークショップ形式を取り入れ、(アイスブレイクなどを活用した)参加体験型学習を体験してもらう予定である。また、模擬授業を実施し、相互批評を行うことも予定している。</p>
成績評価方法	<p>試験は行わない。毎回の授業で提出するワークシート、期末レポート及び授業中の発表を合わせて総合的に評価する。期末レポートは二つをまとめた形での提出を求める予定である。一つは授業で扱った事柄をテーマに 2,000 字程度で論じたものとする。もう一つは、道徳の学習指導案を提出してもらう予定である。</p>
教科書	<p>文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』教育出版(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。</p>
参考書	<p>荒木紀幸編(2017)『考える道徳を創る 中学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書。          尾高正浩(2006)『「価値の明確化」の授業実践』明治図書。          永田繁雄編(2017)『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所。          中戸義雄・岡部美香編著(2005)『道徳教育の可能性—その理論と実践』ナカニシヤ出版。          ジョナサン・ハイト(2014)『社会はなぜ左と右にわかれるのか—対立を超えるための道徳心理学』紀伊国屋書店。          林泰成編(2011)『中学校 道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム』明治図書。          ポール・ブルーム(2015)『ジャスト・ベイビー—赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』NTT 出版。          桃崎剛寿(2008)『「中学生を変えた」奇跡の道徳授業づくり』日本標準。          桃崎剛寿(2016)『スペシャリスト直伝 中学校道徳授業成功の極意』明治図書。          諸富祥彦編(2014)『ほんもののエンカウンターで道徳授業 中学校編』明治図書。</p>

柳沼良太編(2017)『子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業 事例集 中学校』明治図書。  
ヨーロッパ評議会(2006)『人権教育のためのコンパス[羅針盤]—学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル』明石書店。  
ヨーロッパ評議会(2009)『コンパシット[羅針盤]—子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』人権教育啓発推進センター。  
渡邊満他編(2016)『シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 1 「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育』北大路書房。  
その他、講義において指示する。

**履修上の注意・備考**

授業で使用するスライドと配布資料(教材)は前日までに ITC-LMS を通じて配布します。事前にダウンロードしておいてください。印刷する必要はありませんが、できるかぎり自分用の情報端末(ノートパソコン)を持参して、手元で見られるようにしてください。  
授業中にコメントシート(課題)に取り組んでもらう時間を取ります。その場で取り組めるように、やはりできるかぎり自分用の情報端末(ノートパソコン)を持参してください。  
正当な理由があって欠席する人は配慮するので、ITC-LMS で通知する欠席連絡フォームに記入すること。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09221402	担当教員	大塚 類		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	臨床教育現象学概論 Introduction to Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。</p> <p>本講義では毎回、若者・家族・教育にまつわる個別具体的な事例を取り上げます。講義者が体験したり見聞きしたりした出来事だけではなく、マンガ、エッセイなども事例として取り上げる予定です(参考資料参照)。人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずです。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察を通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 私たちが囚われている「あたりまえ」の枠組み:フッサール「間主観性」とハイデガー「世間」</li> <li>3 自分の可能性を選びほぐす:ハイデガー「可能性」</li> <li>4 「当事者」とは誰か?:当事者研究と当事者性の問題について考える</li> <li>5 現代家族と過保護:「毒親」と「心の穴」</li> <li>6 虐待親が語る虐待:ナラティブ・アプローチ</li> <li>7 他者は理解できるのか①:フッサール「感情移入」</li> <li>8 他者は理解できるのか②:空気を読む・雰囲気に基づく他者理解</li> <li>9 つながり孤独:現象学における「他者」</li> <li>10 愛するとはどういうことか:模図かずおから学ぶ</li> <li>11 教育／ケアがはらむ独善性と暴力性:認識の変容をめぐる</li> <li>12 場面緘黙と学校の規範が生み出すリズム</li> <li>13 語ることの功罪①:癒しとしての語り</li> <li>14 語ることの功罪②:語りを強要すること</li> <li>15 総括</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の人数にもよるが、講義形式で行なう。</li> <li>・毎授業の導入では、前回の授業における受講者からのリアクションペーパーへの回答を行う。</li> <li>・そのうえで、当該授業のテーマと具体的事例ならびに考察を提示する。</li> <li>・テーマによっては、授業中に受講者同士のディスカッションの時間を設ける</li> <li>・授業後受講者はオンラインリアクションペーパーを提出する。</li> </ul>
成績評価方法	平常点(登録人数が100名を超えた場合毎授業後のリアクションペーパーで出席を管理する)と期末レポート
教科書	特に指定しない。
参考書	<p>W.ブランケンブルク 1978『自明性の喪失』みすず書房</p> <p>遠藤野ゆり・大塚類 2014『あたりまえを疑え!』新曜社</p> <p>M.ハイデガー 2003『存在と時間』中央公論新社</p> <p>穂村弘 2009『世界音痴』小学館</p> <p>E.フッサール 2001『デカルト的省察』岩波書店</p> <p>村上春樹 2007『東京奇譚集』新潮社</p> <p>村上靖彦 2017『母親の孤独を回復する』講談社</p>



野口裕二 2002『物語としてのケア』医学書院

楳図かずお 1995『おろち』秋田書店

**履修上の注意・備考**

当事者意識をもった積極的な受講を期待します。

Zoom でのオンライン授業になるか、対面授業になるか、ハイブリッドになるかは、2022 年 4 月段階での大学警戒レベル等によります。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09221403	担当教員	三澤 紘一郎		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	分析的教育哲学特論 Analytic Philosophy of Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>本科目は、教育哲学の意義と役割について検討する。1960年代に成立した英国教育哲学の展開の中で鍵となった議論を主にとりあげ、それらの議論を吟味することを通して、受講生が哲学と教育の、あるいは自身が専門的に学んでいる(学ぼうとしている)学問と教育の関係について再考し、理解を深めることを目的とする。</p> <p>本科目は集中講義であるが、一つの文献につき2時限分の授業時間を使って内容を丹念に検討する。受講生には授業に臨むにあたって必ず文献(「授業計画」にある「検討文献」)を精読したうえで、自身の主張ならびに疑問点や批判点をまとめてくることを求める。</p> <p>本科目は、当時の分析哲学に大きな影響を受けて成立したために「分析的教育哲学(analytic philosophy of education)」と称される英国教育哲学の創始者の一人であるポール・ハースト(Paul Hirst)と、分析哲学とは異なるさまざまな哲学伝統に依拠しながら前者を批判したウィルフレッド・カー(Wilfred Carr)の論争(2005年)を出発点とする。「教育についての哲学」である教育哲学がどのように成立・発展してきたか、また激しい批判に対しどのように応答し、現在どのような展開を見せているかを、英国教育哲学の軸となってきた議論に着目して理解する。第10～13回の授業では、ハースト／カー論争と同時期に始まった、必ずしも言語化を伴わないレベルの人間行為をめぐる、ヒューバート・ドレイファス(Hubert Dreyfus)とジョン・マクダウエル(John McDowell)の哲学論争を討究対象とし、哲学が人間理解になし得る貢献についても検討課題とする。</p>
<b>授業計画</b>	<p>教育哲学の意義と役割について、英国教育哲学の主要な議論・論争を中心に検討する。受講生の理解度や関心に応じて、以下のスケジュールは変更される可能性がある。</p> <p>(第1日目)</p> <p>第1回: 導入—英国教育哲学(分析的教育哲学)の勃興・展開・批判(参考文献: Wilfred Carr (2004) <i>Philosophy and education</i>. <i>Journal of Philosophy of Education</i>, 38(1), pp. 55–73.)</p> <p>第2-3回: 教育哲学をめぐる論争(検討文献: Paul Hirst and Wilfred Carr (2005) <i>Philosophy and education—a symposium</i>. <i>Journal of Philosophy of Education</i>, 39(4), pp. 615–632.)</p> <p>(第2日目)</p> <p>第4-5回: 狭義の教育哲学・広義の教育哲学(検討文献: Paul Standish (2007) <i>Rival conceptions of the philosophy of education</i>. <i>Ethics and Education</i> 2(2), pp. 159–171.)</p> <p>(第3日目)</p> <p>第6-7回: 分析的教育哲学の古典(検討文献: Paul Hirst (1965) <i>Liberal education and the nature of knowledge</i>. In: Dearden, R.F., Hirst, P.H. and Peters, R.S. (Eds.) <i>Education and the Development of Reason</i>. London: Routledge &amp; Kegan Paul, pp. 391–414.)</p>

第 8-9 回: 分析的教育哲学の新たな展開 (検討文献: David Bakhurst (2020) Teaching and learning: epistemic, metaphysical and ethical dimensions—introduction. Journal of Philosophy of Education, 54(2), pp. 255–267.)  
 (第 4 日目)

第 10-11 回: 人間行為と知覚をめぐる論争 (現象学と分析哲学)I (検討文献: Hubert Dreyfus (2005) Overcoming the myth of the mental: how philosophers can profit from the phenomenology of everyday expertise. Proceedings and Addresses of the American Philosophical Association, 79(2), pp. 47–65.)

第 12-13 回: 人間行為と知覚をめぐる論争 (現象学と分析哲学)II (検討文献: John McDowell (2009) What myth? In: McDowell, J. The Engaged Intellect. Cambridge, MA: Harvard University Press, pp. 308–323.)

<b>授業の方法</b>	演習形式。
<b>成績評価方法</b>	1. 授業へのとりくみ(事前準備・議論への参加等): 50% 2. 最終レポート(レポート課題は授業内に指示する): 50%
<b>教科書</b>	教科書は使用しない。各回の検討文献は授業担当者が準備し、事前に受講生の手元に届くようにする。
<b>参考書</b>	授業中に指示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	哲学文献を英語で読み進める読解力(少なくとも忍耐力)を必要とする。 質問等は kmisawa@gunma-u.ac.jp までご連絡ください。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09221404	担当教員	小国 喜弘、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類、星加 良司		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>第一回 オリエンテーション 4月8日          &lt;教育における「バリア」&gt;</p> <p>第二回 学校というバリア(小国) 4月15日</p> <p>第三回 教育のバリアフリーとICT利用(近藤先生)4月22日          &lt;身体機能を通してみる「バリア」&gt;</p> <p>第四回 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)4月25日</p> <p>第五回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生)) 5月6日</p> <p>第六回 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生) 5月20日          &lt;語り／言葉をめぐる「バリア」&gt;</p> <p>第七回 障害者の語り(能智先生) 5月27日</p> <p>第八回 当事者研究の可能性(熊谷先生)6月3日</p> <p>第九回 当事者とは誰か——現象学的質的研究から考える(大塚先生)6月10日</p> <p>第十回 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生)6月17日          &lt;社会のひずみとしての「バリア」&gt;</p> <p>第十一回 移民の子どもから考える日本社会のバリア(額賀先生)6月24日(オンデマンド)</p> <p>第十二回 社会現象としての「障害」(星加先生)7月1日</p> <p>第十三回 「バリア」の認識論(星加先生)7月8日</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。</p> <p>zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の10分に、ITC-LMSを用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば30字以内)は、0点とすることがあります。およそ200字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoomの参加URLについては、現在のところ、この講義に固定されたURLとなっておりますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。</p> <p>バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当</p>

utbarrier.studies@gmail.com

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09221501	担当教員	片山 勝茂、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、田中 智志、大塚 類		
単位数	2.0	学 期	通年	時 限	月 1
講義題目	基礎教育学研究指導 Tutorial in Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	<p>基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。山名が教育哲学、小国が日本教育史、隠岐が西洋教育史、小玉と片山が教育人間学・教育思想、田中と大塚が教育臨床学・教育実践論を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。</p>
授業計画	<p>この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。</p> <p>第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ</p>
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
参考書	必要な文献について、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学コースで卒業論文を執筆する者は必ず登録すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222301	担当教員	日下田 岳史		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	水 2
講義題目	教育経済学 Seminar in Economics of Education				

授業の目的・概要	<p>教育に関する社会的な問題について経済という視点から考えるための理論を習得し、その理論に裏付けられた実証分析(多変量解析を含む)ができるようになることが、本講義のねらいです。実証分析にはパソコンを使います。エクセルの基本的な操作は理解しているという前提で、講義を行います。なお本講義は、社会調査士カリキュラム上の E 科目(多変量解析の方法に関する科目)に対応しています。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育と財市場</li> <li>2 教育と労働市場</li> <li>3 投資としての教育(大学教育の内部収益率の計測)</li> <li>4 人的資本投資量に影響を与える諸要因</li> <li>5 大学教育の内部収益率の計測結果の発表と討論</li> <li>6 教育収益率の計測のための回帰モデルの導出</li> <li>7 相関と回帰</li> <li>8 回帰係数の性質と仮説検定</li> <li>9 重回帰分析によるミンサー型収益率の推計</li> <li>10 大学教育の大衆化と経済的価値についての実証分析(時系列データを用いる回帰分析における系列相関への対処)</li> <li>11 進学機会を規定する様々な経路(パス解析)</li> <li>12 進学/非進学の選択の規定要因に焦点を当てた分析手法(線形確率モデルとロジスティック回帰分析)</li> <li>13 多変量解析に基づく実証分析結果の発表と討論</li> </ol>
授業の方法	<p>主な授業方法は講義形式ですが、授業計画にありますように第 5 回・第 13 回の授業は演習形式とします。第 1～4 回の授業においては、講義内容を踏まえたディカッションを、時間の許す範囲で取り入れたいと考えています。</p> <p>なお、進行状況に応じて授業計画を変更する場合があります。その場合は授業中に口頭でお知らせすると同時に、ITC-LMS の方にも掲示しておくようにします。</p>
成績評価方法	<p>提出課題の内容に基づいて成績を評価します。課題は、5 つ出題する予定です。ただし進行状況に応じて課題数を減らす場合があります。その場合は授業中に口頭でお知らせすると同時に、ITC-LMS の方にも掲示しておくようにします。</p>
教科書	指定しません。
参考書	授業各回の配付資料に記載します。
履修上の注意・備考	<p>ノートパソコンを教室に持参するようお願いする場合があります。エクセルの基本的な操作は理解しているという前提で、講義と演習を行います。</p> <p>なお、履修者の皆さんが課題に取り組むにあたり、HAD という無料のアプリケーションを使ってもらう場合があります。このアプリケーションは、Mac のパソコン上では上手く動作しない場合があります。このため、HAD を使う場合は Windows のパソコンの使用を推奨します。もし Windows のパソコンを使える環境が無い場合は個別に対応しますので、メールでご相談ください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222302	担当教員	本田 由紀		
単位数	2.0	学 期	S1	時 限	火 4, 金 4
講義題目	日本社会の変容と課題 Change and Problems of Japanese Society				

授業の目的・概要	<p>日本社会の変容と課題について、様々な文献やデータを読み取ることを通じて、現在の日本社会の特徴と求められる対策について認識を深める。</p> <p>一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。</p>
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーションと講義(「学校の学びはどう変わるべきか」)</p> <p>第2回:講義(「メリトクラシーを弱毒化する」)</p> <p>第3回:教育と貧困</p> <p>第4回:教育政策</p> <p>第5回:進路選択とジェンダー</p> <p>第6回:「能力」の形成・構築</p> <p>第7回:労働市場・働き方</p> <p>第8回:家族形成</p> <p>第9回:子育て</p> <p>第10回:社会保障</p> <p>第11回:社会意識</p> <p>第12回:差別と排除</p> <p>第13回:ふりかえりと期末課題構想発表</p>
授業の方法	<p>文献を講読し、履修者間で議論することにより、現代日本社会の現実と問題点について知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。</p> <p>授業で得た知識をふまえ、中間課題・期末課題を課す。</p>
成績評価方法	<p>授業時に提出する講読票、中間課題、期末課題を5:2:3の比率で評価する。</p>
教科書	<p>文献等は本授業の初回で提示する。</p>
参考書	<p>本田由紀『「日本」ってどんな国?』ちくまプリマー新書、2021年</p> <p>本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年</p> <p>本田由紀『社会を結びなおす』岩波ブックレット、2014年</p> <p>本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009年</p>
履修上の注意・備考	<p>現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。</p> <p>対面(オンラインも併用)</p>
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09222303	担当教員	本田 由紀		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育社会学理論演習 Seminar on Theories of the Sociology of Education				

授業の目的・概要	この授業では、古典から最新のものまで(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:社会学とは何か 第3回・第4回:デュルケム 第5回・第6回:ジンメル 第7回・第8回:ウェーバー 第9回・第10回:パーソンズ 第11回・第12回:マートン 第13回・第14回:ルーマン 第15回:全体の振り返りとまとめ
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。それに加えて各回の担当者が詳細なレジメを作って発表し、その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	佐藤俊樹『社会学の方法—その歴史と構造』ミネルヴァ書房 奥村隆『社会学の歴史 I』有斐閣アルマ
参考書	各回に関する参考文献を前回までに提示する。
履修上の注意・備考	事前に「教育社会学概論」を履修していることが望ましい。 社会学史の幹となる「巨人」たちの思考方法をたどることにより、社会学という学問の固有の特性を理解することができる内容であるため、社会学系の大学院への進学を考えている者はもちろん、幅広い社会科学系の学問分野および仕事分野の基礎教養として役立つ。 対面(オンラインも併用)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09222304	担当教員	福留 東土
単位数	2.0	学期	S2
		時限	木 3,木 4
講義題目	教育社会科学演習 Seminar in the Education and Social Science		

授業の目的・概要	<p>本授業では大学の教育に焦点を当てる。大学を含めた高等教育段階の教育研究は、伝統的な教育学において主要な研究対象ではなかったが、ここ 30 年ほどで大きく研究が進展した分野である。本授業の担当教員は、普段、大学院の「大学経営・政策コース」の教育を担当しているが、その知見を学部教育に反映させ、学部生向けに編成した授業を行う。</p> <p>本授業の主要な目標は、受講生各自の大学生生活の経験に立脚しながら、各自が自分の視点から、大学での学習や大学生生活の意義を捉えることができるようになることである。各自の学習や学生生活を考える材料として、それらを支える教育とカリキュラム、学生支援、歴史的・比較的視点を取り上げる。</p> <p>また、特にコロナ禍の大学教育、および学生生活の変容を取り上げる。</p> <p>もうひとつ、この授業で重視するのは、大学院生・大学職員と学部生との対話である。相互にとって学びの機会になると思う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学教育を巡る論点</li> <li>2. データから見る大学と大学教育</li> <li>3. 大学教育のカリキュラム</li> <li>3. 国際比較の視野から見た大学教育</li> <li>4. 歴史的視野から見た大学教育</li> <li>5. 学生生活と大学生の経験</li> <li>6. 学部・専攻の決定過程</li> <li>7. 学生の経済支援: 授業料と奨学金</li> <li>8. コロナ禍の大学と大学教育</li> <li>9. 大学院生・職員の目から見た学部教育</li> </ol>
授業の方法	講義、学生間のグループディスカッション、大学院生・職員、受講生の発表と意見交換を中心に行う。
成績評価方法	授業への参加と貢献、期末レポートによる。
教科書	授業時に配布する。
参考書	<p>大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018 年。</p> <p>小方直幸編『大学マネジメント論』放送大学、2020 年。</p> <p>福留東土・戸村理・蝶慎一編(2021)『教養教育の日米比較研究』高等教育研究叢書第 158 号、2020 年。</p> <p>他、授業時に提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>できるだけ学生参加型の授業編成とするので、授業に積極的に参加すること。また、要望があれば担当教員に伝えること。</p> <p>受講を決めたら Google Classroom への登録を済ませること(開講前に登録しても可)。</p> <p>授業はすべてハイフレックス方式(受講生は対面でもオンラインでも受講可)で実施する予定である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222305	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	<b>教育行政調査演習Ⅲ</b> Seminar in Field Research on Educational Administration III				

<b>授業の目的・概要</b>	自治体や学校をフィールドとした調査および実証分析の方法の基礎を学び、教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定し、演習Ⅳ(A1・A2)での調査に向けて計画を立てる。教育行政調査演習Ⅳと併せて履修することが望ましい。
<b>授業計画</b>	<p>質的・量的な調査および分析手法の基礎を学んだ上で、演習Ⅱでの調査に向けてテーマ設定・調査の企画を行う。授業の実施形態については原則としてオンラインで実施する。ただし、いずれかの回(1回)で対面授業を取り入れる。</p> <p>第1回 オリエンテーション          第2回 政策リサーチの方法          第3～6回 量的研究法の基礎          第7～10回 質的研究法の基礎          第11回 実証研究の検討          第12回 研究・調査計画の設計1          第13回 研究・調査計画の設計2</p>
<b>授業の方法</b>	文献輪読・発表、討議を組み合わせで行う。
<b>成績評価方法</b>	平常点と期末レポートによる。
<b>教科書</b>	特に指定しない。文献は都度配布する。
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門 増補版』東京大学出版会。</li> <li>・佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社。</li> <li>・佐藤郁哉(2015)『社会調査の考え方(上)(下)』東京大学出版会。</li> <li>・佐藤郁哉(2021)『ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社</li> <li>・畑農鋭矢・水落 正明(2017)『データ分析をマスターする12のレッスン』有斐閣。</li> <li>・藤原文雄・露口健司・武井敦史編著(2010)『学校組織調査法』学事出版。</li> </ul>
<b>履修上の注意・備考</b>	・時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09222306	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	<b>教育行政調査演習Ⅳ</b> Seminar in Field Research on Educational Administration IV				

<b>授業の目的・概要</b>	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定する。調査結果を報告書にまとめる。
<b>授業計画</b>	テーマの設定、先行研究の検討、調査の計画・実施、データ分析、報告書の作成を小グループを単位として行う。原則として対面で授業を実施する。 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 量的調査・研究例の検討 第 3 回 質的調査・研究例の検討 第 4 回 班・テーマ設定 第 5～9 回 班での作業 第 10 回 中間発表 第 11 回 班での作業 第 12 回 班での作業 第 13 回 最終発表
<b>授業の方法</b>	グループで計画を立て、調査・分析を行う。時間割上に設定された時間以外に調査を行う場合も生じることに留意してほしい。
<b>成績評価方法</b>	出席状況と報告書による。
<b>教科書</b>	特に指定しない。
<b>参考書</b>	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。</li> <li>・教育行政調査演習Ⅲ(S1S2)を履修していることが望ましい。</li> </ul>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09222307	担当教員	村上 祐介		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	<b>教育行政・学校経営演習Ⅲ</b> Seminar in Educational Administration and School Management III				

<b>授業の目的・概要</b>	この授業では、教育行政、教育政策、学校経営に関する基本的な知識や概念について、教科書等の文献講読を通じて理解を深めることを目的とする。2 年次開講の概論科目「教育行財政学」の教育行財政分野の内容をより深める、もしくは概論では十分に扱えなかったが重要なトピックを取り上げる。
<b>授業計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に関するガイダンス</li> <li>2. 国の教育行政組織</li> <li>3. 自治体の教育行政組織</li> <li>4. 総合行政と教育行政</li> <li>5. 教育行政の政府間関係</li> <li>6. 中間のまとめ</li> <li>7. 教職員の働き方改革</li> <li>8. 学校の人材マネジメント</li> <li>9. 教育課程行政と教科書</li> <li>10. NPM とガバナンス改革</li> <li>11. 学校の組織と運営</li> <li>12. 学校評価と学校改善</li> <li>13. 全体のまとめ</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	<p>授業は基本的にオンラインで行うが、感染症の状況によって対面も 1、2 回程度行う可能性がある。初回はオンラインで行う。</p> <p>指定された文献(1 回につき 40~50 頁程度)と、回によって追加文献を指定する。</p> <p>上記の文献をあらかじめ読み、授業開始時までに A4 で半分から 1 枚程度のコメントを LMS(学習管理システム)にアップロードする。</p> <p>また、報告者を設け、報告者は 4000 字以上のコメントを執筆し、それに基づいて授業内で報告を行う。ただし受講者数によっては報告者を設けないことがある。</p> <p>授業では報告や参加者のコメントをもとに</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>毎回のコメント、報告または期末レポート、授業への参加度により評価を行う。</p> <p>授業回数の 3 分の 2 以上でコメントを提出し、かつ、(報告を課す場合は)報告を 1 回以上行うことを単位取得の要件とする。</p> <p>報告を課さない場合は、期末レポート課題の提出を行う。</p> <p>欠席した分については、2 週間以内に要約と合わせて 4000 字以上のペーパーを提出すれば、3 回までは出席とみなす。</p>
<b>教科書</b>	初回の授業で指示する。
<b>参考書</b>	勝野正章・村上祐介編著(2020)『新版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会 青木栄一・川上泰彦編著(2019)『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣
<b>履修上の注意・備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回について文献の講読とコメントの作成を事前に行うため、そのための時間を確保できることが必要である。</li> <li>・2 年次開講の概論科目「教育行財政学」を履修していることが望ましいが、必須ではない(初学者でも履修可)。</li> </ul>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09222308	担当教員	李 正連		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	<b>社会教育学演習Ⅲ</b> Seminar in Adult and Lifelong Education III				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>本授業のテーマは、「教育福祉と社会教育・生涯学習」とする。近年拡大しつつある社会格差やさまざまな社会的排除の問題を受け、それらの問題を教育の側面からとらえ、生涯学習を基盤とした教育福祉による社会的包摂の可能性を考える。</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 オリエンテーション&amp;「学び」とは何か、教育福祉について考える。</p> <p>第2回 問題の所在(第1章～第4章)</p> <p>第3回 実践の諸相(第5章～第8章)</p> <p>第4回 実践から学ぶ①実践現場の見学</p> <p>第5回 課題と展望(第9章～第12章)</p> <p>第6回 実践から学ぶ②ゲストスピーカーによる特別講義</p> <p>第7回 全体のまとめ(第13章)</p>
<b>授業の方法</b>	<p>指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。また、実践現場にも出向き、見学する予定である。</p> <p>なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>演習への参加度、課題(発表と講読表、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。</p>
<b>教科書</b>	<p>岩槻知也編著『社会的困難を生きる若者と学習支援—リテラシーを育む基礎教育の保障に向けて』明石書店、2016年 その他、授業で随時提示する。</p>
<b>参考書</b>	<p>授業で随時紹介する。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>初回の授業では発表の順番や履修方法について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</p> <p>授業での積極的な発言・参加を求める。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09222309	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2.0	学 期	A2	時 限	月 1, 月 2
講義題目	社会教育学演習 I Seminar in Adult and Lifelong Education I				

授業の目的・概要	現在、地域に伝わる伝統、伝承文化の掘り起こしの活動への注目が高まっている。文化の継承や創造を通じ、地域の人々のつながりを豊かにしていく営みを支えるのも、社会教育の重要な課題である。その視点はどのように培われてきたのか。また、それをめぐる現在の教育・文化施設や行政の課題は何か。「民藝」関係の文献を読みながら、また表現文化、街並み、食文化、工芸等、多様な文化の広がりをとらえながらこの問題について考えたい。受講者自身がこの問題についてどう考え、関わるか、という意見交換も積極的にやりたい。
授業計画	文献購読に関しては、毎回授業開始時までには A4 用紙 1～2 枚程度のコメントシートを作成、発表する。
授業の方法	対面形式による文献購読を基本とするが、感染症の動向等により困難な場合は、オンラインで行う。また、感染症の動向をみながら、近隣社会教育施設へのフィールドワーク、社会教育関係者のゲスト講義等も織り交ぜる。
成績評価方法	出席および授業への参加状況により判断する。
教科書	柳宗悦『民藝四十年』岩波文庫、1984 浅川巧著、高崎宗司編『朝鮮民芸論集』岩波文庫、2003
参考書	『月刊社会教育』（旬報社刊）連載中「暮らしと表現空間」 ほか授業内で適宜示す。
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222310	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1.0	学期	通年	時限	金 6
講義題目	博物館学特別研究 Special Studies in Museum Activities				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	実習は、事前のガイダンス、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。 授業初回の時限にガイダンスを行うので(オンラインで実施する)、履修希望者は必ず参加すること。その日の参加が難しければ、ICT-LMS 上にアップロードするガイダンス資料を熟読し、履修登録期間内に担当教員(新藤)までメールを送ること。
授業の方法	実習先については、「関連ホームページ」に掲載された館については紹介可能だが、それ以外は自身で探すものとする。実習期間だけでなく、学内で行う事前事後の指導も合わせて出席することが求められる。
成績評価方法	実習、事後指導への出席、実習後の報告、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書	使用しないが、以下の「博物館実習ガイドライン」を参照。 <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf</a>
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修するには、原則として前年に、博物館概論(教育学部)、文化施設経営論(文学部)、博物館資料論(文学部)、博物館資料保存論(理学部)、博物館教育論(教育学部)、博物館展示論(文学部)、博物館情報・メディア論(教育学部)のうち最低二つを受講していることが必要である。詳細は相談に応じるので、これらの科目未履修者は個別に問い合わせること。</li> <li>・不明点等はメールにて問い合わせること。</li> <li>・感染症の状況により、実習先を見つけることや実習の遂行が以前よりも困難になっている。実習が確定したあと中止になる場合も出ているため、実習先探しは早めに行うこと。</li> <li>・実習の際は、感染症対策に十分留意し、実習先の指示に従うこと。</li> </ul>
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09222311	担当教員	山田 翔平		
単位数	2.0	学 期	A2	時 限	金 3, 金 4
講義題目	情報組織論演習 Seminar in Information Organisation				

授業の目的・概要	<p>伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の 2 つの中心であった。21 世紀、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代になって、目録、分類を初めとする情報組織化の理論と実践は発展し、ますます重要になっている。</p> <p>本授業のテーマは、分類やインデクシング(索引語付与)など、主題分析に基づいた情報組織化である。本授業の目的は、主題分析に基づいた情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および主題分析の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した主題目録法(分類法・件名法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつあるインデクシングの理論と技法を学ぶパートから構成される。(3)では、分類・インデクシングという行為の形式化の問題や技術的な動向、理論的限界の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を行う予定である。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報組織化と図書館</li> <li>2. 分類(1): 区分則 [実習を含む]</li> <li>3. 分類(2): 生物と知識の分類</li> <li>4. 分類(3): 日本十進分類法(NDC)の概要 1 [実習を含む]</li> <li>5. 分類(4): NDC の概要 2</li> <li>6. 分類(5): NDC の詳細 1 [実習を含む]</li> <li>7. 分類(6): NDC の詳細 2</li> <li>8. 分類(7): NDLC・DDC・UDC・CC [実習を含む]</li> <li>9. 索引(1): 語彙統制</li> <li>10. 索引(2): 基本件名標目表(BSH)[実習を含む]</li> <li>11. 索引(3): 件名・シソーラス</li> <li>12. 索引(4): インデクシング</li> <li>13. 分類・索引の自動化</li> <li>14. まとめ[実習を含む]</li> </ol>
授業の方法	基本的に講義形式で行うが、必要に応じて実習を行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回授業資料を配布する予定である。
成績評価方法	授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。
教科書	使用しない。毎回オリジナルの資料を配付する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根本彰著『文献世界の構造』勁草書房、1998.</li> <li>・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東大出版会、2013.</li> </ul> <p>これらのほかは授業中に随時紹介する。</p>
履修上の注意・備考	本講義は司書資格のための必修科目である。しかし、司書資格の取得をめざさない学生も、体系的な理解のためには「情報組織論」(隔年開講)を合わせて履修することが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222312	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学 期	S1	時 限	火 1, 火 2
講義題目	教育方法学演習 I Seminar of Research on Teaching and Curriculum I				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>[授業の目標]</p> <p>この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究方法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。</li> <li>2. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関して、研究課題を設定し、探究する。</li> <li>3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方、文献収集の方法等を身につける。</li> <li>4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。</li> <li>5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。</li> </ol> <p>[授業の概要]</p> <p>教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教師研究、教育内容研究、教育評価研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、評価などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、授業観察を中心としたフィールドワークや、文献調査、インタビュー調査等を行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 教育実践の課題 授業・教師・カリキュラム・教育内容・教育評価</p> <p>第2回 教育実践の研究手法(1) フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法)</p> <p>第3回 教育実践の研究(1)フィールドワーク</p> <p>第4回 教育実践の研究(2)報告会①</p> <p>第5回 教育実践の研究手法(2) 歴史研究・ナラティブ研究</p> <p>第6回 教育実践の研究(3)文献調査</p> <p>第7回 教育実践の研究(4)報告会②</p>
<b>授業の方法</b>	<p>第1回は、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。</p> <p>第2回～第7回は、主として教育研究の方法を学び、調査とその報告を行う。</p>
<b>成績評価方法</b>	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。
<b>教科書</b>	指定しない。
<b>参考書</b>	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法: 15 の事例にみる学校教育実践研究』東京図書</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究: 20 の事例にみる教師研究方法論』東京図書</p> <p>浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く: 教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書</p> <p>秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(共編)『教育研究のメソドロジー: 学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会</p> <p>佐藤学『教育方法学』岩波書店</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会</p> <p>このほか、授業中に紹介する。</p>

**履修上の注意・備考**

本授業は、S1 タームに開講される2時間連続の授業である。

情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をするようになるので、注意されたい。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09222313	担当教員	佐久間 亜紀		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 4
講義題目	高等教育の社会学 Sociology of Higher Education				

授業の目的・概要	日本では、教員養成を大学でおこなうことが戦後の原則とされてきたが、いまこの原則が揺らいでいる。教員の養成・採用・研修という教師教育の各段階において、大学に求められる役割が変容しているからである。この講義では、高等教育段階における教員養成について、何がどのように問題とされてきた／いるのかを、同様の問題に直面しているアメリカ合衆国の状況と比較しながら探究し、今後の展望について参加者と議論する。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 日本の学校教育・教師の現状(1)現職教員へのインタビュー</p> <p>第3回 日本の学校教育・教師の現状(2)教員の不足の実態とその理由</p> <p>第4回 日本の教員養成改革(1)教員免許制度・研修制度の改革</p> <p>第5回 日本の教員養成改革(2)教員養成カリキュラムの改革</p> <p>第6回 日本の教員養成改革(3)教員養成学部・大学院の改革</p> <p>第7回 日本の教員養成改革(4)教職の専門性をどうとらえるか？</p> <p>第8回 日本の教員養成改革(5)教員養成は平等・公正に行われているか？</p> <p>第9回 教員養成の日米比較(1)アメリカの学校教育と教職の現状</p> <p>第10回 教員養成の日米比較(2)日米の大学と教育学部の構造はどう違うのか</p> <p>第11回 教員養成の日米比較(3)アメリカの教員養成はどう展開してきたか(19世紀)</p> <p>第12回 教員養成の日米比較(4)アメリカの教員養成はどう展開してきたか(20世紀)</p> <p>第13回 教員養成と教育学部の未来—教育学部は不要か？</p>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアルタイム・対面型での実施を基本とする。この場合は、佐久間からのプレゼンテーションを中心とする回と、プレゼンテーションをもとに出された課題についてグループ・ディスカッションおよび発表を行う回とを、交互に配置する。</li> <li>・オンライン実施を余儀なくされる場合は、オンライン・リアルタイムでの双方向型授業を基本とし、場合に応じて、オンデマンド型のビデオ視聴を前提として、オンライン上でグループ・ディスカッションを実施する回を設定する。</li> <li>・いずれにせよ、Covid-19の感染状況に応じて、柔軟に授業方法を変えて実施す</li> </ul>
成績評価方法	毎回提出する小レポート(5点×13回)と最終レポート(35点)の総合点で判断する。
教科書	佐久間亜紀・佐伯胖編『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年(講義開始までに読了しておくことが望ましい)
参考書	佐久間亜紀『アメリカ教師教育史』東京大学出版会、2017年。
履修上の注意・備考	受講に際し、合理的配慮が必要な学生は、遠慮なく事前にメールで連絡してください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09222401	担当教員	藤原 翔
単位数	2.0	学 期	S1S2
講義題目	教育調査分析法 Quantitative Educational Research Methodology		
		時 限	水 3

授業の目的・概要	<p>教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目標とする。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イントロダクション</li> <li>・度数分布表</li> <li>・基本統計量</li> <li>・相関係数</li> <li>・確率モデルと統計的推定</li> <li>・統計的検定</li> <li>・平均値の差の検定</li> <li>・クロス集計と独立性の検定</li> <li>・多重クロス集計とエラボレーション</li> <li>・回帰分析</li> <li>・偏相関と重回帰分析</li> <li>・回帰モデルの説明力と検定</li> <li>・回帰分析の応用</li> </ul> <p>(以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)</p>
授業の方法	教科書の主要部分を用いて講義を行う。また SSJ データ・アーカイブで公開されているデータ(あるいは教員が独自に収集したパネルデータ)を用いた R による実習も行う。毎回、R を用いた課題を提出することが必要となる。
成績評価方法	課題レポート 60%、期末レポート 40%
教科書	杉野勇『入門・社会統計学——2 ステップで基礎から[R で]学ぶ』(法律文化社、2017 年)
参考書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第 3 版]——2 ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社、2017 年)
履修上の注意・備考	<p>「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。</p> <p>「教育社会学調査実習」を履修しない学生が多数、この講義を履修すると見込まれる場合は、受講者数の調整を行う場合がある(詳細は初回の授業で説明する)。</p> <p>この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09222402	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2.0	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	フィールドワークの理論と実践 Theory and Practice of Fieldwork				

授業の目的・概要	<p>エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。参与観察(フィールドワーク)やインタビューが中心となり、質的調査法ともいわれる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや現場のフィールドワークを演習形式で行いながら、さまざまな質的調査の方法論を習得することをめざす。</p>
授業計画	<p>第一回</p> <p>①質的調査とはなにか: 目的、意義、プロセス</p> <p>②参与観察を行う: 現場のメモからフィールドノーツへ</p> <p>第二回</p> <p>①フィールドノーツを書く: 何をどう描写するか</p> <p>②フィールドにアクセスする: 研究者のポジショナリティと研究倫理</p> <p>第三回</p> <p>①質的テキストを分析する: コーディングとグラウンデッド・セオリー・アプローチ実践</p> <p>②研究計画をたてる: 先行研究・リサーチ・クエスションの設定・フィールド/対象の選定</p> <p>第四回</p> <p>①話を聴く: インタビュー、生活史調査、ライフストーリー研究</p> <p>②《グループ・プロジェクト》テーマを設定し、インタビュー・ガイドラインの検討</p> <p>第五回</p> <p>① インタビューの技法と授業内ミニ実践</p> <p>②《グループ・プロジェクト》データ収集の進捗状況確認、コーディングの検討</p> <p>第六回</p> <p>①質的研究法を使って論文を書く: 良い質的研究論文の条件</p> <p>②《グループ・プロジェクト》次週の発表準備: コードから仮説生成へ</p> <p>第七回</p> <p>プロジェクトのグループ発表</p>
授業の方法	講義と演習を組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、課題 80%
教科書	<p>小田博志 2010 『エスノグラフィー入門—〈現場〉を質的研究する』春秋社.</p> <p>佐藤郁也 2007 『フィールドワーク増訂版—書を持って街へ出よう』新曜社.</p>
参考書	<p>エマーソン,</p> <p>R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社.</p> <p>佐藤郁也 2002『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社.</p> <p>藤田結子・北村文編 2013 『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社.</p>
履修上の注意・備考	フィールドノーツの作成やインタビューによるデータ収集と分析など、授業の課題が多いのでそのつもりで履修すること

と。積極的にディスカッションに参加することを期待する。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09222403	担当教員	萩巣 崇世
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	国際教育開発論 International Educational Development		
		時限	火 2

<b>授業の目的・概要</b>	<p>本講義では、教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味を、理論と実践の両面から考えていく。特に、現代のグローバル化する世界において、教育はどのような課題に直面しているのか、同時に、教育にはどんな役割が期待されているのかを、具体的な事例に基づいて検討していく。</p> <p>本講義は前半・後半の二部構成で展開する。第一部では、広い意味で「教育」という営みを理解した上で、教育と社会の関係を捉えていく。教育学、経済学、社会学、哲学など多方面から、「教育」を「開発」することの意味について考えとともに、国際教育開発の歴史と潮流を整理する。</p> <p>第二部では、グローバル化する世界において教育が抱える様々な課題を取り上げ、これらの課題に対してこれまでどのような国際協力・国際開発が行われてきたのか、また、教育開発が現地の人々にどのような影響を及ぼしてきたのかについて、途上国に限らず日本の事例なども取り上げて具体的に見ていく。参加者の興味関心に基づき、可能な場合には各分野の専門家の話を聞く機会も設ける。</p> <p>本講義では、知識、批判的思考、コミュニケーション、態度・行動の 4 つの領域においてそれぞれ以下のような知識とスキルを身につけることを目指す。</p> <p>知識: 教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味をふまえて、国際教育開発の歴史と潮流、実践上の課題や難しさを理解する。</p> <p>批判的思考: 世界が直面している教育課題に関心を持ち、自分自身の経験や身近な現実と結びつけて考えて説明することができる。</p> <p>コミュニケーション: 他者の意見を聞きながら自分のスタンスを明確にし、資料やデータを使って効果的に意見を表明できる(口頭およびレポート)。</p> <p>態度・行動: 授業で扱うトピックについて理解を深めたり、新しい意見や見方を学んだりするため、多様な意見を持つクラスメイトと対話し協力することができる。</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回: オリエンテーション、シラバスと評価方法の説明</p> <p>第2回: 「教育」とは何か?: 教育学的考察</p> <p>第3回: 「教育」と「社会」: 社会学的考察</p> <p>第4回: 「教育」と「経済発展」: 経済学的考察</p> <p>第5回: 「教育」と「開発」: 教育開発の歴史と潮流</p> <p>第6回: 「国際」と「教育」と「開発」: 哲学的考察</p> <p>第7回: 第一部振り返り</p> <p>第8回: 現代の教育課題①: 教育の格差</p> <p>第9回: 現代の教育課題②: 教育の質と学び</p> <p>第10回: 現代の教育課題③: 教育の内容と方法</p> <p>第11回: 現代の教育課題④: 人の移動と教育</p> <p>第12回: 現代の教育課題⑤: SDGs と教育</p> <p>第13回: 現代の教育課題⑥: 教育のグローバリゼーション</p> <p>第14回: 第二部の振り返り</p> <p>第15回: ワークショップ</p>
<b>授業の方法</b>	本講義は学生の主体的な学びを中心に進める。そのため、各自が授業前に内容をある程度理解し、自分なりの問い



	<p>や考えを持って授業に臨むことが欠かせない。授業は、それぞれが持ち寄った問いや意見を共有し、受講者同士が学び合う場となるよう、ディスカッションやグループワークを中心に進めていく。</p> <p>基本的には、毎回の講義に参加する前に指定された文献を読み、簡単なコメントペーパーを講義のグループサイトにアップする。コメントの内容は読んだ文献の筆者への質問や疑問でも良いし、文献の内容を身近な例に引きつけて考えたことでも良く、20</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>授業への参加・貢献度：20%</p> <p>コメントペーパー：30%</p> <p>レポート：50%</p>
<b>教科書</b>	<p>各回の課題文献については講義の中で提示するが、以下を本講義の主なテキストとして使用する。</p> <p>荻巣崇世・橋本憲幸・川口純編『国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論』、2021年、東信堂</p>
<b>参考書</b>	<p>黒田一雄・横関祐見子編『国際教育開発論—理論と実践』、2005年、有斐閣</p> <p>北村友人・佐藤真久・佐藤学編『SDGs時代の教育：すべての人に質の高い学びの機会を』、2019年、学文社</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>授業計画は受講者数および受講者の関心領域にしたがって変更の可能性があるので注意してください。変更がある場合には授業内で説明します。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09222404	担当教員	小川 義和		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 6
講義題目	博物館教育論 Museum Education				

授業の目的・概要	<p>博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。</p> <p>博物館教育について、博物館を利用する人々、博物館、それを取り巻く社会との関係性から考察する。博物館教育の発達とその社会的背景を紹介し、博物館教育の現代的意義を論じていく。特に従来の教育普及にとどまらない博物館教育の範囲、その独自性と学習理論、生涯学習の観点から人材養成の必要性等を概説する。これらの基礎的な知識と理論を踏まえ、変化する社会における博物館教育のあり方について実際に即して考察を深める。さらに具体的な目標論を持って博物館教育活動を企画し、評価するスキルについて演習を通じて身につけさせる。</p>
授業計画	<p>第1回 博物館教育の意義と理念(1)学びの意義</p> <p>第2回 博物館教育の意義と理念(2)博物館教育の範囲</p> <p>第3回 博物館教育の意義と理念(3)博物館教育の特徴</p> <p>第4回 博物館教育の意義と理念(4)博物館教育の歴史</p> <p>第5回 博物館教育の意義と理念(5)生涯学習の場としての博物館</p> <p>第6回 博物館教育の意義と理念(6)人材養成の場としての博物館</p> <p>第7回 博物館教育の意義と理念(7)博物館における学びの特性と学習理論</p> <p>第8回 博物館教育の意義と理念(8)ミュージアムリテラシーの理念と構成</p> <p>第9回 変化する社会における博物館教育(1)コミュニケーションとしての博物館教育</p> <p>第10回 変化する社会における博物館教育(2)博物館の利用実態と利用者の博物館体験</p> <p>第11回 変化する社会における博物館教育(3)博物館教育の方針と評価</p> <p>第12回 博物館教育の実際(1)博物館教育活動の企画と実際</p> <p>第13回 博物館教育の実際(2)博物館教育と学校教育</p>
授業の方法	<p>各回、前半は適宜資料を提示しつつ、テーマに基づく概説を行う。後半は受講生からのテーマに関する質問と議論を行い、教員がまとめる。受講生は問題を整理してテーマに関する報告を提出する。</p> <p>受講生は最終回に課題を提出する。</p>
成績評価方法	講義の出席・各回の提出報告書(6割)及び最終課題(4割)で判断する。
教科書	使用しない。
参考書	<p>ジョージハイン著、鷹野光行監訳「博物館で学ぶ」(同成社、2010)</p> <p>全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新時代の博物館学」(芙蓉書房出版、2012)</p> <p>小川義和・五月女賢司編著「挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ!」(ジダイ社、2018)</p> <p>小川義和編著「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」(ジダイ社、2019)</p> <p>小川義和・五月女賢司編著「発信する博物館 持続可能な社会に向けて」(ジダイ社、2021)</p>
履修上の注意・備考	受講生が主体的に、自主的に博物館を見学し、多様な博物館の様子を把握することをすすめる。また見学した博物館の現状や課題について講義中に共有するように心がける。なお博物館の見学料金や交通費な自己負担とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222405	担当教員	高橋 望
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	月 5
講義題目	比較教育行政論 Comparative Study of Educational Administration		

授業の目的・概要	本授業は、学校の自律性のあり方について、教育行政や教育経営の視点から考察し、理解を深めることを目標とする。学校の自律性は、教育行政学や教育経営学における重要課題の1つと言える。本授業では、1980年代後半以降、学校に多くの自律性を付与し、「自律的な学校経営」を導入・展開しているニュージーランドを事例として取り上げる。同国で展開される取り組みや経験を概説し、同時に日本の事情とも比較検討しながら、授業を構成していく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションーニュージーランドの教育制度ー</li> <li>2. 自律的な学校経営の導入①ー教育委員会と学校視学ー</li> <li>3. 自律的な学校経営の導入②ー行財政改革と教育改革ー</li> <li>4. 自律的な学校経営の導入③ー学校理事会制度ー</li> <li>5. 自律的な学校経営の展開①ー学校評価ー</li> <li>6. 自律的な学校経営の展開②ー教員評価ー</li> <li>7. 自律的な学校経営の展開③ー学校への支援ー</li> <li>8. 自律的な学校経営の展開④ー教員登録と教員研修ー</li> <li>9. 自律的な学校経営の展開⑤ースクールリーダー養成とスクールリーダーシップー</li> <li>10. 自律的な学校経営の展開⑥ー学校間連携ー</li> <li>11. 民族的多様性と学校教育</li> <li>12. 自律的な学校経営の見直し</li> <li>13. まとめ</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式を主体とするが、受講者によるディスカッションを取り入れながら構成する予定である。</li> <li>・授業内容に応じて、小課題の提出を求めることがある。</li> <li>・オンライン授業の場合も、基本的には同様とする。</li> </ul>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終課題レポート(約 60%)</li> <li>・平常点(約 40%) 平常点は、授業中の小課題、授業への参加・貢献度を総合的に評価する。</li> </ul>
教科書	特に指定しない。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石附実・笹森健編『オーストラリア・ニュージーランドの教育』東信堂、2001年。</li> <li>・青木麻衣子・佐藤博志編『第三版 オーストラリア・ニュージーランドの教育』東信堂、2020年。</li> </ul>
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国(とりわけニュージーランドやオーストラリア)の教育に関心があることが望ましい。</li> <li>・意見を求めることが多くなるので、積極的な参加が求められる。</li> <li>・初回に授業の進め方等について説明をするので、参加することを求める。</li> </ul>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ・社会教育主事 選択必修「社会教育特講」2単位

時間割コード	09222406	担当教員	淵上 孝
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	教育法 Educational Law		
時限	月 1		

授業の目的・概要	<p>我が国の教育関係法令の体系を理解しつつ、教育基本法・学校教育法をはじめとする主要な法律の構造や内容、最近の改正の動向などを学ぶことによって、今後の教育政策のあり方や教育現場が直面する重要課題への対応策について考察する上での基礎を培うことを目標とします。</p> <p>なお、授業では初等中等教育に関する法令を中心に学びますが、高等教育に関する法令等も取り上げます。</p>
授業計画	<p>※ 以下の授業計画は、全面対面授業で実施する場合を想定しています。</p> <p>オンライン授業になる場合は、変更があり得ます。</p> <p>第1回 ガイダンス、教育法規の基礎</p> <p>第2回 我が国の学校教育制度の歴史</p> <p>第3回 教育行政に関する法令</p> <p>第4回 教育財政に関する法令</p> <p>第5回 教育課程・学習内容に関する法令</p> <p>第6回 教職員に関する法令</p> <p>第7回 生徒指導(いじめ、不登校等)に関する法令</p> <p>第8回 幼児教育・保育に関する法令</p> <p>第9回 特別支援教育に関する法令</p> <p>第10回 学校安全・学校保健に関する法令</p> <p>第11回 高等学校教育に関する法令</p> <p>第12回 高等教育に関する法令(1)</p> <p>第13回 高等教育に関する法令(2)</p> <p>第14回 修了試験</p>
授業の方法	講義形式
成績評価方法	<p>対面授業の場合</p> <p>①筆記試験(60%)、②授業における議論への貢献度・出席状況、小テストやレポート(40%)に基づいて評価します。</p> <p>※全面オンライン授業となり、筆記試験が実施できない場合には別途お示しします。</p>
教科書	講師が最新の情報も含めた資料を用意します。
参考書	<p>授業では直接使用しませんが、授業内容の理解を深める上での参考図書として、以下の文献を挙げておきます。</p> <p>「逐条解説 改正教育基本法」(教育基本法研究会、第一法規)</p> <p>「逐条 学校教育法」(鈴木勲、学陽書房)</p> <p>「逐条解説 地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(木田宏、教育行政研究会、第一法規)</p> <p>「教育法講義 ― 教育制度の解説と主要論点の整理」(尾崎春樹、悠光堂)</p> <p>「新訂第5版 やさしい教育法規の読み方」(菱村幸彦、教育開発研究所)</p>
履修上の注意・備考	<p>授業は、講義形式を中心としつつ、受講者各自の興味・関心の高い部分についての発表、ディスカッション、それまでに学んだ内容をもとにしたグループ・ワークなどを適宜活用する。</p> <p>受講生は事前にシラバスを熟読し、講義全体の流れを把握するとともに、講義の中で扱われるテーマの中で、自分が主として興味関心・課題意識を持っているものは何かを考えておくこと。</p> <p>また、原則として各回の授業の3日後までに、質問・感想を提出する。</p>

講師は現役の国家公務員(文部科学省職員)であるため、受講生の中に公務員志望者がいる場合は、必要に応じ、中央官庁における行政実務や勤務の様子などについても触れたり、文部科学省の若手職員を授業に招いて懇談する機会を設けたりする予定です。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 (社)法律学(公)法律学(国際法を含む)

時間割コード	09222407	担当教員	山内 祐平		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 2
講義題目	学習環境のデザイン Design of Learning Environment				

授業の目的・概要	<p>学習環境のデザインについてデジタル教材、オンライン学習、ワークショップなどの事例研究を通じて検討する。</p> <p>知識目標:「理解や問題解決の支援」を教材として実装する方法を知る</p> <p>技能目標:教材のポイントを発表し、本質を議論する技能を身につける</p>
授業計画	<p>2022/04/06 オリエンテーション 授業の概説</p> <p>2022/04/20 デジタル教材概論 領域の概論</p> <p>2022/04/27 ゲストトーク</p> <p>2022/05/11 初等中等教育での展開 Khan Academy</p> <p>2022/05/18 高等教育での展開 Minerva Schools</p> <p>2022/05/26 幼児教育での展開 Kits</p> <p>2022/06/01 企業内教育での展開 ムビケーション</p> <p>2022/06/08 オープンエデュケーション Coursera</p> <p>2022/06/15 シリアスゲーム Minecraft</p> <p>2022/06/22 ICT を用いたプロジェクト学習 Google for Education</p> <p>2022/06/30 ゲストトーク</p> <p>2022/07/06 STEAM 教育 MakeBlock</p> <p>2022/07/13 ワークショップ CAMP</p> <p>(ゲストとの調整で一部変更の可能性があります)</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)担当グループが事例研究を行い発表する</li> <li>2)事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討する</li> <li>3)議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める</li> <li>4)教育・学習研究の概念との接続について教員が解説する</li> </ol>
成績評価方法	<p>毎回の小レポート評価(50%)</p> <p>グループの事例研究報告の評価(25%)</p> <p>グループ議論における貢献と発見(25%)</p>
教科書	山内祐平「学習環境のイノベーション」東京大学出版会、2020
参考書	<p>山内祐平編「デジタル教材の教育学」東京大学出版会、2010</p> <p>山内祐平編「学びの空間が大学を変える」ポイックス出版、2010</p> <p>山内祐平・森玲奈・安斎勇樹「ワークショップデザイン論」慶応大学出版会、2013</p>
履修上の注意・備考	<p>グループワークのため履修人数制限あり(50名)</p> <p>オリエンテーション時に50名を超えた場合には授業後に抽選を行い、落選者に連絡する。</p> <p>抽選を行った場合公平性を担保するため2回目からの履修はできないので注意すること。</p> <p>新型コロナウイルス対策のため、本授業はハイブリッド形式で行う。</p> <p>発表グループおよび発表準備指示グループなど最大16名までが教室から参加、その他の学生はZoomで参加する。</p> <p>各種資料の提供およびレポート提出はICT-LMSで行うため、そちらも履修登録を行うこと。</p> <p>4月6日(水)10:30よりZoomでオリエンテーションを行いません。</p>

参加する際には以下のアドレスにアクセスしてください。

Zoom ミーティングに参加する

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/87841186119>

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09222408	担当教員	妹尾 涉		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 6
講義題目	教育政策の計量分析入門 Introduction to Quantitative Analysis of Education Policy				

授業の目的・概要	教育に関して集められたデータについて、どのような統計的な処理を利用すると、なにが明らかになるのか、そしてそこから何が言えるのか、また、逆になにが言えないのか、について、実践的に学びます。最終的な目標は、教育に関するデータの収集から効果の測定とその解釈までが自分一人で実践できるようになることです。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Rの使い方</li> <li>2 記述統計</li> <li>3 層別分析・可視化</li> <li>4 t検定</li> <li>5 分散分析・多重比較</li> <li>6 効果量</li> <li>7 相関分析</li> <li>8 回帰分析①</li> <li>9 回帰分析②</li> <li>10 回帰分析の応用</li> <li>11 ロジスティック回帰分析</li> <li>12 因子分析</li> <li>13 その他の応用分析</li> </ol>
授業の方法	<p>講義では、まず、統計ソフト(フリーソフト)の R のインストールとそのプログラミングの基礎について学びます。次に、データの集計方法、図表の作成、といった統計の基礎的な処理の方法について学びます。最後に、より高度な統計分析の手法について学びます。</p> <p>毎回の講義では、最初に教科書の該当部分の解説を行い、その後に実際のデータを用いて各自の PC で分析を行います。</p>
成績評価方法	毎回の課題の提出(80%)と最終レポートの提出(20%)
教科書	小林雄一郎・濱田彰・水本篤(2020)『Rによる教育データ分析入門』オーム社
参考書	浅野正彦・矢内勇生(2018)『Rによる計量政治学』オーム社
履修上の注意・備考	授業の参加にあたって、Rの使える PC(windows, MacOS, Linux のいずれかの OS がインストールされたもの)を各自で用意すること。
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09222409	担当教員	斎藤 兆史		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 3
講義題目	英語教授法・学習法概論 An Introduction to Methodologies for Teaching and Learning English				

授業の目的・概要	英語の教授法と学習法を学ぶことにより、日本における英語教育・学習に対する認識を深め、英語教師として、あるいは英語学習者として効果的な活動ができるようにする。発展的に、ほかの言語や科目の教育・学習法も自ら研究させることにより、学習者の視点に立った指導法を身につけられるよう方向付ける。
授業計画	<p>まず、英語がどのように世界に広まり、いかにして教授・学習されるに至ったかを概観したのち、日本における英語教育・学習の歴史を時代別に見ていく。つぎに、いままで実践されてきた主な英語教授法を紹介・検討したのち、発音、文法、読解、聴解、作文、会話などの学習項目別に英語教授・学習法を分析していく。最後に、日本における英語教育・学習のあり方について議論する。毎回のテーマは以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入</li> <li>2 英語小史</li> <li>3 英語の拡散と多様性</li> <li>4 日本の英語教育・学習史1(幕末)</li> <li>5 日本の英語教育・学習史2(明治)</li> <li>6 日本の英語教育・学習史3(大正・昭和前期)</li> <li>7 日本の英語教育・学習史4(昭和後期～現在)</li> <li>8 英語教授法</li> <li>9 英語学習法1(発音)</li> <li>10 英語学習法2(文法・読解)</li> <li>11 英語学習法3(聴解)</li> <li>12 英語学習法4(会話／作文／その他の独習法)</li> <li>13 第二言語習得論再考</li> </ol>
授業の方法	まず講義形式で英語教育・学習の歴史、理論、事例を紹介したのち、それぞれの回のテーマについて議論をし、それについての理解を深める。
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み、最終試験もしくはレポート(履修者の人数によってどちらかを定める)を総合的に見て評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	配布されたプリントに基づいて予習をし、問題意識を持って授業に臨むこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222410	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	博物館概論 Introduction to Museum Studies				

授業の目的・概要	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。また、博物館以外の文化・教育施設(公共ホール、公民館、図書館等)、文化的な活動が生起する空間も視野に入れる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 博物館学の目的・方法・構成</li> <li>3. 博物館という思想</li> <li>4. 博物館の定義</li> <li>5. 博物館史(1)古代ギリシア～17世紀</li> <li>6. 博物館史(2)ペーコン～19世紀</li> <li>7. 博物館史(3)文明のなかの博物学</li> <li>8. 博物館史(4)近代日本の博物館</li> <li>9. 博物館と社会</li> <li>10. 記憶の場所としての博物館(1)想起について</li> <li>11. 記憶の場所としての博物館(2)東京大学との関わり</li> <li>12. 体験・触発・教育</li> <li>13. 参加と創造の支援／情報・身体・機会</li> <li>14. 博物館をとりまく人</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
授業の方法	オンライン講義とする。感染症の状況を勘案しつつ、見学等をおりませることも検討する。
成績評価方法	試験もしくは最終レポート(50%)および授業中に出す課題(50%)による。
教科書	特に使用しない。
参考書	<p>中小路久美代・新藤浩伸・岡田猛・山本泰裕編『触発するミュージアム』あいり出版、2016</p> <p>ミハヤエル・パーモンティエ著、眞壁宏幹訳『ミュージアム・エデュケーション 感性と知性を拓く想起空間』慶應義塾大学出版会、2012年</p> <p>その他授業中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>一口に博物館といっても館種も領域も多岐にわたるため、自分自身の専門領域を超えて幅広く関心を持って頂きたい。</p> <p>ICOM: The International Council of Museums  <a href="http://icom.museum/">http://icom.museum/</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222411	担当教員	福島 幸宏		
単位数	2.0	学 期	A2	時 限	木 4, 木 5
講義題目	図書館・博物館情報メディア論 Information Media in Library and Museum				

授業の目的・概要	図書館・博物館等に情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、図書館・博物館等の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。その際、現場の実態を提示するとともに、様々な場面で情報を活用するための重要となる知的財産権や情報倫理についても言及する。また、情報メディアをその歴史性から検討する視野を持つことも目標とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料と情報-その過去と現在</li> <li>2. 資料と情報-その未来</li> <li>3. 文化資源をめぐる関係制度・法制</li> <li>4. 図書館・博物館等の資料管理システムと web サイト</li> <li>5. デジタル化作業の実際</li> <li>6. 図書館・博物館等の情報の流通と連携</li> <li>7. 文化資源を拓く</li> </ol>
授業の方法	講師による講義を基本とするが、随時受講者からの発言を求めるとともに、各偶数回ごとに意見等の提出を求める。
成績評価方法	授業中の発言等を通じての授業への参加(10%)、レポート(90%)を総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	「アーカイブ立国宣言」編集委員会編 2014『アーカイブ立国宣言』(ポット出版) 植村八潮・柳与志夫編 2017『ポストデジタル時代の公共図書館』(勉誠出版) 岡田一祐 2019『ネット文化資源の読み方・作り方』(文学通信) 時実象一 2015『デジタルアーカイブの最前線』(講談社ブルーバックス) 長尾真 1994『電子図書館』(岩波書店)(新装版は 2010) 日本図書館情報学会用語事典編集委員会編 2020『図書館情報学用語事典 第 5 版』(丸善出版) 庭田杏珠・渡邊英徳 2020『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』(光文社) 蛭田廣一 2019『地域資料サービスの実践』(日本図書館協会) 福井健策監修・数藤雅彦責任編集 2019『権利処理と法の実務』(勉誠出版) NPO 知的資源イニシアティブ編 2011『デジタル文化資源の活用ー地域の記憶とアーカイブ』(勉誠出版) ポールフリー, ジョン、雪野あき訳 2016『ネット時代の図書館戦略』(原書房)
履修上の注意・備考	様々な図書館・博物館等の動向を取り上げて講義を行うので、平素からさまざまな図書館・博物館等の動向に注視し、その情報発信の状況に関心を持っておくこと。特に国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル <a href="https://current.ndl.go.jp/">https://current.ndl.go.jp/</a> を毎日チェックすることが望ましい。 講義内容は進行状況によって前後する場合がある。 また、状況によっては近隣施設への見学やゲスト講師の登壇を計画する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222412	担当教員	藤原 章夫		
単位数	2.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	生涯学習政策論 Study on Lifelong Learning Policy				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>“人生 100 年時代”、“Society5.0”、“SDGs”といった言葉に象徴されるように、社会が大きく変化する中で、一人ひとりの生涯を通じた学びの在り方も変わっていく。</p> <p>知識基盤社会 (Knowledge-based society) では、私的・公的の両面において生起する様々な課題に対処するために「学び」が不可欠となる。特に人生 100 年時代には、「高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会」を目指す必要があり、その重要な鍵となるのが生涯学習社会の実現である。</p> <p>また、社会のデジタル化における急激な変化の中で、時間的・空間的な制約を超えた学びがより一般的になることが予想され、社会教育が重点的に果たすべき役割についても再検討が必要となっている。人口減少の中での地域づくりや健康、防災といった課題との関係でも重要性が高まっており、今後は地域コミュニティの基盤として、社会的包摂の共生社会を実現し、誰一人として取り残されることのない社会を実現する機能が求められている。</p> <p>本講義では、現在の我が国を取り巻く社会環境の変化を踏まえつつ、生涯学習や社会教育について、地域レベル、国レベルでの現状と施策の全体像を把握するとともに、今後の展望を考察する。</p> <p>文部科学省や地方公共団体において生涯学習政策、社会教育政策、教育行政等を担当する、あるいは担当した経験のある文部科学省職員による講義も設けたい。また文部科学省職員と受講者との対話や意見交換の場も設け、行政担当者が何を考え、感じながら施策の立案・推進に当たっているかを披瀝しつつ、今後の政策についてともに考える「開かれ、つながる」講義としたい。</p>
<b>授業計画</b>	<p>(若干変更する可能性あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育政策の全体像と方向性</li> <li>2. 社会教育と社会教育行政の現状と課題</li> <li>3. 生涯学習と生涯学習行政の現状と課題</li> <li>4. 学校・地域の連携・協働、大学と地域との連携</li> <li>5. 共生社会に関する学習の現状と課題</li> <li>6. 文部科学省総合教育政策局職員との対話・意見交換 等</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	講義、討議等
<b>成績評価方法</b>	出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする
<b>教科書</b>	特になし
<b>参考書</b>	講師が講義の中で必要な資料を配付する予定
<b>履修上の注意・備考</b>	講師との対話や討議の時間を設ける予定であるので、積極的な参加を期待する
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09222413	担当教員	田所 祐史		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	社会教育経営論 Management of Adult and Lifelong Learning				

授業の目的・概要	<p>社会教育概念、法制、行政、機関・施設の基礎的理解を確認した上で、地域社会を舞台に住民主体で学ぶ環境・条件と、学びの実践についてつかむことを目標とする。</p> <p>現代社会教育の現状と課題の理解、日本社会教育史の理解を通じて、理論と実践、歴史から構造的・実践的に「社会教育経営」をとらえる視座と力量を獲得することを目指す。</p> <p>また、受講生の興味関心や問題意識にもできる限り応じた、柔軟な授業展開に努める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス 社会教育概念</li> <li>社会教育法制・社会教育行政</li> <li>社会教育機関・施設(公民館・図書館・博物館)</li> <li>地域社会と社会教育</li> <li>日本社会教育史① 日露戦後～戦間期</li> <li>日本社会教育史② 戦間期～戦時期</li> <li>社会教育事業・経営の実際——公民館を例に</li> <li>連携・協働① 学校教育・社会福祉・地域づくりと社会教育</li> <li>連携・協働② 現代の学びの場の諸相</li> <li>日本社会教育史③ 占領期</li> <li>日本社会教育史④ 高度経済成長期</li> <li>社会教育実践の現状と課題① (社会教育機関・施設の見学等のフィールドワークまたは理論・実践検討)</li> <li>社会教育実践の現状と課題②(同上)</li> <li>社会教育実践の現状と課題③(同上)</li> <li>社会教育実践の現状と課題④(同上)</li> </ol>
授業の方法	<p>・レジュメと資料プリント、教科書で講義する(対面形態の場合は適宜、映画・ドキュメンタリーなども視聴)。</p> <p>・対面形態の場合は、フィールドワークの実施も受講生と検討・相談する予定。</p> <p>※ 対面／オンライン、フィールドワーク実施等の講義開催形態については、開催時期の大学方針や四囲の状況をみて判断し、代替形態の可能性もある。</p>
成績評価方法	期末レポート 60%、主体的な授業参加や指定課題など 40%
教科書	<p>【必携。必ず入手のこと】</p> <p>大串隆吉・田所祐史 『日本社会教育史』有信堂高文社、2021年1月(本体 2,000円+税)</p>
参考書	<p>講義中に紹介する。</p> <p>『月刊社会教育』(旬報社)などで社会教育の現状や課題をつかむこと。</p>
履修上の注意・備考	<p>教科書や当日配付史資料等を読む時間を設ける。対面形態の場合は、映画・ドキュメンタリーなど映像視聴の時間を適宜設ける。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2022年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。</p>

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

連絡先・方法は、特に指示のない限りは、以下に示すアドレス宛のメールに限定する。

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09222414	担当教員	齋藤 泰則		
単位数	2.0	学期	A1	時限	金 1, 金 2
講義題目	情報サービス論 Information Service				

授業の目的・概要	図書館で提供される情報サービスの種類と内容、レファレンス資料の種類、情報探索と情報要求の特徴、情報検索に関する理論について取り上げる。特に、情報サービスの中心となるレファレンスサービスについて、具体的なレファレンスプロセスの事例をもとに、質問の特性、レファレンスインタビュー、検索戦略の各側面について解説していく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館の情報サービスの特徴とレファレンスサービス</li> <li>2. レファレンスプロセスとは</li> <li>3. レファレンスインタビューと情報要求</li> <li>4. 情報源の種類</li> <li>5. 情報源の評価: インターネット情報源の信頼性評価</li> <li>6. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実際(1): 3次資料・言語・事項</li> <li>7. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実際(2): 歴史・地理・人物</li> <li>8. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実際(3): 図書・雑誌・雑誌記事(学術論文)</li> <li>9. レファレンス質問の種類とその処理</li> <li>10. レファレンス事例の分析</li> <li>11. 情報検索論(1)検索語の選定と検索式の作成</li> <li>12. 情報検索論(2)文献集合と検索結果の評価</li> <li>13. 各種の情報サービス</li> <li>14. 発信型情報サービス</li> <li>15. 今後の情報サービスの展望</li> </ol>
授業の方法	講義・ディスカッション
成績評価方法	期末テスト(60%)、毎回の小課題(30%)、授業での発表(10%)
教科書	毎回、授業資料としてワークシートを配布する。
参考書	<p>齋藤泰則著. 図書館とレファレンスサービス: 論考. 樹村房, 2017, 284p.</p> <p>齋藤泰則著. 利用者志向のレファレンスサービス: その原理と方法. 勉誠出版, 2009, 184p.</p> <p>小田光宏編著. 情報サービス論. 日本図書館協会, 2012, 254p. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ)</p>
履修上の注意・備考	<p>事前に、参考書に目を通しておくこと。</p> <p>公共図書館と大学図書館でそれぞれ提供されているレファレンスサービスについて体験しておくこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222415	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	月 5, 木 5
講義題目	図書館情報経営論 Library and Information Center Management				

授業の目的・概要	<p>図書館は非営利組織であるが、様々な職員が運営に関わっているため、その組織を維持し、発展させていくためには適切な経営が必要である。本講義では、こうした組織体としての図書館を適切に経営していくために不可欠である経営組織にかかわる、関連する法制度、業務体制、人材育成、各種計画の立案と評価等についての知識を学ぶ。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 図書館に関わる法制度</li> <li>3 職員体制・図書館を支える人々</li> <li>4 業務体制</li> <li>5 組織デザイン(1)</li> <li>6 組織デザイン(2)</li> <li>7 キャリア</li> <li>8 人材育成・動機付け</li> <li>9 計画立案</li> <li>10 図書館予算</li> <li>11 図書館評価</li> <li>12 運営形態</li> <li>13 まとめ</li> </ol>
授業の方法	レジュメを配布しつつ講義形式で進める。
成績評価方法	試験、中間レポート、リアクションペーパーへの返答など講義への参加度
教科書	特に指定しない。
参考書	講義中に指示する。
履修上の注意・備考	司書科目の「図書館制度・経営論」に相当する。
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09222416	担当教員	三浦 太郎		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 5
講義題目	図書館文化史 Library and Cultural History				

授業の目的・概要	<p>図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展してきたのだろうか。本講義では、欧米や日本の図書館の歴史を中心に論じる。</p> <p>本を手にしたとき、ふと「これって、なんでこんな形なんだろう」と思ったり、近所の公立図書館や大学図書館で勉強していて、なんとなく「図書館って、いつ頃からあるのか」と疑問に感じたことがあるかもしれない。この授業では、図書や図書館にまつわるいくつかのトピックを拾いながら、その成り立ちや移り変わりについて理解を深めることをねらいとする。なかでも「近代公立図書館」という考え方が誕生した背景や、そうした考え方が日本に入ってきた経緯に焦点を合わせたい。</p>
授業計画	<p>第 1 回文字の誕生と古代アレクサンドリア図書館</p> <p>第 2 回中世修道院図書室と黙読文化</p> <p>第 3 回ゲーテンベルクの印刷革命</p> <p>第 4 回ドイツ図書館学思想の誕生</p> <p>第 5 回米国ソーシャル・ライブラリーの成立</p> <p>第 6 回米国パブリック・ライブラリーの成立</p> <p>第 7 回米国パブリック・ライブラリーの展開</p> <p>第 8 回イギリスのパブリック・ライブラリーの成立・展開</p> <p>第 9 回日本の公家文庫・僧侶文庫</p> <p>第 10 回江戸時代の文庫</p> <p>第 11 回明治時代の書籍館・通俗図書館</p> <p>第 12 回大正～昭和戦前期の図書館</p> <p>第 13 回戦後占領期の図書館改革</p> <p>第 14 回戦後の図書館発展の歩み</p> <p>第 15 回図書館史研究の手法</p>
授業の方法	講義(日本語)による。
成績評価方法	試験(60%)および授業時の確認小テスト(40%)による。
教科書	<p>三浦太郎編著『図書・図書館史』講座・図書館情報学 12,</p> <p>ミネルヴァ書房,</p> <p>2019 年.</p>
参考書	<p>川崎良孝編著『図書館の社会的機能と役割』シリーズ〈図書館・文化・社会〉5,</p> <p>松籟社,</p> <p>2021 年.</p> <p>福井佑介ほか編著『図書館研究の回顧と展望』シリーズ〈図書館・文化・社会〉4,</p> <p>松籟社,</p> <p>2020 年.</p> <p>小黒浩司編著『図書及び図書館史』JLA テキストシリーズ 3-11,</p> <p>日本図書館協会,</p> <p>2013 年.</p> <p>岩猿敏生著『日本図書館史概説』日外アソシエーツ,</p>

2007 年.

小川徹ほか著『公共図書館サービス・運動の歴史』(1)(2) 日本図書館協会,

2006 年.

その他, 適宜, 授業時間中に指示する。

**履修上の注意・備考**

本科目は, 司書資格取得のために大学において履修すべき「図書館に関する科目」の選択科目「図書・図書館史」にあたる。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09222417	担当教員	金沢 みどり		
単位数	2.0	学期	S2	時限	金 3, 金 4
講義題目	読書教育論 Reading Education				

授業の目的・概要	<p>子どもにとって読書とは、豊かな感性や情操、思いやりの心などを育み、基礎学力を育てる上で、重要である。公共図書館の児童サービスでは、保健センター、保育所、幼稚園、学校、子ども文庫などとの連携協力のもとに、地域社会の子どもの読書生活がより豊かなものとなるように、読書支援に積極的に取り組んでいる。本講義では、子どもの読書習慣の確立に向けた児童サービスの理念や取り組みについて学ぶ。また、近年の社会的な課題である子育て支援も含めて、より広い社会的な視野から子どもや子どもを取り巻く環境について考察する。さらに、公共図書館と学校図書館との連携協力も視野に入れて、今後の動向も踏まえながら、子どもの読書活動の推進について、知見を深める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童サービスの意義と基本</li> <li>2. 児童サービスの対象者である子どもへの理解</li> <li>3. 児童の発達段階と資料の種類</li> <li>4. 児童サービスの資料と特徴(1) 絵本、フィクション</li> <li>5. 児童サービスの資料と特徴(2) ノンフィクション、知識の本、レファレンスブック、本以外の資料</li> <li>6. 児童サービスのためのコレクションの構築</li> <li>7. 児童サービスのための環境づくり</li> <li>8. 資料や情報の提供に関するサービス(1) 読書アドバイス、情報サービス、宿題支援</li> <li>9. 資料や情報の提供に関するサービス(2) 育児支援、乳幼児サービス、特別な支援を必要とする子どもへのサービス</li> <li>10. 児童と本を結びつける活動(1) お話し会のあり方、ストーリーテリング、読み聞かせ</li> <li>11. 児童と本を結びつける活動(2) ブックトーク、科学遊び</li> <li>12. ヤングアダルトサービス</li> <li>13. 子どもの読書活動の推進とネットワーク</li> <li>14. これからの児童サービスの活性化に向けて</li> <li>15. 児童サービスの評価</li> </ol>
授業の方法	主に講義にて行う。
成績評価方法	レポート、及び、リアクション・ペーパーなどによる授業参加度にて行う。
教科書	金沢みどり・柳 勝文『児童サービス論 第3版』(ライブラリー図書館情報学 第7巻)学文社、2022年。
参考書	<p>「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『読書と豊かな人間性』(シリーズ学校図書館学 第4巻)全国学校図書館協議会、2013年第2刷。</p> <p>金沢みどり『生涯学習社会における情報活用能力の育成と図書館』学文社、2012年。</p> <p>金沢みどり『学校司書の役割と活動—学校図書館の活性化の視点から—』学文社、2017年。</p> <p>その他については授業時間中に提示する。</p>
履修上の注意・備考	子ども(0歳から18歳まで)の本について、ブックトークやブックレポートを課題として課すので、発達段階に応じたジャンルの異なる子どもの本について、あらかじめ目を通しておくこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222418	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学期	A2	時限	月 5, 木 5
講義題目	読書と豊かな人間性 Reading and Human Development				

授業の目的・概要	近年、活字離れや電子書籍の流通などが叫ばれる中で、子どもたちの読書を巡る状況が大きく変化している。そこで、日本の読書行政、子どもの発達段階、科学的な読書の理解、読書の歴史、学校、海外の状況、出版流通、地域社会を総合的に把握し、日本の学校図書館が今後どのように読書やその教育と関わっていくべきかについて学ぶ。
授業計画	第1回: イントロダクション 第2回: 子どもの読書の現場 第3回: 日本の読書推進行政 第4回: 発達段階と読書 第5回: 読書をめぐる科学 第6回: 近現代の日本における読書教育の歴史 第7回: 中間まとめ 第8回: 読書教育の実践 第9回: 学校教育と読書教育 第10回: 図書資料の種類とその選択 第11回: 読書と新しいメディア 第12回: 地域社会との連携 第13回: まとめ
授業の方法	主に講義にて行う。
成績評価方法	授業参加度と試験
教科書	特になし
参考書	授業中に適宜指示する
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09222419	担当教員	小国 喜弘、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類、星加 良司		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>第一回 オリエンテーション 4月8日          &lt;教育における「バリア」&gt;</p> <p>第二回 学校というバリア(小国) 4月15日</p> <p>第三回 教育のバリアフリーとICT利用(近藤先生)4月22日          &lt;身体機能を通してみる「バリア」&gt;</p> <p>第四回 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)4月25日</p> <p>第五回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生)) 5月6日</p> <p>第六回 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生) 5月20日          &lt;語り／言葉をめぐる「バリア」&gt;</p> <p>第七回 障害者の語り(能智先生) 5月27日</p> <p>第八回 当事者研究の可能性(熊谷先生)6月3日</p> <p>第九回 当事者とは誰か——現象学的質的研究から考える(大塚先生)6月10日</p> <p>第十回 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生)6月17日          &lt;社会のひずみとしての「バリア」&gt;</p> <p>第十一回 移民の子どもから考える日本社会のバリア(額賀先生)6月24日(オンデマンド)</p> <p>第十二回 社会現象としての「障害」(星加先生)7月1日</p> <p>第十三回 「バリア」の認識論(星加先生)7月8日</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。</p> <p>zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の10分に、ITC LMS を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば30字以内)は、0点とすることがあります。およそ200字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっていますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。</p> <p>バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当</p>

utbarrier.studies@gmail.com

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09223101	担当教員	中村 高康		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 3
講義題目	教育社会学概論 Introduction to the Sociology of Education				

授業の目的・概要	教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐる我々が直面している課題を理解することを目的とする。
授業計画	さしあたり以下の内容を予定している(若干の変更の可能性あり。初回講義時に説明する)。 ①イントロダクション・教育社会学とは何か ②教育社会学のパラダイム1 ③教育社会学のパラダイム2 ④社会の中で生まれるー社会化ー ⑤家庭の中で育つー家族・社会・教育ー ⑥ 学校に入るー近代化と教育投資ー ⑦学校の中で育つ1ー学校の社会的機能ー ⑧学校の中で育つ2ー学校問題の社会学ー ⑨学卒就職と社会 ⑩働くーキャリア・昇進・能力ー ⑪次の世代へー社会階層と教育ー ⑫ジェンダーと教育 ⑬現代の教育を見る視点
授業の方法	授業で指定された文献を読み、コメントを記入して、当該週の金曜日までに ICT-LMS のアンケートに回答を記入してもらう形で講読メモを送信してもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	授業で指定された文献を読み、コメントを記入して、当該週の金曜日までに ICT-LMS のアンケートに回答を記入してもらう形で講読メモを送信してもらう。 また、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は、講読メモ:期末レポート 50:50 の比で評価する。授業への参加度も若干加味することがある。
教科書	現時点で使用方法はまだ検討中だが、授業時に適宜参照するので、以下の書籍は教科書としておく。 中村高康・松岡亮二編(2021)『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房
参考書	各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示する。 基礎的参考書として、以下をあげておく。 酒井朗・多賀太・中村高康編(2012)『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	授業への積極的な参加を期待したい。 ・この授業は対面とオンラインの併用で行います。 ・初回については、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、オンライン受講でさしつかえない受講者はオンラインで受講することを検討してください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照

時間割コード	09223102	担当教員	阿曾沼 明裕		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	集中
講義題目	高等教育概論 Introduction to Higher Education Studies				

授業の目的・概要	<p>今日の高度知識基盤社会にあつて、高等教育が果たす役割と意味はきわめて大きなものになってきている。高等教育はどこから来て、どのような状況にあり、将来どこに向かおうとしているのか。この授業では、大学の誕生から産業化に伴う発展と分化、現状とその課題、さらに今後の変容と展望までを視野に入れつつ、高等教育の構造と機能に対する理解を深める。具体的には、第一に、高等教育とは何かについてその概要を踏まえて、西欧の大学の誕生と変容をたどることで、歴史的にいくつかの大学・高等教育機関モデルが存在することを学ぶ。第二に、高等教育の多様性について理解を深めるとともに、学位システム、高等教育の質を維持するメカニズム、ガバナンス、高等教育財政について学ぶ。そして第三に、戦前と戦後の日本の高等教育の展開を見ることで、高等教育の日本的な構造とその変化を理解する。そのほか、補足的に大学院や研究大学、学問・研究者の世界についても取り上げる。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション: 高等教育の制度的概念</p> <p>第2回 大学の起源と変容1(中世大学)</p> <p>第3回 大学の起源と変容2(中世から近代大学)</p> <p>第4回 アメリカの高等教育</p> <p>第5回 高等教育の多様性とその系譜</p> <p>第6回 19世紀以降のヨーロッパの高等教育</p> <p>第7回 学位、高等教育の質保証、ガバナンス</p> <p>第8回 高等教育財政</p> <p>第9回 戦前日本の高等教育</p> <p>第10回 戦後日本の高等教育</p> <p>第11回 入学システムと大学教育</p> <p>第12回 大学院と研究大学</p> <p>第13回 学問・研究者の世界</p> <p>第14回 総括</p>
授業の方法	<p>主に講義形式で行うが、場合によっては、ディスカッションなど入れる可能性はある。授業は4日間の集中講義であり、最後の回(第14回)に試験を行う予定である。また、毎日(毎回ではない)、感想・質問・意見等を書いたリアクションペーパーを提出する。</p>
成績評価方法	<p>授業への出席(20%)、リアクションペーパー(20%)、最終試験(60%)を予定している。</p>
教科書	<p>橋本鉦市・阿曾沼明裕編、2021年『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房。</p>
参考書	<p>必要な資料は、そのつど提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>集中講義なので、その日に学んだ内容はその日に復習することが望まれる。また、ICT-LMSを使い、zoom情報なども掲載されるので、チェックすること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目(社)社会学(公)社会学</p>



時間割コード	09223103	担当教員	額賀 美紗子、北村 友人		
単位数	2.0	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。</p> <p>講義は教育社会学を専攻する二名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。</p> <p>具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、学力、教育病理といった具体的なテーマに関する国際比較、②途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、③人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、の3領域である。</p> <p>なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。</p>
-----------------	--

<b>授業計画</b>	<p>第1週 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ①概要、国際比較の目的と手法&gt; 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学校制度、学力、学校文化、子育てといった具体的なテーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定。</p> <p>第2週 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ②異文化間教育領域&gt; グローバリゼーションやトランスナショナリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。国の間を移動する子どもたちが経験する文化的葛藤、アイデンティティ形成、言語獲得、学力等の問題について理解を深め、多文化化する日本社会の教育課題を検討する。</p> <p>第3週 担当:北村 &lt;比較教育学とは何か ③開発領域&gt; 比較教育学の一領域としての開発領域について学ぶ。アジア地域と教育開発、グローバリゼーション、大学改革等を取り上げる。</p> <p>第4週 担当:額賀 &lt;移民教育・多文化教育の国際比較&gt; 各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育や、日本における多文化共生の教育について批判的に考察し、国際比較の視点から日本における外国人生徒の教育を受ける権利や、マイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。ゲストスピーカーを予定。</p> <p>第5週 担当:北村 &lt;持続可能な社会の実現に向けた教育の役割&gt; 持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。</p> <p>第6週 担当:北村 &lt;比較教育学の国際的な視点からの捉え直し&gt; 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、海外講師の講義と議論の後、比較教育学の可能性と課題、そして日本(さらにはアジア)における比較教育学のあり方について考える。</p> <p>第7週 担当:額賀 &lt;比較教育学の課題と展望&gt; 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。なお、このセッションは、一コマのみの講義となる。</p>
-------------	---

<b>授業の方法</b>	講義とディスカッションを組み合わせる
<b>成績評価方法</b>	出席 20%、レポート課題（北村 40%、額賀 40%）
<b>教科書</b>	特に指定しない
<b>参考書</b>	随時指定する
<b>履修上の注意・備考</b>	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09223201	担当教員	仁平 典宏、胡中 孟徳、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 I Training in Research Methods for the Sociology of Education I				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 II~IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。</li> <li>文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究方法。</li> <li>文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。</li> <li>文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。</li> <li>文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説—作業仮説—検証。</li> <li>文献講読。社会調査の目的。仮説—質問項目。</li> <li>文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。</li> <li>文献講読。質問紙のしくみ。</li> <li>文献講読。ワーディングの注意点。</li> <li>調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。</li> <li>文献講読。昨年度の調査実習報告書の批判的検討。</li> <li>研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等)</li> <li>文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。</li> </ol>
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社)
履修上の注意・備考	<p>コース学生のみ履修可</p> <p>初回の授業は2限に行います。</p> <p>コロナの感染状況によっては、オンラインで実施します。</p> <p><a href="https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/84949520349?pwd=Q1F1L1kydHZDT3M1ZTV6YTRjQ3crdz09">https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/84949520349?pwd=Q1F1L1kydHZDT3M1ZTV6YTRjQ3crdz09</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09223202	担当教員	仁平 典宏、胡中 孟徳、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	<b>教育社会学調査実習Ⅲ</b> Training in Research Methods for the Sociology of Education III				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	4～5月：文献講読（実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ）、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6月前半：調査対象訪問とフィールドワークの報告。 6月後半～7月：仮説構成、質問項目づくり、ワーディング。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域：中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要：東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』（2021年、法律文化社）
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』（2014年、オーム社） その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）社会学（公）社会学

時間割コード	09223203	担当教員	仁平 典宏、胡中 孟徳、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 1
講義題目	<b>教育社会学調査実習 II</b> Training in Research Methods for the Sociology of Education II				

授業の目的・概要	<p>この演習では、「教育社会学調査実習 I、III、IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 II」では、「教育社会学調査実習 IV」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。</li> <li>2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。</li> <li>3 調査票の構成と、質問文を作成する上での方法と留意点に関する講義。</li> <li>4 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。)</li> <li>5 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。)</li> <li>6 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。)</li> <li>7 エディティング、コーディング作業。同上</li> <li>8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。)</li> <li>9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。)</li> <li>10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法)</li> <li>11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。</li> <li>12 報告書を作成する際の留意点について。</li> <li>13 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。</li> </ol>
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09223204	担当教員	仁平 典宏、胡中 孟徳、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	<b>教育社会学調査実習IV</b> Training in Research Methods for the Sociology of Education IV				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ～Ⅲ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅳ」では、「教育社会学調査実習Ⅲ」を受けて、質問文・質問紙の画定、サンプリング、質問紙調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を行う。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。
授業計画	10月：質問紙原案の確定作業、調査対象の責任者のチェックとそれをふまえての修正、質問紙最終稿の確定とレイアウトを含めた質問紙作成作業、質問紙発送作業。 11～12月：統計ソフト操作実習。変数リスト、コーディングマニュアル作成作業、エディティング、コーディング作業。 1～2月：データクリーニング作業、集計表作成作業、データ分析作業と中間報告と検討、レポート作成、成果報告会。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点 最終レポート
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09223205	担当教員	額賀 美紗子、本田 由紀、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2.0	学期	通年	時限	水 6
講義題目	<b>比較教育社会学論文指導</b> Dissertation Research in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業計画	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業の方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
成績評価方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
教科書	各教員が第一回ゼミに説明する。
参考書	各教員が第一回ゼミに説明する。
履修上の注意・備考	各教員が第一回ゼミに説明する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09223501	担当教員	額賀 美紗子、本田 由紀、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2.0	学期	通年	時限	月 1
講義題目	比較教育社会学研究指導 Tutorial in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業計画	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
授業の方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
成績評価方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教科書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
参考書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
履修上の注意・備考	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09224101	担当教員	牧野 篤
単位数	2.0	学期	S1
		時限	月 5,月 6
講義題目	社会教育論Ⅱ Theories of Adult Education II		

授業の目的・概要	<p>少子高齢化・人口減少、グローバル化などによる社会構造の大きな変容にもなっており、人々の学びのあり方も変わることが迫られている。さらにコロナ禍にあって、この社会の底抜けが明らかとなっている。それは端的に、人々の孤立という現象として表面化している。改めて、人々が孤立しない社会のあり方を構想することが求められている。学校制度の基本的な原理と社会教育の特質を原理的に概観した上で、今日の社会変動の背景をとらえ、それらと生涯学習が課題化されることとの関係を把握する。さらに教育を可能とする「発達」概念のあり方について、それを近代産業社会の資本増殖のアナロジーからとらえ、新たな社会における自己のあり方を検討する。また、制度が構築されればされるほど、その網の目から抜け落ちる人々をどう「社会」につなぎ止めておくのか、「福祉」のあり方ともかかわらせて、議論したい。</p> <p>本講義は、概ね以下の内容から構成される。Ⅰ. 近代産業社会と学校・社会教育・生涯学習、Ⅱ. 社会の構造的変動と教育システムの改編、Ⅲ. 揺らぐ自己と自我の形、Ⅳ. 〈いま〉の継起としての自己、Ⅴ. 発達する自己の一般理論生成し続ける、Ⅵ. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己。</p> <p>生涯学習時代における「学び」のあり方を考えるための基礎的な視点を養うとともに、受講者各個人が、自らの人生を主体的に考え、選択するとともに、この社会で学び続けることの意味を考え、自らの社会的な役割をとらえ課すことができるようになることを目的とする。</p> <p>オンラインでの開講とする。オンラインで〈つながる〉ことのあり方についても、受講者とともに考えたい。</p> <p>なお、授業途中であっても、新たな知見を得られた場合には、内容を組み換えることがありえる。</p>
授業計画	<p>概ね、以下のような内容から構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本社会の変容と生涯学習</li> <li>2. 学校の原理・選抜の原理</li> <li>3. 〈いま〉の継起としての自己・再帰的ならざる人々から考える1</li> <li>4. 〈いま〉の継起としての自己・再帰的ならざる人々から考える2</li> <li>5. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉1</li> <li>6. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉2</li> <li>7. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉3</li> <li>8. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして1</li> <li>9. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして2</li> <li>10. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして3</li> <li>11. 発達する自己の一般理論・事後性と過剰性</li> <li>12. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己1</li> <li>13. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己2</li> <li>14. 〈わたし〉と〈わたしたち〉・〈ことば〉が生み出す自己</li> <li>15. 〈学び〉を再定位する</li> </ol>
授業の方法	オンライン開講とする。UTAS および ITC-LMS 上でリンク URL を受講者に伝える。
成績評価方法	適宜レポートを課す。
教科書	牧野篤『発達する自己の虚構—教育を可能とする概念をとらえ返す』(東京大学出版会、2021年)
参考書	以下のものを参照する。 牧野篤『認められたい欲望と過剰な自分語り—そして居合わせた他者・過去とともにある私へ』(東京大学出版会、2011)

年)

牧野篤『生きることとしての学び—自生する地域コミュニティと共変化する人々』(東京大学出版会、2014 年)

牧野篤『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018 年)

牧野篤(編著)『人生 100 年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装』(東京大学出版会、2020 年)

なお、参考書は本来であれば購入し、熟読して欲しいが、いずれも高価なので図書館などで読んでおくとよい。

**履修上の注意・備考**

人が社会でともに生きることや学びに強い関心をもって授業に臨んで欲しい。

大学は自律的に学ぶ場であることを十分に自覚し、積極的に授業に参加して欲しい。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09224102	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 5, 金 5
講義題目	情報資料論 Information Media				

授業の目的・概要	図書館が扱う情報資源の範囲は年々広がっている。本講義では、そういった幅広い情報資源をまず概観し、それらがどのような性質を持っており、図書館においてどのような意義を持つのかを明らかにする。その上で、図書館はどのように情報資源を収集、蓄積、維持、発展させていくべきであり、また実際の現場において情報資源はどのように扱われているのかという図書館におけるコレクション形成の理論と実際を見ていく。
授業計画	第1回 インTRODクシヨN、情報の性質 第2回 情報資源の歴史 第3回 情報資源の出版と流通 第4回 印刷資料 第5回 非印刷資料 第6回 電子資料、ネットワーク資料 第7回 中間まとめ 第8回 地域資料、行政資料、灰色文献 第9回 人文科学、社会科学分野の情報資源 第10回 科学技術分野の情報資源 第11回 コレクション形成の理論 第12回 コレクション形成の実際 第13回 まとめ
授業の方法	講義による。
成績評価方法	試験（40%×2） リアクションペーパーの提出（20%）
教科書	特になし。
参考書	講義中に指示する。
履修上の注意・備考	毎回授業の前日までに講義資料を itc-lms にアップロードするので、必ずダウンロードしておくこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09224103	担当教員	北村 友人、額賀 美紗子		
単位数	2.0	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。</p> <p>講義は教育社会学を専攻する二名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。</p> <p>具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、学力、教育病理といった具体的なテーマに関する国際比較、②途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、③人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、の3領域である。</p> <p>なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。</p>
-----------------	--

<b>授業計画</b>	<p>第1週 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ①概要、国際比較の目的と手法&gt; 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学校制度、学力、学校文化、子育てといった具体的なテーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定。</p> <p>第2週 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ②異文化間教育領域&gt; グローバリゼーションやトランスナショナリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。国の間を移動する子どもたちが経験する文化的葛藤、アイデンティティ形成、言語獲得、学力等の問題について理解を深め、多文化化する日本社会の教育課題を検討する。</p> <p>第3週 担当:北村 &lt;比較教育学とは何か ③開発領域&gt; 比較教育学の一領域としての開発領域について学ぶ。アジア地域と教育開発、グローバリゼーション、大学改革等を取り上げる。</p> <p>第4週 担当:額賀 &lt;移民教育・多文化教育の国際比較&gt; 各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育や、日本における多文化共生の教育について批判的に考察し、国際比較の視点から日本における外国人生徒の教育を受ける権利や、マイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。ゲストスピーカーを予定。</p> <p>第5週 担当:北村 &lt;持続可能な社会の実現に向けた教育の役割&gt; 持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。</p> <p>第6週 担当:北村 &lt;比較教育学の国際的な視点からの捉え直し&gt; 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、海外講師の講義と議論の後、比較教育学の可能性と課題、そして日本(さらにはアジア)における比較教育学のあり方について考える。</p> <p>第7週 担当:額賀 &lt;比較教育学の課題と展望&gt; 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。なお、このセッションは、一コマのみの講義となる。</p>
-------------	---

<b>授業の方法</b>	講義とディスカッションを組み合わせる
<b>成績評価方法</b>	出席 20%、レポート課題（北村 40%、額賀 40%）
<b>教科書</b>	特に指定しない
<b>参考書</b>	随時指定する
<b>履修上の注意・備考</b>	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09224104	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2.0	学 期	S2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	<b>教職論</b> Introduction to Research on Teacher Development				

授業の目的・概要	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
授業計画	授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。 1回 ガイダンス 2回 変容する社会の教師(1) 転換期の学校 3回 変容する社会の教師(2) 知識社会の学校と教師 4回 教師の知識(1) 資質と知識 5回 教師の知識(2) 教師の実践的思考様式 6回 教師の同僚性と共同体(1) 教師の同僚性 7回 教師の同僚性と共同体(2) 専門家共同体 8回 教師と学校の責任(1) 教師のヴァルネラビリティ 9回 教師と学校の責任(2) 教師と学校の責任 10回 日本の授業研究の歴史(1) 授業研究の視点 11回 日本の授業研究の歴史(2) 授業研究の歴史 12回 専門性と専門職性(1) 教師の専門職性 13回 専門性と専門職性(2) 反省的实践家としての教師 14回 カリキュラムのデザイン(1) カリキュラムの概念 15回 カリキュラムのデザイン(2) カリキュラムの変化 15回 まとめ
授業の方法	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
成績評価方法	出席と課題レポートで評価する。
教科書	特になし。
参考書	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門(改訂版)』有斐閣、2015年。 そのほか、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	特になし。 特になし。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09224105	担当教員	渡辺 貴裕		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	月 5, 月 6
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	<p>具体的な方法論なしに教育目標を実現することはできない。本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。</p> <p>次の3つの内容が柱となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶとはどういうことか。</li> <li>・学習を促す授業のあり方はどういうものか。</li> <li>・教師は実践からどのように学び成長していくのか。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践記録から学ぶ</li> <li>2. 教育実践の法則性と固有性</li> <li>3. 海外の実践事例から学ぶ</li> <li>4. 学習観の転換</li> <li>5. 子どもの「間違い」をどう捉えるか</li> <li>6. 教科内容と教材</li> <li>7. 教科内容の系統性</li> <li>8. 教師が発する言葉</li> <li>9. 協同学習の意義と方法</li> <li>10. 自律的な学習</li> <li>11. ファシリテーターとしての教師</li> <li>12. 授業をめぐる対話と省察</li> <li>13. ミニ模擬授業の実施</li> <li>14. ミニ模擬授業の検討会</li> <li>15. 教師による実践研究</li> </ol>
授業の方法	対面の場合でもオンラインの場合でも、グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	<p>定期試験は行わず、授業中に出题する課題をもって評価を行う。</p> <p>出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。</p>
教科書	指定しない。
参考書	<p>渡辺貴裕『授業づくりの考え方 ―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ―』くろしお出版、2019年</p> <p>フレット・コルトハーヘン『教師教育学 ―理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ―』学文社、2010年</p> <p>佐藤浩一『学習支援のツボ』北大路書房、2014年</p> <p>杉江修治『協同学習入門』ナカニシヤ出版、2011年</p> <p>その他、授業中に適宜指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>履修を希望する場合、初回から必ず出席すること。</p> <p>授業時間中の活動を重視する授業形態であるため、教育実習などにより(7回のうちの)3回以上の欠席が見込まれる場合は、別年度あるいは他の時期の科目を履修することを推奨する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照

時間割コード	09224106	担当教員	富士原 紀絵		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育課程論 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	<p>テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」</p> <p>日本の教育課程の歴史の変遷を踏まえつつ、学校主体のカリキュラム編成法とマネジメントの意義とその方法について理解する。教育課程の全体構造との関係において各教科、領域の存在意義をとらえ、学校の全体教育課程を編成しマネジメントする能力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回:教育課程・カリキュラム・学習指導要領の関係性</p> <p>第2回:現代日本の子どもの諸問題(学習面、生活面)と教育課程</p> <p>第3回:教育課程における教科の分化と総合、選択履修と共通履修の関係</p> <p>第4回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(1)戦後初期</p> <p>第5回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(2)1958年~1977年</p> <p>第6回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(3)1989年~1998年</p> <p>第7回:2017年改訂学習指導要領の全体構造と特徴—2008年学習指導要領との比較を通して</p> <p>第8回:カリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>第9回:カリキュラム・マネジメントと授業評価と学校評価</p> <p>第10回:カリキュラム・マネジメントの方法</p> <p>第11回:教科横断的な教育課程編成の実践例から学ぶ—小学校</p> <p>第12回:総合的な学習の時間を中心とした教育課程編成とマネジメントを実践例から学ぶ—中学校</p> <p>第13回:教育課程の試作—学校教育目標を検討する</p> <p>第14回:試作した教育目標と教科の関係を検討する</p> <p>第15回:試作した教育目標と教科外領域の関係を検討する</p>
授業の方法	<p>zoomによる全面オンライン形式で実施する。</p> <p>1)授業形式は講義。</p> <p>2)毎回、講義への感想の提出を求める(当日の授業時間内に提出)。</p> <p>3)感想ではなく、アンケートや特定のテーマについての意見を求めることもある。</p>
成績評価方法	感想の提出(50%)。テストまたはレポート(50%)の合算による。
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領解説 総則編』。いずれも文部科学省ホームページからダウンロード可能。
参考書	根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房、2019
履修上の注意・備考	<p>受講希望者はシラバスやICT-LMSを意識的にチェックしておくこと。</p> <p>1)zoomのURLはシラバスやICT-LMSに、集中講義の日程と実施形態が確定してから掲示する。</p> <p>2)講義資料の事前配布、授業へのコメント、課題等はICT-LMSシステムを活用する。</p> <p>3)全学教職科目でもあるため、教員免許取得者の履修の観点では中等教育免許取得者を念頭に置くが、日本においてカリキュラム開発は初等教育を中心に行われてきた歴史的経緯があるため、初等教育の内容も押さえてゆくことになる。初等中等教育に関わる時事的な情報を</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照



時間割コード	09224201	担当教員	橋野 晶寛
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	教育行政・学校経営演習Ⅳ Seminar in Educational Administration and School Management Ⅳ		
		時限	金 4

授業の目的・概要	この授業では、現代の教育政策・行政の動向および考え方・論点を学ぶ。教育政策・行財政の現代的トピックについて、政策動向を把握するだけでなく、普遍的・中核的論点について教育学のみならず隣接社会科学分野の実証研究・規範論を参照しながら、多角的に深く考察する視点を養う。
授業計画	<p>授業実施形態については、原則としてすべての回を対面とする。</p> <p>第2回以降は発表者を割り当て、文献輪読を行う。扱う予定のトピックは以下の通り。</p> <p>1)教育政策の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育政策は何をなすべきか・何ができるのか</li> <li>・政策の可否を何によって判断すべきか、等。</li> </ul> <p>2)教育政策と自由・平等・民主性・効率性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育における自由はどこまで可能か</li> <li>・教育機会均等のために政策・行政には何ができるか/できないか、何をすべきか/すべきでないか</li> <li>・自由・平等・民主性・効率性といった曖昧な規範的概念を教育政策の文脈でどう理解・具現化すべきか、等。</li> </ul> <p>3)教育財政・教育費負担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育財政支出を正当化する根拠は何か</li> <li>・教育費負担をめぐる政治において、政治的制約(シルバー民主主義、増税忌避、「福祉の磁石」とどう向き合うか、等</li> </ul> <p>4)教員政策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の教育制度は教員の人材確保における量的・質的側面、教員の厚生にどのように影響するのか</li> <li>・教職の特質は、人材確保、働き方、力量形成・動機づけにどのように影響するか</li> <li>・教員の量的・質的人材確保に寄与する政策は何か、等</li> </ul> <p>5)教育政策とデータサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育政策の効果を測る上で何が難しいのか</li> <li>・成果、貢献、必要性を測ることはできるか/どう測るのか</li> <li>・エビデンスは教育政策に関わる政治を変えうるか</li> <li>・教育分野において政策研究と社会・政治はどのような関係にあるのか/あるべきか、等</li> </ul> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2~13回 文献輪読</p>
授業の方法	<p>第2回以降は、文献輪読を行う。</p> <p>毎回指定された文献(論文または図書の一部の章)を事前に読んできた上で、発表者が文献要旨と論点を報告し、議論を行う。</p>
成績評価方法	<p>平常点(発表、授業中の発言)による。</p> <p>ただし、日程の都合等で発表を担当できない場合は、期末に相応のレポートを提出してもらう。</p>
教科書	特になし。毎回文献を用意する。
参考書	<p>市川昭午(2021)『教育改革の終焉』教育開発研究所。</p> <p>村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣。(1~6章、終章)。</p>
履修上の注意・備考	「教育行財政学」(教育実践・政策学コース駒場持出科目)を履修していることが望ましい。



時間割コード	09224202	担当教員	牧野 篤		
単位数	2.0	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	社会教育学演習Ⅱ Seminar in Adult and Lifelong Education II				

授業の目的・概要	<p>社会教育・生涯学習を専門的に学ぼうとする受講者に、教育や学びが広く人が社会の中で生きようすることに深く関わるものであることを理解してもらうために、社会的な課題に関わるトピックスや議論を取り上げて、文献を検討するとともに、地域の住民アクターとのかかわりを通して、地域社会で人が生きることとその課題を体験的に考察することを目的とする。</p> <p>とくに、近年、人生 100 年時代を迎え、学校のみならず、社会教育・生涯学習を含めた教育体系の総合行政への組み換えが進められており、その焦点はコミュニティである。新たな教育改革の方向として「地域学校協働活動」が提示され、法律の改正などを経て、コミュニティスクールの設置が努力義務化されており、教員にとっても地域社会との連携及び自らの教育実践を地域社会に開くことが求められる。また、社会教育施設の一般行政への移管が特例的に認められるなど、従来の教育行政と一般行政の区分が、社会教育・生涯学習の領域から組み換えられ、融合へと向かっている。</p> <p>本演習では、このような変化が求められるに至った政策的な経緯、とくに 1980 年代半ばの臨時教育審議会以降の教育政策の生涯学習への転回と「社会に開かれた教育課程」・コミュニティスクールの政策化、さらにコミュニティが政策的な焦点となる事態を、その社会的な背景を含めて理解し、受講者が自分なりの教育観・学習観を持つことを目標とする。</p>
授業計画	<p>本演習は文献講読を通して、住民の学びと社会活動との関係の基礎を学ぶとともに、住民アクターとのかかわりを通して、人々の活動に関与しつつ、住民が地域社会で活動することの意味を考察する。</p> <p>本演習では、地域社会への関与に先立って、今日の日本の地域社会が抱える諸課題をとらえるために、関連文献の講読を進める。取り扱う文献は、グローバル化の進展にともなう雇用構造の変化、少子高齢化がもたらす社会構造の変化、過疎化・高齢化に悩む地域社会のありよう、「無縁社会」と呼ばれる社会の出現、さらにこれらの社会にあって進められる「定常型社会」など新たな社会のあり方の模索など関するものであり、それらを教育と学習という実践の場においてどう受け止めるのかを考える。</p> <p>その後、近年の教育改革の方向として示された地域学校協働をとらえるために、1980 年代半ばの臨時教育審議会における議論、その後の教育政策の動向、そしてコミュニティスクール・地域学校協働活動の提起と実施にいたる議論を、関係の文献にあたることでとらえるとともに、その社会的な背景を理解し、教育政策の展開と社会の要請、さらにその個人への影響をとらえ、受講者自らの教育観・学習観を形成することを目的とする。</p> <p>授業期間中にエクサカーションなどの実習を予定している。</p> <p>コロナ禍の状況によっては、オンラインに切り換えることがあり得る。</p>
授業の方法	<p>演習形式とし、とくにワークショップなどの手法を取り入れる。受講者の積極的な発言を期待する。</p> <p>エクサカーションなど実習の後には、報告書の作成を進めるため、自覚的な探求的態度で臨むことが求められる。ただし、コロナ禍の状況下、エクサカーションなどの実習は困難となる可能性も高いため、その場合には、文献研究を中心に授業を構成する。</p> <p>初回のみ対面とし、2 回目以降は、オンラインでの開講とする。リンク URL を UTAS 上で連絡する。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の新規感染者が増えてきているので、初回もオンライン開講を併用</p>
成績評価方法	授業への参加とときどきのレポートにもとづき評価する。
教科書	適宜紹介する。

<b>参考書</b>	<p>牧野篤『生きることとしての学び—2010年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々—』(東京大学出版会、2017年)</p> <p>牧野篤『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018年)</p> <p>牧野篤『公民館はどう語られてきたのか—小さな社会をたくさんつくる・1』(東京大学出版会、2018年)</p> <p>牧野篤『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装』(東京大学出版会、2020年)</p> <p>など、適宜紹介する。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>演習であるため、積極的な参加が求められる。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 ・社会教育主事「社会教育演習」「社会教育実習」「社会教育課題研究」2単位・学芸員「博物館実習」2単位</p>

時間割コード	09224203	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 1, 火 2
講義題目	<b>教育方法学演習Ⅱ</b> Seminar of Research on Teaching and Curriculum II				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>[授業の目標]</p> <p>この授業では、保育・幼児教育施設や小学校、中学校、高等学校などの教育の現場におけるフィールドワークを通して、教育実践を観察することの基礎を身につける。具体的には下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方を身につける。</li> <li>2. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。</li> </ol> <p>[授業の概要]</p> <p>教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では学校において授業観察を中心としたフィールドワークを行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 教育実践の課題 ガイダンス</p> <p>第2回 教育実践の研究(1)フィールドワーク①</p> <p>第3回 教育実践の研究(2)報告会①</p> <p>第4回 教育実践の研究(3)フィールドワーク②</p> <p>第5回 教育実践の研究(4)報告会②</p> <p>第6回 教育実践の研究(5)フィールドワーク③</p> <p>第7回 教育実践の研究(6)報告会③</p>
<b>授業の方法</b>	主として学校におけるフィールドワークの方法を学び、調査とその報告を行う。
<b>成績評価方法</b>	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。
<b>教科書</b>	指定しない。
<b>参考書</b>	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法: 15 の事例にみる学校教育実践研究』東京図書</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究: 20 の事例にみる教師研究方法論』東京図書</p> <p>浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く: 教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社</p> <p>稲垣忠彦・佐藤学(著)『授業研究入門』岩波書店</p> <p>佐藤学『教育方法学』岩波書店</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会</p> <p>このほか、授業中に紹介する。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>本授業は、A1 タームに開講される2時間連続の授業である。</p> <p>情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をすることになるので、注意されたい。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09224501	担当教員	河村 俊太郎、橋野 晶寛、影浦 峽、北村 友人、斎藤 兆史、勝野 正章、牧野 篤、李 正連、村上 祐介、藤江 康彦、浅井 幸子、新藤 浩伸		
単位数	2.0	学期	通年	時限	木 6
講義題目	教育実践・政策学研究指導 Tutorial in Educational Administration and Adult Education				

授業の目的・概要	教育実践・政策学コース所属学生のために、教育実践・政策学(教育行政学・社会教育学・図書館情報学・学校教育学)に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	以下の点について、報告・指導を行う。 1) 卒業論文の趣旨・書き方 2) テーマ選択 3) 研究方法 4) 研究成果のまとめ方 夏学期に1度、全体検討会を持つ。
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	特になし。
参考書	テーマに応じて文献紹介を行う。
履修上の注意・備考	卒業論文執筆の規程を踏まえて履修すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 隔週開講本コースの学生に限る

時間割コード	09225301	担当教員	能智 正博
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	金 3
講義題目	質的心理学研究法 I Research Methods for Qualitative Psychology I		

授業の目的・概要	質的研究のデータ収集には、大きく分けて、自由度の高いインタビューを用いる方法と自然場面での観察を用いる方法が区別される。この授業( I )では前者、特に、インタビューを通じた対象者の自己語り(self -narrative)の収集およびその整理・分析の方法に注目し、実習形式で授業を進める。インタビューは、一見誰にでもできる簡単なデータ収集法と思われがちであるが、実証研究として質の高いインタビューとなると話は別であるし、そこで得られた質的データをうまく分析することはさらに難しい作業とも言える。本授業では、講義とエクササイズを通じてインタビューとその結果の分析の技能を高める機会を提供する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) イントロダクション</li> <li>2) 質的研究とはどういうものか</li> <li>3) 質的研究の背景(1): 現象学的視点</li> <li>4) 質的研究の背景(2): 社会構築主義的視点</li> <li>5) インタビュー意味と質</li> <li>6) インタビューの計画</li> <li>7) インタビューの実施と倫理</li> <li>8) 質的データの分析とは</li> <li>9) カテゴリー分析1</li> <li>10) カテゴリー分析2</li> <li>11) カテゴリー分析3</li> <li>12) 質的研究の展開</li> <li>13) 成果発表 1</li> <li>14) 成果発表 2</li> </ol>
授業の方法	<p>学期の前半では、質的研究の基盤となるものの見方・考え方に簡単に触れつつ、インタビューを中心にテキスト(データ)収集の手續と整理の方法について、教室内でのエクササイズも交えながら授業を進めていく。質の高い語りのデータを収集するための手續きについて、理解を深めることが主な目標である。</p> <p>それと並行して、ライフストーリーに関するグループプロジェクトを進める。目標は個人のライフストーリーとその背景を分析することである。</p> <p>学期の後半では、収集してきた質的なデータを読解したり分析したりする手續きの概要を学ぶ。収集</p>
成績評価方法	<p>出席と授業への参加(50%): 毎回授業の終わりにリアクションシートに記入してもらい、それを出席点とする。</p> <p>最終レポート(50%): インタビューをもとに、グループで1つ提出する。形式その他の詳細は、後日授業のなかでお知らせする。</p>
教科書	特に使用しないが、参考書の最初にあげている能智(2011)とクヴァール(2016/2007)は準教科書的な位置づけである。
参考書	<p>能智正博『臨床心理学をまなぶ6 質的研究法』(東京大学出版会, 2011)</p> <p>クヴァール,</p> <p>S. (能智・徳田訳)『質的研究のための「インター・ビュー」』(新曜社, 2016, 原著 2007)</p>

秋田喜代美・能智正博(監修)『はじめての質的研究法』シリーズ、医療編・教育学習編・社会臨床編・生涯発達編(東京図書, 2007)

やまだようこ他(編)『質的心理学ハンドブック』(新曜社, 2013)

日本質的心理学会『質的心理学研究』(新曜社, 2002~)

**履修上の注意・備考**

原則としてすべての回に出席可能な者のみの受講を認める。やむをえない理由で欠席する場合には事前に連絡・相談すること。4分の1以上欠席の者には単位は認めない。

基本的に、授業は時間通りに始める。遅刻しないように。

この授業は、「バリアフリー教育プログラム」の一般科目の1つでもある。

本授業は、教職課程の科目内容に関わる科目(公民)となっている。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学



時間割コード	09225302	担当教員	針生 悦子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 4
講義題目	発達心理学演習 Seminar in Developmental Psychology				

授業の目的・概要	研究論文・専門書を読み、批判的に検討する作業を通じて、発達心理学の基本的な問題やその研究手法について学ぶ。
授業計画	初回授業義に授業で取り上げる文献を指示し、割り当てを決め、そのあとは担当者が割り当てられた文献について紹介し、その内容について討論するかたちで進める。
授業の方法	演習形式
成績評価方法	授業での発表、出席、討論への参加、最終レポート
教科書	初回授業時に指示する
参考書	初回授業時に指示する
履修上の注意・備考	初回授業時に割り当てを決めるので、履修予定者は必ず参加すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225303	担当教員	清河 幸子
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	金 3
講義題目	教授・学習心理学演習 Seminar on Psychology of Learning and Instruction		

授業の目的・概要	卒業論文を執筆するにあたって、自らの興味・関心に基づき研究テーマを設定し、それに関連した英語論文を探し出し、読みこなすことは必須となる。また、読んだ内容をまとめて、わかりやすく人に伝えることも求められる。本演習では、各自の研究関心に関連した英語論文を検索し、読みこなし、発表するためのスキルを学ぶ。なお、テーマは教授・学習、認知心理学領域のものを歓迎するが、これに限定しない。
授業計画	1: 興味・関心から研究テーマを設定する 2: 文献を検索する 3: 論文を読む 4: レジューメを作る 5~9: 受講者による英語論文の発表・討論 (1) 10: プレゼンテーションをする 11~13: 受講者による英語論文の発表・討論 (2)
授業の方法	文献検索、論文の読解、レジューメの作成、プレゼンテーション、それぞれの方法やコツについて解説した後、受講者が各自のテーマに沿って英語論文を選んで、その概要を発表する。それをもとに、参加者全員で討論を行う。発表はレジューメを用いた発表とプレゼンテーションツールを用いた発表の2回ずつを予定している。
成績評価方法	担当回での発表、授業時の議論への参加、課題の提出によって総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	受講者の人数によってスケジュールを調整する。積極的な参加を期待する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225304	担当教員	清水 大地、岡田 猛
単位数	2.0	学期	A1
講義題目	身体性と創造性 Creativity and Embodiment		

授業の目的・概要	この授業では、心理学論文のレビュー・ペアワークと、簡略化した芸術表現の実践体験を通し、我々の身体と思考/創造性との関連に関する知識・理解を獲得する。心理学論文のレビュー・ペアワークに関しては、身体と思考・創造性との関連を検討した心理学論文を学生がレビューし、ペアとなりその内容を全体に発表・共有し、上記の関連に関する概念的な理解を深める。芸術表現の実践体験に関しては、例えば、ダンスや演奏を通してある特定の記号表象のイメージや絵画作品の理解を深める体験に取り組み、我々の身体がいかに関与し、また思考・創造性が身体に影響を与えうるか、その関連の理解を経験的に深めていく。以上の概念的・経験的活動双方から身体と思考/創造性の理解を深め、その理解を最後に発表・共有することが求められる。以上の異なる体験の活動を通し、身体と思考/創造性に関する包括的理解を深めると共に、芸術表現に関する心理学的知見を得ることを目指す。
授業計画	全3回(第1回:3時限、第2回:5時限、第3回:5時限)の授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 オリエンテーション、ペアによる論文レビュー・発表、表現の実践体験(身体を通した作品鑑賞)、ディスカッション</li> <li>・第2回 ペアによる論文レビュー・発表、表現の実践体験(ダンスを通した作品鑑賞・イメージの拡張)、ディスカッション</li> <li>・第3回 グループでの発表・ディスカッション、総括</li> </ul>
授業の方法	身体と思考/創造との関連を取り上げた心理学論文のレビュー・発表・ディスカッションを通して上記の関連についての概念的な理解を深める。加えて、身体と思考/創造とが深く結びついた芸術表現体験への主体的な参加・共有・ディスカッションを通して上記の関連についての経験的・演習的理解を深める。受講生は上記の発表やディスカッションへの活発な参加が求められる。
成績評価方法	最終発表ならびに通常授業の出席・積極的な参加・発表とディスカッションを重視して評価を付ける。
教科書	資料は逐次配布する。
参考書	「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ、トーマス・B.ウード、森北出版 「知の創生—身体性認知科学への招待」ロルフ・ファイファー、クリスチャン・シャイアー、共立出版
履修上の注意・備考	発表・ディスカッション・実践を伴う授業であるため、履修希望者は必ず出席して授業に参加すること。なお実践を伴う授業の性質上、受講希望者が多い場合は何らかの形で人数制限をする可能性がある。 心理学論文を読んだことがある人・ない人、表現(ダンス・音楽等)を行ったことがある人・ない人といった経験の有無は全く問いません。論文を読んだ経験や表現の経験がある人は本授業を含むこれまでの体験が、無い人は本授業で初めて経験する体験がいかなるものであるのか、それ自体を深く考え、周囲の方と共有してみましよう。それらを通して理解・解釈が深まっていく豊かな過程を体験して欲しいと考えています。 持参物: 仔細は授業回ごとに指示。論文を読む・発表する作業が可能な PC 等の個人端末(論文レビュー・発表・ディスカッションの回)
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225305	担当教員	高木 紀久子、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	芸術創造性の実践演習 Art and creativity seminar				

授業の目的・概要	<p>この授業では、芸術の実践的な演習を通して身体レベルと思考レベルの創造プロセスの方法を身につける。身体レベルの創造に関しては、外界とのインタラクションを中心としたワークを行い、自己の記録および他者と共有することでその可能性を探る。思考レベルの創造に関しては、既存の思考の枠を外して新しいアイデアを発想することの理解を、関連する心理学論文のレビューとワークの双方を通じて深めていく。身体レベルと思考レベルの双方の活動からアイデアを統合させ作品創作を行い、最後の授業で発表することが求められる。この二つのタイプの活動を通して、芸術の創作プロセスに関する体験的理解を深めると共に、身体と思考を融合した創造活動についての心理学的知見を得ることを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義:オリエンテーション(全体概要とフロッタージュなど身体を通じた表現の解説)</li> <li>2. 演習:フロッタージュ演習 タクティクルラインの演習(B3サイズ)</li> <li>3. 論文レビュー1: 芸術創作に関する論文</li> <li>4. 演習:フロッタージュ演習(描画材の応用)タクティクルラインの演習(B4 または B3サイズ)</li> <li>5. 論文レビュー2:芸術創作に関する論文</li> <li>6. 講義:芸術創作のプロセス(参考スライド) 演習:フロッタージュの展開(多様な支持体による効果, 空間への展開)</li> <li>7. 講義:芸術創作のプロセス(現代美術家の作品創作のモデル) 演習:ポートフォリオへのまとめ</li> <li>8. 美術館見学(この時期開かれている展覧会に行き、実際の作品の鑑賞体験を得る)</li> <li>9. 講義:最終作品に向けての解説(参考スライド: 諸領域との関係性) 演習:グループディスカッション、作品企画</li> <li>10. 作品制作(個別指導)</li> <li>11. 作品制作(個別指導)</li> <li>12. 作品制作(個別指導)プレゼンテーション計画(個別指導)</li> <li>13. 作品発表・講評</li> </ol> <p>なお、授業計画は履修者数、教室状況などにより変更が生じることがある。</p>
授業の方法	<p>実際に身体を動かして作品を作るという演習形式で、アートの創造性について学ぶ。加えて、心理学論文のレビューとディスカッション、ワークを通じて理解を深める。受講生は毎回の実際の制作活動への参加が求められる。</p>
成績評価方法	<p>最終発表ならびに通常授業の出席と授業への積極的な参加を重視して評価を付ける。</p>
教科書	<p>資料は逐次配布する。</p>
参考書	<p>「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ, トーマス・B.ウオード, 森北出版 「ART SINCE 1900: 図鑑 1900年以後の芸術」ハル フォスター, ロザリンド・E. クラウス, イヴ-アラン ボワ, ベンジャミン・H.D. ブークロー, デイヴィッド ジョーズリット,</p>

東京書籍

**履修上の注意・備考**

履修希望者は必ず初回のオリエンテーションに出席すること。実技の授業なので、必ず出席して、授業に参加することが望まれる。なお、実践授業の性質上、受講希望者が多い場合は、何らかの形で人数制限をする可能性がある。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09225306	担当教員	中島 由宇、野中 舞子、能智 正博、高橋 美保、滝沢 龍		
単位数	2.0	学 期	S1S2	時 限	火 4
講義題目	心理演習 Seminar in Psychology				

授業の目的・概要	<p>心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度、人とかかわり人のこころを理解しようとするありかたについて、こころをつかって(体感的、内省的、対話的に)学びます。そうした学びを土台として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的支援を要する人への心理療法などに関する知識や技能の修得を目指します。</li> <li>・心理的支援を要する人の理解やニーズの把握、支援計画の作成を行うためのアセスメント能力を養います。</li> <li>・心理的支援を要する人の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携や地域連携に必要な、対話し協働する力を養います。</li> <li>・公認心理師としての職業倫理及び法的義務の意義を理解します。</li> </ul>
授業計画	詳細は開講時に述べます。
授業の方法	授業の前半 6 回までは、臨床心理学実践の基本的な姿勢について学びます。7 回以降はロールプレイの演習を主とします。
成績評価方法	レポートを中心に評価します。
教科書	特に指定しません。
参考書	必要に応じて授業内で提示します。
履修上の注意・備考	この授業は公認心理師資格取得のためのカリキュラムの一部です。4年生で、公認心理師課程の指定科目のうち、4分の3以上(25科目中18科目)の履修を受講し終えていることを条件とします。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225307	担当教員	沖潮 満里子、野中 舞子、能智 正博		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 1
講義題目	心理実習 Practical Training in Psychology				

授業の目的・概要	<p>保健医療、福祉の2つの分野の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けながら、以下の点についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ</li> <li>・多職種連携及び地域連携</li> <li>・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</li> </ul> <p>この「心理実習Ⅰ」では、保健医療、福祉の2つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。</p>
授業計画	<p>10月6日(木) ① オリエンテーション</p> <p>10月13日(木) ② 保健医療分野の概観(1)</p> <p>10月20日(木) ③ 保健医療分野の概観(2)</p> <p>10月27日(木) ④ 福祉分野の概観(1)</p> <p>11月3日(木) ⑤ 福祉分野の概観(2)</p> <p>11月～1月 先方と都合を合わせて実習に出る</p> <p>1月19・26日 振り返り</p>
授業の方法	<p>座学でまず、医療、福祉領域における公認心理師の活動について学んだ上で、以下の3つの実習機関すべてを回るようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学医学部附属病院(5日間、20時間)</li> <li>・社会福祉法人 三井記念病院(1日間、8時間)</li> <li>・社会福祉法人 泉会 岡本福祉作業ホーム玉堤分場(2日間、16時間)</li> </ul>
成績評価方法	<p>平常点 70%(現地実習指導者による評価も含む)、</p> <p>レポート 30%(施設毎に、A4で1～2枚程度)</p> <p>レポートの締め切り・提出方法は授業内で提示する。</p>
教科書	<p>津川律子・江口昌克(編)公認心理師分野別テキスト1「保健医療分野」(創元社、2019)</p> <p>＝1章、2章を読む</p> <p>片岡玲子・米田弘枝(編)公認心理師分野別テキスト1「福祉分野」(創元社、2019)</p> <p>＝1章、2章を読む</p>
参考書	<p>必要に応じて指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>公認心理師の受験資格を得ることを真剣に考えている4年生であること(3年生は来年度にとっていただきたい)。</p> <p>原則として、「公認心理師の職責」および「心理演習」の単位を修得済みないし修得中の者。</p> <p>実習費用がかかる可能性がある。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225308	担当教員	上岡 洋晴		
単位数	2.0	学 期	S1	時 限	火 1, 火 2
講義題目	身体教育方法論 Methodology of Physical and Health Education				

授業の目的・概要	<p>この授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例や実践(ロールプレイ)を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。</p> <p>親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法、多くの大学で「体育」がないために学生時代にまったく運動を実践せずに就職していく若者と「メタボリック・シンドローム」の問題などは議論しておくべき必須事項である。また、何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。ある動作の学習(例えば、投げる)において、知的発達段階に応じた上手なインストラクション(言語・非言語)の基本を知ること不可欠である。</p> <p>授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。</p> <p>体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。</p>
授業計画	4/5-イントロダクション、4/19 -学習指導要領、4/26-子どもの体力問題とその対策、4/28-運動部活動、5/10-生涯スポーツ、5/17-プレゼンテーション、5/24- プレゼンテーション/総括の予定である。
授業の方法	学習指導要領・資料・新聞記事・パワポイントなどを用いた講義、ディスカッションを行う。各自に当該方法論に関するプレゼンテーション(20分程度)を実施してもらう。
成績評価方法	毎回の授業におけるミニレポートと、プレゼンテーションの質を総合して評価する。テストは実施しない。
教科書	とくになし。
参考書	文部科学省:小学校学習指導要領(体育編)、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育編)
履修上の注意・備考	<p>定刻に授業を開始するので遅刻なく出席すること。</p> <p>緊急の場合、下のメールアドレスまたは電話に連絡すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)保健体育科の指導法



時間割コード	09225309	担当教員	佐々木 司		
単位数	2.0	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	<b>教育の疫学入門</b> Studying Epidemiology in the Field of Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上で今後必要不可欠になると考えられる。</p>
<b>授業計画</b>	公衆衛生と疫学研究に関する基礎知識について講義する。
<b>授業の方法</b>	基本的に講義形式で行う
<b>成績評価方法</b>	期末試験を基本とする。
<b>教科書</b>	中村好一著「基礎から学ぶ、楽しい疫学(第4版)」医学書院
<b>参考書</b>	<p>S.B.Hulley et al. Designing Clinical Research, 4th Edition, Lippincott, Williams &amp; Wilkins.(木原雅子、木原雅博訳)「医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ(第3版)」メディカル・サイエンス・インターナショナル)</p> <p>Kenneth J. Rothman. Epidemiology: An Introduction (2nd Ed). Oxford University Press 2012. (日本語翻訳もあり、授業の最初に紹介する)</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	特になし
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (体)衛生学及び公衆衛生学

時間割コード	09225310	担当教員	山本 義春、内匠 透		
単位数	2.0	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	教育の生理学 Educational Physiology				

授業の目的・概要	教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に解明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。
授業計画	以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理)</li> <li>・運動の制御</li> <li>・睡眠と生体リズム</li> <li>・情動</li> <li>・学習と記憶</li> <li>・統合失調症と感情障害</li> <li>・不安障害と発達障害</li> </ul>
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	Physiology of Behavior, Neil R. Carlson, 11th edition, Pearson.
参考書	カールソン、神経科学テキスト 脳と行動、第4版、丸善.
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09225311	担当教員	多賀 巖太郎		
単位数	2.0	学 期	S1	時 限	月 2, 木 2
講義題目	心と脳の発達 Development of Mind and Brain				

授業の目的・概要	人間の発達、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による演習、原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	<p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>胚発生と形態形成</li> <li>自発活動の生成</li> <li>脳構造的ネットワーク形成</li> <li>脳機能的ネットワーク形成</li> <li>脳機能的領域形成</li> <li>運動</li> <li>睡眠と意識</li> <li>共生</li> <li>物理的世界との相互作用(知覚)</li> <li>他者との相互作用(言語)</li> </ul> <p>演習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間内のミニレポート</li> <li>指定英語論文の要約提出とプレゼンテーション</li> </ul>
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	授業時間内のミニレポート、レポート課題、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	開講時に参考書リストを配布。
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)体育心理学に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

時間割コード	09225312	担当教員	東郷 史治		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	火 1, 金 1
講義題目	安全・安心教育 Safety and Security Education				

授業の目的・概要	<p>近年、我が国の交通事故件数や交通事故死亡者数が減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、原発事故、自然災害、薬物など、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<p>各週の予定項目は以下のとおりである。</p> <p>ガイダンス</p> <p>学校安全(1):安全安心科学</p> <p>学校安全(2):体育・スポーツ活動中の事故</p> <p>学校安全(3):部活動</p> <p>学校安全(4):ピアサポート</p> <p>災害安全(1):自然災害</p> <p>災害安全(2):救命処置</p> <p>現代生活安全(1):精神保健</p> <p>現代生活安全(2):インターネット・情報セキュリティ</p> <p>現代生活安全(3):高齢社会</p> <p>環境安全(1):熱中症</p> <p>環境安全(2):化学物質</p> <p>定期テスト</p>
授業の方法	<p>学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。第 1 回目のガイダンスは Zoom のリアルタイム配信で行う。2 回目以降は対面とオンラインの併用(ハイブリッド式)の予定。ただし、状況によってはオンラインのみに変更となる可能性がある。</p>
成績評価方法	<p>平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。</p>
教科書	<p>なし</p>
参考書	<p>初回に紹介する</p>
履修上の注意・備考	<p>この科目は教科に関する科目「(体)学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)」に該当する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健</p>

時間割コード	09225401	担当教員	登藤 直弥		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅱ Psychological Statistics II				

授業の目的・概要	<p>本講義では、心理学統計法Ⅰに引き続き、心理学で用いられる統計手法の基礎、および統計に関する基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>内容としては、統計的推定・検定の考え方からはじめ、その適用場面として平均値差と連関の分析を学ぶ。その後、より発展的な内容への基礎固めとして線形モデルの考え方を導入する。本講義の目標は、受講生が心理統計学の基礎理論について数学的および概念的な理解を確立すること、およびそれを実際の心理学データ分析において適用するための手続きと技術を身につけることである。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学で用いられる統計手法</li> <li>2. 統計に関する基礎的な知識</li> <li>3. 推定と検定</li> <li>4. 推定量とその標準誤差</li> <li>5. 検定力とその利用</li> <li>6. 区間推定</li> <li>7. 独立な2群の平均値差の検定</li> <li>8. 平均値差および効果量の区間推定</li> <li>9. 対応のある2群の平均値差の検定と推定</li> <li>10. 2群の比率の差の検定</li> <li>11. カテゴリ変数間の連関の分析</li> <li>12. 線形モデルの基礎・ベクトル表現</li> <li>13. 平方和および分散の分割</li> <li>14. 独立変数の効果の検定と自由度</li> <li>15. 平均値差への回帰分析的アプローチ</li> </ol>
授業の方法	講義形式で実施する
成績評価方法	授業課題と期末試験により評価する
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009年)
履修上の注意・備考	<p>「心理学統計法Ⅰ」で扱った内容を前提とする。</p> <p>学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017年度以前開講「心理統計学Ⅱ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅲ Psychological Statistics III				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	<p>下記の事柄を 13 コマで実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部分相関係数と偏相関係数</li> <li>2. 偏回帰係数とその解釈</li> <li>3. 重回帰分析のしくみ</li> <li>4. 平方和の分割と重相関係数の検定</li> <li>5. 個々の独立変数の寄与の評価</li> <li>6. 完全無作為 1 要因デザイン</li> <li>7. 多重比較の考え方</li> <li>8. 完全無作為 2 要因デザイン</li> <li>9. 対応のある 1 要因デザイン</li> <li>10. 共分散分析</li> <li>11. 因子分析の考え方とモデル</li> <li>12. 因子分析のしくみと因子の解釈</li> <li>13. 因子の回転</li> <li>14. 共分散構造と母数の推定</li> <li>15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析</li> <li>16. 項目反応理論・階層線形モデルに関する基礎</li> </ol>
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年) 南風原朝和『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』(東京大学出版会, 2011 年)
履修上の注意・備考	<p>特になし</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017 年度以前開講「心理統計学Ⅲ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225403	担当教員	針生 悦子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	ことばの発達心理学(学習・言語心理学) Psychology of Language Development				

授業の目的・概要	人の行動が経験を通して変化する過程や、その中での言語の習得のメカニズムについて、概要を理解することを目標とする。授業では特に、子どもの言語獲得の過程とはどのようなものであるか、それを支えている人間の能力とはどのようなものか、言語獲得は人間の認知や思考にどのような影響を及ぼしうるのか、といった問題にアプローチするための研究方法も学びながら、現在得られている知見から、これらの問いに対してどのような答えを考えることができるのかについても検討していく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1, イントロ(授業のすすめ方 etc.)</li> <li>2, 類人猿に言語を教えるということ</li> <li>3, 大人の言語学習、子どもの言語学習</li> <li>4, 単語を聴き取る</li> <li>5, 言語の音を聞き分ける</li> <li>6, 「声」から「ことば」へ</li> <li>7, 単語の学習</li> <li>8, 文法の獲得</li> <li>9, 文法能力の生得性をめぐる議論</li> <li>10, 環境の役割</li> <li>11, 文字の習得</li> <li>12, 言語と思考:言語比較</li> <li>13, 言語と思考:発達</li> </ol>
授業の方法	講義形式。毎回の授業において課題の提出を求める。
成績評価方法	毎回の授業での課題提出、期末テスト
教科書	針生悦子「赤ちゃんはことばをどう学ぶのか」中公新書ラクレ このほか授業において適宜指示する。
参考書	針生悦子「ことばの育ちの認知科学」新曜社 今井むつみ・針生悦子「言葉をおぼえるしくみ」ちくま書房
履修上の注意・備考	教科書を事前に読んだ上での課題提出を求めるので、教科書を購入しておくこと。  【履修上の注意点】 2020年度以前開講「ことばの発達心理学」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225404	担当教員	岡田 猛		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	創造性の心理学 Psychology of Creativity				

授業の目的・概要	<p>創造性の心理学、特に「創造性への認知的アプローチ」を中心とした心理学・認知科学の研究知見について紹介する。この講義では、研究領域をくまなく概観することを目指すのではなく、芸術創作や科学的発見などに関する研究の具体例を詳細に紹介しながら、その背後にある考え方や方法論を理解できるように心がける。</p> <p>なお、実際に創造活動に携わっている専門家の講演も予定している。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業案内</li> <li>・熟達化</li> <li>・創造性の定義</li> <li>・創造性の概説</li> <li>・科学的発見</li> <li>・妥当性境界</li> <li>・面白い研究とは</li> <li>・芸術創作活動</li> <li>・芸術的インスピレーション</li> <li>・表現支援</li> <li>・ダンス</li> <li>・伝統と創造</li> <li>・創造性評価 等</li> </ul>
授業の方法	<p>基本的には、講義形式の授業である。加えて、参加者間のディスカッションやゲストスピーカーの講演等も計画している。受講生は宿題として、文献を読んで授業に臨むことなどが求められる。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業のレポートの提出と最終レポートにより評価する。</p>
教科書	<p>教科書は特に定めず、授業中に適宜関連文献を紹介する。</p>
参考書	<p>特になし</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし</p>
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09225405	担当教員	加藤 健太郎		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 5
講義題目	教育測定 Educational Measurement				

授業の目的・概要	心理学や教育学では、「心理尺度」や「テスト」を通じて、性格・態度・能力・学力といった人間の様々な特性を測定し、研究仮説を実証的に検討することが行われる。また、社会全体を見渡しても、研究に限らず様々な場面でテストが利用されている。本講義では、人間の特性を測定する道具としてのテストに着目し、その作成方法や、その性能を定量的に評価するための基礎を与える「テスト理論」について学ぶ。研究の文脈に限定せず、世の中で用いられている様々なテストに触れ、テストに関する新しい技術等についても紹介する予定である。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育・心理測定の概要と歴史</li> <li>2. 様々な教育・心理テスト</li> <li>3. テスト作成の手順と考え方</li> <li>4. 古典的テスト理論</li> <li>5. テストデータの分析</li> <li>6. 一般化可能性理論</li> <li>7. 項目反応理論</li> <li>8. テストの妥当性</li> <li>9. 新しいテスト技術</li> </ol>
授業の方法	講義を中心に進める。パワーポイントによるプレゼンテーションおよび板書を主な講義方法とする。
成績評価方法	平常点(授業への協力・貢献;授業時間中に簡単な作業やアンケートを求められることがある)30%+期末レポート70%
教科書	加藤健太郎(編著)『教育測定入門(仮)』東京大学出版会.(2022年発売予定,初回授業時に詳細を伝える)
参考書	南風原朝和『心理統計学の基礎』有斐閣アルマ 2002 野口裕之・大隅敦子『テストングの基礎理論』研究社 2014 日本テスト学会(編)『見直そう,テストを支える基本の技術と教育』金子書房 2010
履修上の注意・備考	(心理)統計学の基礎知識(記述統計・推測統計・分散分析・回帰分析)があること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225406	担当教員	長谷川 真里		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	道徳性の発達心理学(感情・人格心理学) The Development of Morality				

授業の目的・概要	<p>発達心理学およびその周辺諸科学の成果に基づき、道徳性の発達について概説する。人間の道徳性を捉える枠組みや理論は様々ある。本講義の中心は、主要な心理学の理論や研究知見を紹介し、多面的に道徳性の発達、およびその研究方法を考察することである。なお、道徳性発達に深く関わる感情心理学と人格心理学の基本事項も確認する。道徳性は、人間発達および人間社会にとって本質的な概念であり、現代社会において喫緊に解決すべき多くの問題とも関係する。道徳性発達研究の面白さと難しさを考えていきたい。</p>
授業計画	<p>以下の内容をカバーする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の道徳性の萌芽と研究方法</li> <li>・道徳判断と推論</li> <li>・感情に関する理論、道徳感情、及び感情が行動に及ぼす影響</li> <li>・人格の概念及び形成過程、モラルアイデンティティ</li> <li>・向社会的行動と反社会的行動</li> <li>・道徳性発達の基盤(進化、環境、その他)</li> <li>・いじめや集団排除など道徳に関わる集団の問題</li> <li>・道徳教育</li> </ul>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	出席状況、授業中の課題、最終レポートによって評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	<p>授業初回に説明する。</p> <p>特になし。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225407	担当教員	稲田 尚子		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	心理的アセスメント Psychological Assessment				

授業の目的・概要	臨床心理査定の中核的技法である心理検査法について、その基礎理論から実施法、解釈法を学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理的アセスメントの目的および倫理</li> <li>2.心理的アセスメントの観点および展開</li> <li>3.知能検査</li> <li>4.発達検査</li> <li>5.人格検査:質問紙法・投影法・描画法</li> <li>6.精神症状の評価:質問紙法と面接法</li> <li>7.自閉スペクトラム症の評価:スクリーニング</li> <li>8.自閉スペクトラム症の評価:診断・面接</li> <li>9.注意欠如多動症の評価</li> <li>10.その他の発達障害の評価</li> <li>11.適応行動の評価</li> <li>12.神経心理学的検査</li> <li>13.テストバッテリー</li> <li>14.適切な記録および報告</li> <li>15.まとめと試験</li> </ol>
授業の方法	基本的に講義形式だが、回によってはディスカッションを交え、ミニ・レポートを課す場合もある。
成績評価方法	授業の内容についての筆記試験を通じて成績評価を行う。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
履修上の注意・備考	原則として全回出席の見込みがある学生のみ履修を認める。心理学だけでなく、さまざまな分野の学生の参加を歓迎する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225408	担当教員	高田 治
単位数	2.0	学 期	集中
講義題目	福祉心理学 Psychology for Social Welfare		

授業の目的・概要	福祉領域における心理援助について学ぶ。特に、どのような援助対象者であり、どのようなニーズがあるのかについて、現場の感覚に触れ、考える。
授業計画	<p>社会福祉とは何かというところから始め、様々な福祉領域を概観し、福祉現場において生じる問題及びその背景、そして、心理社会的課題及び必要な支援について考える。</p> <p>福祉政策についてから始め、障害福祉、高齢福祉、児童福祉など各領域を紹介し、福祉サービスを受ける人への心理支援の特徴を概観する。障害を抱える人の様子など映像で紹介する。</p> <p>その後、児童虐待問題で注目される児童福祉施設における心理援助を例に具体的に実践について考える。児童虐待の現状、子どもに与える影響、家族の問題などを概観し、児童心理治療施設における被虐待児の支援の実際を紹介する。適宜グループ討議を入れ、支援者としてどういう心構えが必要かを討議してもらう。</p>
授業の方法	講義、映像資料の視聴、グループ討議
成績評価方法	平常点及びレポート
教科書	小畑文也編「福祉心理学」北大路書店
参考書	<p>滝川一廣他編「心を育む生活」東京大学出版会</p> <p>滝川一廣、内海新祐編「子ども虐待を考えるために知っておくべきこと」日本評論社</p>
履修上の注意・備考	<p>教科書に目を通してくること</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>本科目は開講時期(1-3 月集中講義)の都合上、2022 年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 隔年開講 2023 年度開講せず

時間割コード	09225409	担当教員	武見 ゆかり
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	栄養学概論 Introduction to Human Nutrition		
		時限	木 1

授業の目的・概要	<p>栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動を続ける営みをいう。人間の健康の維持、増進のためには適切な栄養が必要である。人間は、食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら、こうした栄養の営みを行っている。栄養の営みは個人の生活だが、その営みには、職業、収入、ジェンダーなど社会的決定要因の影響が大きい。本講では、人間の栄養の営み及び食生活を、地域社会や環境との関わりも含めてとらえる基礎的知識とその活用方法を学習する。自分を事例として、健康状態やライフスタイルに合わせて、学んだことを実生活で活用する力の修得も目的とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今この時期(新型コロナウイルス感染症対策の新しい生活様式)だからこそ、自分の食生活を考えてみよう:食生活のセルフチェック</li> <li>2. 何をどのくらい食べたらよいか:食事バランスガイドの理解と活用</li> <li>3. 何をどのくらい、いつ食べたらよいか(時間栄養学の知見から)</li> <li>4. 栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質、食物繊維)</li> <li>5. 栄養素の機能と代謝② たんぱく質</li> <li>6. 栄養素の機能と代謝③ 脂質</li> <li>7. 栄養素の機能と代謝④ ビタミン、ミネラル、水分</li> <li>8. どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか:食事摂取基準</li> <li>9. スポーツと栄養</li> <li>10. 社会的決定要因と生活習慣病・食生活:国民健康・栄養調査結果を中心に</li> <li>11. 農業政策と栄養政策、「健康な食事」実現のための食環境整備</li> <li>12. 世界の健康・栄養対策の動向:健康を超えて、地球環境を考慮した持続可能性の重視</li> <li>13. 健康・栄養情報の読み解き方:ヘルスリテラシーを高めよう</li> <li>15. 総合レポート</li> </ol>
授業の方法	<p>原則オンライン講義形式。Zoomを使って同時配信の授業を行う。</p> <p>一部自分で演習を実施し、提出物を求める。</p>
成績評価方法	<p>最終回の総合レポート(60%)、および提出物の内容(40%)を合わせて総合的に評価</p>
教科書	<p>必要資料は随時配布。参考図書を紹介。</p>
参考書	<p>香川靖雄「やさしい栄養学」(女子栄養大学出版部)</p> <p>上西一弘「食品成分最新ガイド 栄養素の通になる」(女子栄養大学出版部)</p> <p>武見ゆかり・吉池信男編「食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版」(第一出版)</p>
履修上の注意・備考	<p>開講中に数回、授業内容に関するコメントなどの提出を求めするので、それに適宜対応すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225410	担当教員	佐々木 司、山本 義春、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	ストレス・マネジメント概論(健康・医療心理学) Introduction to Stress-Management				

授業の目的・概要	<p>生活上のさまざまな課題、あるいは心理・社会・生物学的ストレスに出会うことは誰もが避けて通れないことである。本講義では、そのような課題やストレスに対処し、それを克服するためのスキルと身体基盤の獲得・向上に必要な知識の習得を目的とする。特に大学生活、あるいは卒業後の生活における課題、ストレスへの対処力向上を、将来の市民的エリートに必要とされる相互扶助精神の涵養とともに図ることを目標とする。この講義で得られた知識やスキルをもとに、受講者自身の健康増進と維持、生活の充実をはかるとともに、自分の周囲の人々、社会全体の幸福の実現、相互の扶助に貢献できる人材として各学生が成長することを期待する。学部・大学院を問わず、また教育学部のみでなく、全学の学部・研究科学生の履修を歓迎する(単位認定については各学部・研究科の規定による)。なお、公認心理師が理解しておくべき、ストレスと病気との関係、医療現場や災害時に必要な心理社会的支援、ならびに保健活動における心理社会的課題とその支援についても学べる内容となっている。</p>
授業計画	<p>講義は毎回オムニバス形式で設定されたテーマごとに、教育学部心身発達専修ならびに本学の相談支援研究開発センターの各教員が授業を行う。例年、ハラスメント相談所スタッフにも1コマ講義を依頼している。各回の講義テーマは、オリエンテーションおよび相談機関の紹介、学習の動機付け、生活リズムと心身の健康、不安とつきあう、メンタルヘルス、ストレスと心理的課題、親密な人間関係の発達・発展(家族療法コミュニケーションの知見から)、ハラスメントについて、社会人生活とメンタルヘルス、身体運動とメンタルヘルス、キャリアについて考える、また、ストレスと心身の疾病との関連、医療現場における心理社会的課題および必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題をよび必要な支援、災害時などに必要な心理に関する支援などについて予定している。</p>
授業の方法	<p>基本的には講義形式で行うが、各回、担当教員により若干異なる。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義で課すレポート(テスト形式の場合もある)で行う。毎回講義の最後に記述してもらい提出する。このレポート(テスト)提出は出席の確認も兼ねる。</p>
教科書	<p>指定なし</p>
参考書	<p>指定なし</p>
履修上の注意・備考	<p>常識的なことと言うまでもないことだが、レポート(テスト)提出は各自一人分を提出すること。複数人のレポートを1人が提出することは、公正な採点を行う必要があるため、認めない。遅刻や途中退出の場合も当然ながらレポート提出は認められない。(不正行為には zero-tolerance policy で厳しく対処するので注意されたい)</p> <p>本科目の単位は、相談支援研究開発センターでのピアサポート活動に参加する「ピアサポーター」資格取得のための単位の1つともなる。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2020年度以前開講「ストレス・マネジメント概論」と基本的に同一科目のため、既に単位を取得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目(体)学校保健</p>

時間割コード	09225411	担当教員	森田 賢治		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	脳科学特論 Functions and Dysfunctions of the Brain				

授業の目的・概要	<p>This lecture gives an introduction to modern systems, cognitive, and computational neuroscience on the brain functions and dysfunctions. Planned contents include: activity dynamics of neurons and neural circuits, computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making (especially focusing on value learning and value-based decision making), and computational approaches to neuropsychiatric disorders.</p>
授業計画	<p>The currently planned order is as follows, though this can be changed:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- activity dynamics of neurons and neural circuits</li> <li>- computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making</li> <li>- computational approaches to neuropsychiatric disorders</li> </ul>
授業の方法	lecture
成績評価方法	attendance and report
教科書	none
参考書	will be announced in the lecture
履修上の注意・備考	<p>We welcome motivated students from any departments (undergraduate or graduate)</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09225412	担当教員	小国 喜弘、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類、星加 良司		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。
授業計画	<p>第一回 オリエンテーション 4月8日          &lt;教育における「バリア」&gt;</p> <p>第二回 学校というバリア(小国) 4月15日</p> <p>第三回 教育のバリアフリーとICT利用(近藤先生)4月22日          &lt;身体機能を通してみる「バリア」&gt;</p> <p>第四回 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)4月25日</p> <p>第五回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生)) 5月6日</p> <p>第六回 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生) 5月20日          &lt;語り／言葉をめぐる「バリア」&gt;</p> <p>第七回 障害者の語り(能智先生) 5月27日</p> <p>第八回 当事者研究の可能性(熊谷先生)6月3日</p> <p>第九回 当事者とは誰か——現象学的質的研究から考える(大塚先生)6月10日</p> <p>第十回 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生)6月17日          &lt;社会のひずみとしての「バリア」&gt;</p> <p>第十一回 移民の子どもから考える日本社会のバリア(額賀先生)6月24日(オンデマンド)</p> <p>第十二回 社会現象としての「障害」(星加先生)7月1日</p> <p>第十三回 「バリア」の認識論(星加先生)7月8日</p>
授業の方法	この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。 zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。
成績評価方法	毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の10分に、ITC-LMSを用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば30字以内)は、0点とすることがあります。およそ200字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	zoomの参加URLについては、現在のところ、この講義に固定されたURLとなっておりますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。 インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。 バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当



utbarrier.studies@gmail.com

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09226101	担当教員	藤村 宣之		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	教授・学習心理学概論(教育・学校心理学) Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教授・学習にかかわる認知プロセス, 小学校～高校の授業における教授・学習のプロセス, それに関連する子どもの発達のプロセス, それらの学習や発達を促進する学習方法について一人一人の学習者の視点から心理学的に明らかにする。それらの心理学的知見をもとに, 子どもの学力やリテラシーの形成に有効な各教科の学習内容や学習方法の構成についても検討する。
授業計画	<p>第1回:世界における教育の動向と教授・学習心理学の意義</p> <p>第2回:子どもの学力の心理学的分析①(数学的・科学的リテラシー, 概念的理解)</p> <p>第3回:子どもの学力の心理学的分析②(読解力, 無答率, 学習観, 手続き的知識)</p> <p>第4回:教授・学習のベースとなる発達プロセス①(発生的認識論, 構成主義)</p> <p>第5回:教授・学習のベースとなる発達プロセス②(素朴理論, 概念発達)</p> <p>第6回:教授・学習に関わる認知的プロセス①(知識獲得, 熟達化, 初心者と熟達者)</p> <p>第7回:教授・学習に関わる認知的プロセス②(発見学習, 有意味受容学習, 認知的葛藤, 探究)</p> <p>第8回:教授・学習に関わる認知的プロセス③(社会的相互作用, 他者, 協同過程)</p> <p>第9回:授業を通じた個人の変化と学習方法①(既有知識, 概念変化, 方略変化)</p> <p>第10回:授業を通じた個人の変化と学習方法②(協同的探究学習, 教科学習)</p> <p>第11回:授業を通じた個人の変化と学習方法③(授業過程, 教育評価)</p> <p>第12回:授業を通じた長期的変化(個人内変化, 自己説明, 記述型課題)</p> <p>第13回:教授・学習心理学の展開(社会性の発達, 発達と学習の関連)</p>
授業の方法	学校の授業における教授・学習のプロセスや, それを基礎づける発達や認知のプロセスについて, 教科書に記載されている具体的な研究事例をもとに理解し, さらに, それにもとづく学習方法や学習内容の構成について, 教科書に記載されている心理学的実践研究を中心に考察を深める。
成績評価方法	最終レポート(期末レポート), 授業時の小レポート, 授業への参加状況を総合して行う。
教科書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橋春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018年)
参考書	『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』(藤村宣之著, 有斐閣, 2012年), 『発達心理学—周りの世界と関わりながら人はいかに育つか—(第2版)』(藤村宣之編著, ミネルヴァ書房, 2019年), 『新しい時代の教育方法(改訂版)』(田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著, 有斐閣, 2019年)
履修上の注意・備考	<p>【履修上の注意点】</p> <p>2020年度および2019年度以前開講の「教授・学習心理学概論」と同一科目のため, 既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p> <p>オンラインで授業を実施する予定である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09226102	担当教員	遠藤 利彦
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	発達心理学 Developmental Psychology		
		時限	月 2

授業の目的・概要	<p>授業の目標: 現代発達心理学の成果に基づき、子どもの発達のプロセスとメカニズムおよび人の一生涯に亘る連続性と変化について基本的理解を得るとともに、心身の発達に資する養育・教育環境の役割について考究する力を身につける。</p> <p>授業の概要: 近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するか、加えて、人生後半、とりわけ中高齢期にどのような心理的課題があるかなどについても論考することにした。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHD や自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。</p>
授業計画	<p>第1回: 私的発達心理学序論: 錯覚と発達①</p> <p>第2回: 私的発達心理学序論: 錯覚と発達②</p> <p>第3回: 生涯発達心理学の展開と課題</p> <p>第4回: 遺伝と環境①: 進化発達心理学</p> <p>第5回: 遺伝と環境②: 行動遺伝学</p> <p>第6回: 発達における時間の意味: 個体発生</p> <p>第7回: 発達の素地としてのアタッチメント</p> <p>第8回: アタッチメントの起源と発達</p> <p>第9回: アタッチメントの個人差とその規定因および発達の帰結</p> <p>第10回: 子どもの対人関係の広がりと自己の発達</p> <p>第11回: 「心の理論」の起源と発達</p> <p>第12回: 感情および感情知性の発達とその機序</p> <p>第13回: 人生後半(中高年期)における心理的課題</p> <p>第14回: 発達障害とその支援</p> <p>第15回: 総括と展望</p> <p>定期試験</p>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	基本的に試験成績に基づいて行う(小レポートを適宜、課す場合もある)。
教科書	特に用いない。
参考書	<p>数井みゆき・遠藤利彦(編著)『アタッチメント: 生涯にわたる絆』ミネルヴァ書房 2005年</p> <p>遠藤利彦(編著)『発達心理学の新しいかたち』誠信書房 2005年</p> <p>遠藤利彦(編著)『読む目・読まれる目: 視線理解の進化と発達の心理学』東京大学出版会 2005年</p> <p>数井みゆき・遠藤利彦(編著)『アタッチメントと臨床領域』ミネルヴァ書房 2007年</p> <p>遠藤利彦・他(著)『乳幼児のこころ: 子育て・子育ての発達心理学』有斐閣 2011年</p> <p>小西行郎・遠藤利彦(編著)『赤ちゃん学を学ぶ人のために』世界思想社 2012年</p>

氏家達夫・遠藤利彦(編著)『発達科学ハンドブック 5: 社会・文化に生きる人間』新曜社 2012 年  
小林隆児・遠藤利彦(編著)『甘えとアタッチメント』遠見書房 2012 年  
遠藤利彦(著)『「情の理」論: 情動の合理性をめぐる心理学的考究』東京大学出版会 2013 年  
遠藤利彦・他(編著)『よくわかる情動発達』ミネルヴァ書房 2014 年  
箱田裕司・遠藤利彦(編著)『本当のかしこさとは何か: 感情知性を育む心理学』有斐閣 2015 年  
秋田喜代美(監修)・遠藤利彦・他(編著)『乳幼児の発達と保育』朝倉書店 2019 年  
遠藤利彦(編著)『情動発達の理論と支援』金子書房 2021 年  
遠藤利彦(編著)『入門: アタッチメント理論—臨床・実践への架け橋』日本評論社 2021 年

**履修上の注意・備考**

授業時に指示する参考文献に、授業後、可能な限り、目を通すこと。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09226201	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、下山 晴彦、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、宇佐美 慧		
単位数	4.0	学期	S1S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅱ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology II				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査(質問紙)データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(学校、老人ホーム)の見学も行っていく。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。 2019 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅱ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。 公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。 掲載されているオンライン URL は初回のものである。2 週め以降については、初回授業内での指示にしたがって URL にアクセスすること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09226202	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、下山 晴彦、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、宇佐美 慧		
単位数	4.0	学期	A1A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology III				

授業の目的・概要	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
授業計画	1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。
授業の方法	グループ実習
成績評価方法	研究活動、レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	必要に応じて授業中に指示する
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。「教育心理学実験演習Ⅰ」「教育心理学実験演習Ⅱ」とともに、実質的に、教育心理学コースの必修科目である。ほかの実験演習に比べると、参加者自身が、研究に積極的にかかわっていける余地が大きく、コースの科目では模擬卒業論文のような位置づけとなっている。  【履修上の注意点】 2018 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅲ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09226501	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、宇佐美 慧		
単位数	2.0	学期	通年	時限	火 5
講義題目	教育心理学研究指導 Guided Research in Educational Psychology				

授業の目的・概要	学位論文作成の指導を行います
授業計画	個別指導と、コース教員参加の発表会。
授業の方法	個別あるいは集団で行います
成績評価方法	参加を持って行います
教科書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
参考書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	主体的な参加が前提です
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09227201	担当教員	野崎 大地、岸 哲史、東郷 史治		
単位数	3.0	学期	S1	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習 I Laboratory in Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	<p>予定項目は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. Excel, JASPによる簡単なデータ処理・統計処理</li> <li>3, 4. Matlab の使い方</li> <li>5. 動作分析</li> <li>6. 運動学習課題</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。</li> <li>・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。</li> <li>・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。</li> </ul>
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健



時間割コード	09227202	担当教員	野崎 大地、岸 哲史、東郷 史治		
単位数	3.0	学期	S2	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	<b>身体教育学演習Ⅱ</b> Laboratory in Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09227203	担当教員	野崎 大地、岸 哲史、東郷 史治		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	<b>身体教育学演習Ⅲ</b> Laboratory in Physical and Health Education III				

授業の目的・概要	<p>身体教育学演習Ⅰ</p> <p>Ⅱ で得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行い、一連の研究遂行の流れをつかんでもらう。</p>
授業計画	<p>2.</p> <p>3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまで行う「プロジェクト研究」を実施する。</p>
授業の方法	<p>・2.</p> <p>3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。</p> <p>・毎週、進捗状況を報告する。</p> <p>・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。</p>
成績評価方法	平常点(出席)、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	教科書は指定しない。
参考書	参考書は指定しない。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09227204	担当教員	野崎 大地、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	運動指導方法(夏季野外種目) Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer)				

授業の目的・概要	野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。
授業計画	2022年度は7月下旬に3泊4日で実施予定(費用は個人負担)。 ガイダンスを6月中旬、事前打ち合わせを7月中旬に行う。 日程は決まり次第掲示する。
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)体育実技」に該当する。 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照 <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

時間割コード	09227501	担当教員	野崎 大地、森田 賢治、多賀 巖太郎、山本 義春、岸 哲史、佐々木 司、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	通年	時限	火 5
講義題目	身体教育学研究指導 Tutorial in Physical and Health Education				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	卒業論文の計画書を作成し、本コースの全教員からその内容に対する助言・指導を受ける。
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	本年度に卒業論文を執筆し提出する予定の4年次を対象とする。
教育職員免許法上の認定科目	

教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目

時間割コード	09228001	担当教員	山辺 恵理子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	Philosophical Issues in Education Philosophical Issues in Education				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09228002	担当教員	藤田 武志
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	月 4
講義題目	学校はデータでどう描けるか How to Describe Schools: Research Methodology on Schooling		

<b>授業の目的・概要</b>	<p>学校は、現代日本社会において重要な役割を担っています。それゆえに、社会的な問題にもなりやすく、学校にかかわるできごとが新聞やテレビで取り上げられない日はないと言っても過言ではありません。しかし、学校にかかわるできごとは、自分や身近な人の体験などをもとに主観的に語られることが多く、客観的なデータに基づく検証が十分なされないまま、社会問題化してしまうこともしばしばです。</p> <p>学校について学術的に分析する際はもちろんのこと、政策課題として検討するときや、教員として、または保護者や地域の人間として学校に関わるときも、主観が先行して議論が錯綜したり迷走したりしないためには、データに基づいて客観的に学校を理解していることが望ましいでしょう。しかし、どんなデータであれ、一つのデータで学校を丸ごと描くことはできません。どのようにデータを作成し、どのようにそのデータを読むかで、描ける学校は変わってきます。</p> <p>この講義では、学校について論じたいテーマに適したデータはどのようなものか、そのデータをどのように読めばよいかということについて、「蒐集」「分類」「比較」という3つの手続きに注目しながら考えていきます。具体的には、学校制度の全体的状況、学校段階、学校内のいろいろな場面など、学校を多面的に捉えながら、データによって語る技法や注意点について学習します。講義を通して、データから学校を想像する力や、学校についてデータを使いながら考える力を身につけていくことを目的とします。</p> <p>なお、この講義は、社会調査士資格取得のための「【 C 】 基本的な資料とデータの分析に関する科目」に該当しています。</p>
-----------------	--

<b>授業計画</b>	<p><b>第1回 イン트로ダクション</b></p> <p>データや資料に基づく検証のしかたについて、データをつくり(「蒐集」)、データをまとめ(「分類」)、データを読む(「比較」)手続きを説明する。</p> <p><b>第2回 カリキュラムから描く</b></p> <p>統計資料や学校文書等を、単純集計や度数分布等の形で整理して、日本の学校制度やカリキュラムの特徴について説明する。</p> <p><b>第3回 人数から描く</b></p> <p>官庁統計資料等を、度数分布や代表値を用いてグラフに整理して、学校規模や進学率等から捉えられる日本の学校の実態の特徴について説明する。</p> <p><b>第4回 教育費から描く</b></p> <p>官庁統計資料等を、度数分布や代表値を用いて整理して、学校教育に関わる教育費の特徴について説明する。</p> <p><b>第5回 対象からデータを「蒐集」「分類」「比較」する(1)</b></p> <p>受講者間で模擬調査を行って、そのデータを使いながら、代表値の算出とクロス分析の手続きを実際にやってみる。今回は、数人単位のグループをつくって、アンケートづくりをする。</p> <p><b>第6回 学習の様子や学力から描く(1)</b></p> <p>調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、因果関係・相関関係・擬似相関などを読み解きながら、児童・生徒の学習のようすや学力の特徴について説明する。今回は、二重クロス分析を紹介する。</p> <p><b>第7回 学習の様子や学力から描く(2)</b></p> <p>調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、因果関係・相関関係・擬似相関などを読み解きながら、児童・生徒の学習のようすや学力の特徴について説明する。今回は、三重クロス分析を紹介する。</p> <p><b>第8回 対象からデータを「蒐集」「分類」「比較」する(2)</b></p> <p>受講者間で模擬調査を行って、そのデータを使いながら、代表値の算出とクロス分析の手続きを実際にやってみる。</p>
-------------	---

	<p>今回は、グループごとに、アンケートデータの集計を試みる。</p> <p>第9回 対象からデータを「蒐集」「分類」「比較」する(3)</p> <p>受講者間で模擬調査を行って、そのデータを使いながら、代表値の算出とクロス分析の手続きを実際にやってみる。</p> <p>今回は、グループごとに、分析結果の検討をする。</p> <p>第10回 教師から描く</p> <p>調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、教師の職務の特徴について説明する。</p> <p>第11回 部活動から描く</p> <p>調査報告やフィールドワーク論文のデータや資料等を用いて、部活動の特徴について説明する。</p> <p>第12回 学校建築、教具から描く</p> <p>歴史研究論文の資料等を用いて、ドキュメント資料をどのようにまとめているかを読み解きながら、学校の施設・設備の特徴について説明する。</p> <p>第13回 学校の規模、立地から描く／まとめ</p> <p>既存統計資料や調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、学校規模や学校の立地する自治体の人口規模の違いが学校教育活動に及ぼす影響について説明する。</p> <p>さまざまなデータの「蒐集」「分類」「比較」という3つの手続きについて再確認しながら、学校を描くにあたりどのようなテーマにはどのようなデータを用いるのが適切かを説明する。</p>
<b>授業の方法</b>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Zoom を用いたリアルタイム型オンライン授業で行います。所定の火曜日2限(90分)で、ハイブリッド授業実施にかかる時間割に基づき、10時25分～11時55分で行います。</p> <p>主に、基礎的な資料とデータの分析に関する講義です。</p> <p>加えて、模擬調査のためのアンケートを作成し、そのデータを集計・分析する演習作業を取り入れます。教室での対面授業であれば、その場で何人かの固定のグループをつかって、一緒にアンケートを作成したり、データの集計作業をしたりできるのですが、オンライン</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>(1)模擬調査の小レポート(50%)</p> <p>(2)最終レポート(50%)</p>
<b>教科書</b>	<p>教科書は使用しません。</p> <p>基本的に、毎回、データや資料をまとめたレジュメを、ITC-LMS にアップしておきます。</p>
<b>参考書</b>	<p>藤田武志・西島央 2020 『教育調査の基礎』(放送大学教育振興会)</p> <p>北川由紀彦・山口恵子 2019 『社会調査の基礎』(放送大学教育振興会)</p> <p>安藤明之 2021 『第3版 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』(日本評論社)</p> <p>盛山和夫 2004 『社会調査法入門』(有斐閣ブックス)</p> <p>佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法』(新曜社)</p> <p>佐藤郁哉 2015 『社会調査の考え方』(上・下)(東京大学出版会)</p> <p>地方史研究協議会 2019 『学校資料の未来』(岩田書院)</p> <p>耳塚寛明監修 中西啓喜編著 2021 『教育を読み解くデータサイエンス』(ミネルヴァ書房)</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>履修のための予備知識その他の条件はありません。</p> <p>社会調査士資格の取得をめざす学生は、受講するようにしてください。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学</p>

時間割コード	09228003	担当教員	北村 友人、草薨 佳奈子、藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学 期	A2	時 限	月 3, 月 4
講義題目	学校教育学概論 An Introduction to Study on School Education				

授業の目的・概要	<p>私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに学校教育の歴史、世界やグローバル社会との関係における学校、教職と教員育成、教科教育という4つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。</p>
授業計画	<p>第1回 学校教育を考える視点</p> <p>第2回 学校における子どもの経験と教師の経験</p> <p>第3回 学校教育の特徴</p> <p>第4回 学校を構成しているヒト・モノ・コト</p> <p>第5回 世界の教育改革と国際学力調査</p> <p>第6回 日本型教育モデルと海外のレッスンスタディ(授業研究)実践</p> <p>第7回 世界の市民性教育と非認知能力の育成</p> <p>第8回 日本型学校教育の特徴と海外での Tokkatsu(特別活動)実践</p> <p>第9回</p> <p>第10回 教師の学習</p> <p>第11回 学校を基盤とする授業研究</p> <p>第12回 現代の学校改革</p> <p>第13回 まとめ</p>
授業の方法	<p>授業の方法:第1回は全体でガイダンスを行う。第2回以降は、3名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。</p>
成績評価方法	<p>成績評価方法:授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
参考書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>配布された資料や教材を熟読し、問題意識を持って授業に臨むこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09228004	担当教員	勝野 正章、村上 祐介		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	<b>教育行財政学</b> Educational Administration and Educational Finance				

<b>授業の目的・概要</b>	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。前半を村上が、後半を勝野が担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
<b>授業計画</b>	以下のような事項・内容を扱う。※変更することがある 教育行財政分野(村上担当) 教育行政の範囲と展開、国の教育行政制度、自治体の教育行政制度、教育行政における国と自治体の関係、教育費と教育財政、教育課程と教職員に関する制度 教育経営・学校経営分野(勝野担当) 教育における平等(アファーマティブ・アクション論)、「効果のある学校」研究、学校組織の特徴、教員評価、学校と保護者・地域の連携(ソーシャルキャピタル論)
<b>授業の方法</b>	前半(教育行財政分野)は、あらかじめアップロードした動画を視聴するオンデマンド方式で行う予定であるが、履修者の状況などによってはオンラインによる講義を行うことがある。後半(教育経営・学校経営分野)は、オンラインによる講義を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。
<b>成績評価方法</b>	期末試験による。
<b>教科書</b>	特になし。
<b>参考書</b>	勝野正章・村上祐介編著(2020)『新訂 教育行政と学校経営』(放送大学教育振興会) 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』(有斐閣) 勝野正章・藤本典裕編著(2015)『教育行政学(改訂新版)』(学文社) 青木栄一・川上泰彦編著(2019)『教育の政治・行政・経営』(放送大学教育振興会)
<b>履修上の注意・備考</b>	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)

時間割コード	09228005	担当教員	李 正連		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	<b>社会教育論 I</b> Theories of Adult Education I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会教育・生涯学習とは何か</li> <li>2. 社会教育の歴史的理解</li> <li>3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論</li> <li>4. 生涯学習の国際的動向①: 欧米の動向を中心に</li> <li>5. 生涯学習の国際的動向②: アジアの動向を中心に</li> <li>6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策</li> <li>7. 社会教育施設・職員</li> <li>8. 学校教育と社会教育・生涯学習</li> <li>9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習①</li> <li>10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習②</li> <li>11. まちづくりと社会教育・生涯学習</li> <li>12. 参画型社会と市民の学び</li> <li>13. 期末試験</li> </ol>
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末試験 70%
教科書	なし
参考書	授業中随時提示する。
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09228006	担当教員	影浦 峯
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	情報・資料分析論演習 Seminar in the Analysis of Information and Documents		
		時限	木 4

授業の目的・概要	<p>標準的な統計学や調査法演習の一手手前(といっても内容的に手前なのではなく認識の問題を扱うと言う意味で)として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの先端的統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることとなります。特に何ということもありませんが、授業は英語でやる予定です。</p>
授業計画	<p>第1回:導入・データのかたち 第2回:表のかたち、表のバリエーション、グラフのバリエーション、用語、統計の大枠 第3回:量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 第4回～第6回:一変量データの分析(1) 図示とRの使い方 第7回～第9回:一変量データの分析(2) 区間推定の考え方とRの使い方 第10回～第12回:一変量データの分析(3) 仮説検定と分散分析 第13回:二変量・多変量・マルチウェイデータ 第14回:再び、データのかたち 第15回:再び、解釈の枠組みについて</p>
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組合せて進めます。
成績評価方法	成績は、主に(1)については課題の遂行により、(2)については小テストと授業への参加度により評価します。
教科書	使いません。
参考書	<p>直接授業には関係しませんが、並行して新井紀子『数学は言葉』(東京図書)を推奨します。 (2)に関連する参考図書として南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣)、ホーエル『初等統計学』培風館、柳井晴夫他『やさしい統計入門』(講談社ブルーバックス)などがあります。好みに応じて手元に置いておくとよいでしょう。英語ではホーエルの原書および Verzani Using R for Introductory Statistics. Chapman &amp; Hall.が授業との関係ではお勧めです。中級まで進みたい場合 DeGroot &amp; Schervish Probability and Statistics. Addison Wesley.がよいでしょう。Rを用いた入門書として日本語では山田ほか『Rによるやさしい統計学』(オーム社)をお勧めします。</p>
履修上の注意・備考	<p>実習でコンピュータを使います。 原則として対面で行う予定ですが、当然、安全管理の観点から、感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始時の状況で変わることはありえると思います。また、全学のこれまでの対応を見ると東大憲章の理念に必ずしも沿った対応がタイムリーになされてきたとは言えない面もあるため(たとえば 2021 年月上旬の段階で「飛沫・接触が中心」といった資料が提供されていました)、安全性評価は全学の動向を踏まえつつそれとは独立にも定期的に行い、学習のために必要と判断される場合には、途中で</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09228007	担当教員	影浦 峯		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 5
講義題目	教育研究調査法演習 Seminar on the Basics of Educational Research				

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「考える」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミックな議論に参加し「考える」基本的な手続きを学ぶ。授業は、表現すること、構成すること、参照することの三モジュールからなる。いわゆる「社会調査」などを扱う授業ではない。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論: 考えていることと考えていると考えていること、など</li> <li>2. 近代以降: デカルトと記号の問題</li> <li>3. 「べきだ」の普遍へ向けた解放</li> <li>4. 「考え」をはじめること</li> <li>5. 「考え」を支えることと参照 (1)</li> <li>6. 「考え」を支えることと参照 (2)</li> <li>7. 支えることと表現すること</li> <li>8. 表現すること (1) 言語と記号</li> <li>9. 表現すること (2) テキストのメカニズム</li> <li>10. つなげること</li> <li>11. 分析的課題と探究 (1)</li> <li>12. 分析的課題と探究 (2)</li> <li>13. 評価</li> <li>14. およそ考えることを可能にする条件をめぐって</li> </ol>
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な分析的課題を、4:3:3の割合で評価します。
教科書	使いません。
参考書	岩波文庫の主に青版のいくつか、ちくま学芸文庫の青背版に随時言及します。個別タイトルは授業中に示します。
履修上の注意・備考	<p>教育学部教育実践・政策学コース進学者は必修です。</p> <p>原則として対面で行う予定ですが、当然、安全管理の観点から、感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始時の状況で変わることはありえると思います。また、全学のこれまでの対応を見ると東大憲章の理念に必ずしも沿った対応がタイムリーになされてきたとは言えない面もあるため(たとえば 2021 年月上旬の段階で「飛沫・接触が中心」といった資料が提供されていました)、安全性評価は全学の動向を踏まえつつそれとは独立にも定期的に行い、学習のために必要と判断される場合には、途中で</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09228008	担当教員	クリスファー・ボンデー		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	Japanese Education Japanese Education				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09228009	担当教員	野崎 大地、森田 賢治		
単位数	2.0	学 期	A2	時 限	火 2, 金 2
講義題目	バイオダイナミクス Biodynamics				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わされ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	<p>下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～</li> <li>3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～</li> <li>4. 筋収縮のメカニクス ～筋はどうやって力を産み出すか～</li> <li>5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～</li> <li>6. 身体運動のダイナミクス ～身体運動の運動方程式～</li> <li>7. 身体運動のエナジェティクス ～エネルギー変換機としての身体～</li> <li>8. 身体運動の制御 ～脳が身体運動を制御する仕組み～</li> <li>9. 記憶のダイナミクス ～神経回路の働きから認知・行動へ～</li> <li>10. 意思決定のダイナミクス</li> </ol>
授業の方法	使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	講義中に指定する。
参考書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	<p>教育職員免許法上の認定科目:(体)運動学(運動方法学を含む)</p> <p>使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。</p> <p><a href="http://researchmap.jp/dnozaki/">http://researchmap.jp/dnozaki/</a> 資料公開/</p> <p>ITC-LMS「教材」(森田担当)</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

時間割コード	09228010	担当教員	佐々木 司、川内 基裕		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 5
講義題目	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病) Functional Anatomy				

授業の目的・概要	身体(脳・神経を含む)の構造と機能、それと関連した癌、生活習慣病、精神疾患などの疾病の病態・メカニズムの基本的知識を学習する。健康の維持・増進とその教育に役立つ視点からの講義を行う。
授業計画	最終回は期末試験とし、残りを、呼吸器、循環器、血液、消化器、筋・骨格系、神経・感覚器、生殖・発生に分けて講義を行う。
授業の方法	主に板書、または PPT を用いた講義形式で行う。ノートは必ずとること。
成績評価方法	期末試験で評価。出席はとらない。
教科書	佐々木の授業では、坂井建雄、橋本尚詞「ぜんぶわかる 人体解剖図」成美堂出版 を主な教科書とする
参考書	授業の中で適宜示す
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09228011	担当教員	登藤 直弥		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	心理学統計法 I Psychological Statistics I				

授業の目的・概要	<p>本講義では心理学で用いられる統計手法の基礎、および統計に関する基礎的な知識を学ぶ。内容としては、心理学の研究を進めるために統計学がなぜ必要となるかを概観したのち、1変量と2変量の記述統計学を扱い、そして推測統計学の導入を行う。これは、下記教科書の第1章から第4章までの範囲に対応する。本講義の目標は、受講生が心理統計学の基礎理論について数学的および概念的な理解を確立すること、およびそれを実際の心理学データ分析において適用するための手続きと技術を身につけることである。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学で用いられる統計手法</li> <li>2. 統計に関する基礎的な知識</li> <li>3. データとその表現・統計的方法の必要性</li> <li>4. 分布の代表値・分布の散布度</li> <li>5. 変数の線形変換と標準化</li> <li>6. 共分散と相関係数</li> <li>7. 回帰直線のあてはめ・予測値と残差の性質</li> <li>8. 相関係数と回帰係数の性質の違い</li> <li>9. 相関と共変と因果</li> <li>10. 測定の妥当性と信頼性</li> <li>11. 確率モデルと標本分布</li> <li>12. 比率の標本分布の導出</li> <li>13. 正規分布モデルと平均の標本分布</li> <li>14. 2変数正規分布モデルと相関係数・回帰係数の標本分布</li> <li>15. 確率モデルの適用に関する諸問題</li> </ol>
授業の方法	講義形式で実施する
成績評価方法	授業課題と期末試験により評価する
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009年)
履修上の注意・備考	<p>学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。</p> <p>本科目は複数学部から開講される合併科目であり、科目間での調整が行われるため試験が通常講義とは異なる曜限で実施されることがある。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017年度以前開講「心理統計学 I」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。</p>
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09228012	担当教員	能智 正博、野中 舞子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 1
講義題目	公認心理師の職責 Professionalism of Licensed Psychologists				

授業の目的・概要	公認心理師法の施行に伴い、国家資格である「公認心理師」が誕生した。本資格は心理学の知識に基づいて、医療・教育・福祉・産業・司法の主に 5 領域での業務を行う。公認心理師の資格を得るためには学部課程で 25 の必修科目を履修することが必須となる。本科目「公認心理師の職責」は公認心理師の必須科目であり、かつ公認心理師という資格の説明会も兼ねている。資格取得に関心を持っているものは幅広く履修することが望まれる。
授業計画	<p>第 1 回: イントロダクション・公認心理師の役割</p> <p>第 2 回: 公認心理師の法的義務及び倫理</p> <p>第 3 回: リスクマネジメント(利用者の安全確保と情報管理)</p> <p>第 4 回: 各領域の具体的業務: 医療領域①</p> <p>第 5 回: 各領域の具体的業務: 医療領域②</p> <p>第 6 回: 各領域の具体的業務: 教育領域①</p> <p>第 7 回: 各領域の具体的業務: 教育領域②</p> <p>第 8 回: 各領域の具体的業務: 福祉領域①</p> <p>第 9 回: 各領域の具体的業務: 福祉領域②</p> <p>第 10 回: 各領域の具体的業務: 産業領域①</p> <p>第 11 回: 各領域の具体的業務: 司法領域①</p> <p>第 12 回: 支援者としての自己課題発見・解決能力</p> <p>第 13 回: 生涯学習への準備</p>
授業の方法	オンラインで実施とする。講義への参加となる。
成績評価方法	出席点 30%, レポート 70%
教科書	特に指定しない
参考書	講義内で適宜紹介する
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部 4 年生で心理演習・心理実習を履修するためには単位取得が必須となる</li> <li>・オンラインで実施する</li> </ul> <p>授業計画の順番は変更となることがある。初回にて、スケジュールを説明するので確認すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09228013	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、下山 晴彦、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、宇佐美 慧		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習 I Experiments in Educational Psychology I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、性格検査、発達検査、知能検査、などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(養護学校、家庭裁判所)の見学も行っていく。なお、本授業は木曜日3、4限に隔週で実施する。また、本郷キャンパスやその他の場所で実施することもあるので十分に注意すること。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要な場合には授業中に指示を出す。
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09228014	担当教員	山本 義春、森田 賢治、野崎 大地		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	月 1, 木 1
講義題目	<b>身体教育学概論 I</b> Introduction to Physical and Health Education I				

<b>授業の目的・概要</b>	からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。
<b>授業計画</b>	主要な設定課題は以下の通りである(2021 年度)。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT/IoT とヘルスケア</li> <li>・日常生活のモバイル行動医学</li> <li>・生体のゆらぎとその役割</li> <li>・睡眠のしくみ</li> <li>・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構</li> <li>・価値の学習の脳身体機構</li> <li>・価値に基づく意思決定の脳身体機構</li> <li>・疾患の機序(依存症などに焦点を当てて)</li> <li>・身体運動の制御・学習の潜在性</li> <li>・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン</li> <li>・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構</li> <li>・身体運動の学習過程の科学</li> </ul>
<b>授業の方法</b>	教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。
<b>成績評価方法</b>	平常点(出席)およびレポート・小テストによる総合評価。
<b>教科書</b>	授業内で提示する。
<b>参考書</b>	授業内で提示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	授業内で提示する。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理

時間割コード	09228015	担当教員	多賀 巖太郎、佐々木 司、東郷 史治		
単位数	2.0	学 期	A2	時 限	月 1, 木 1
講義題目	<b>身体教育学概論Ⅱ</b> Introduction to Physical and Health Education II				

<b>授業の目的・概要</b>	脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。 ・発達とは何か ・健康とは何か？保健で何を学ぶか？ ・心身の発達 ・心身の健康・発達と遺伝・環境 ・脳の発達 ・免疫・アレルギーと感染症予防 ・睡眠・運動・代謝 ・セーフティ・プロモーション ・認知・言語・学習 ・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学 ・動的システム ・小児発達障害とはどのようなものか
<b>授業計画</b>	発達脳科学の基本概念や生体を動的システムとして理解するための基礎を学ぶ 健康教育の介入ポイントを明らかにするための疫学研究の基本的な方法論と行動変容の基礎的理論を学ぶ
<b>授業の方法</b>	教員による講義、課題の演習とレポート作成を組み合わせ授業を進める。
<b>成績評価方法</b>	出席、レポート、試験の総合評価とする。
<b>教科書</b>	指定はしない。
<b>参考書</b>	ストロガッツ: 非線形ダイナミクスとカオス、田中久陽、中尾裕也、千葉逸人(訳)丸善出版 2015 木原雅子、木原正博訳: 医学的研究のデザイン(第4版)メディカル・サイエンス・インターナショナル社
<b>履修上の注意・備考</b>	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)学校保健 に該当する。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス

時間割コード	09229101	担当教員	中野 貴文		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	国語科教育法(基礎) Basic Studies on Japanese Language				

授業の目的・概要	<p>中学高校における国語教育、とりわけ古典教育の在り様について、理念と実践の両面から考究する。高校生の7割が古典嫌いだと答える中、いかにすれば魅力的な古典の授業が作れるか、また単に面白いだけでなく、深く主体的な学びがなされるか、具体的な授業案に即しつつ学ぶことを目指す。</p>
授業計画	<p>中学・高校における新たな古典教育法、具体的には授業案の開発を目指す。定番教材に対する斬新な授業アイデアはもちろん、新たな教材の発掘も視野に入れ、最終的には学習者が自力で面白い授業を作れるようになることを目標とする。その中で、古典文学との向き合い方、調べ方、伝え方、そして古典を公教育の枠組みの中で学ぶことの意味なども、改めて問い直していく。</p>
授業の方法	<p>講義、ディスカッションによる。新型コロナウイルスの感染状況等によっては、オンラインでも受講できるようにする。</p>
成績評価方法	<p>毎授業時の課題(50%)、レポート(50%)による</p>
教科書	<p>特に固定したものは指定しない。毎週、適宜プリント等を配布する。</p>
参考書	<p>授業時間中に、適宜提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>この科目は教職に関する科目であるので、原則として「国語」の教員免許を取得しない者の受講は認めない。 履修を希望する方は、第1回目の授業が実施される前日までに、必ずメールでその旨連絡してください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法</p>

時間割コード	09229102	担当教員	頓所 本一		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)A Practical Studies on Japanese Language A				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>1. ことばを愛でる子どもを育てたい</p> <p>(1)国語を学んでどうということだろう?という哲学的な問いのない授業から子どもは逃走していきます。逃走する理由は3つの喪失です。ことばの喪失。自己の喪失。関係の喪失。今、中高生は「言葉」を信じられるものとして認識していません。中高生にとって言葉は、情報・コミュニケーションツール、記号です。正解のある文章読解に自己はいりません。〈わたし〉のおもいや考えよりも正解が優先されます。教師による教える講義が一般的です。クラスの友だちと互いの考えをshareし、その差異からことばを突き詰めていく関係は希薄です。</p> <p>(2)本講座では、まず「ことばを愛でる」ことを国語授業の哲学に据えます。そして、書を読むことは「〈わたし〉を読むこと」という、ことばと自己形成が互いに連関し合う道をビジョンとして歩んでいきたい。そのための活動システムとして、国語の真正性(世界づくり)、友との学び合い(仲間づくり)、自己形成(自分づくり)の三つの視座を通して、子どもが夢中になってことばの根を問い直し、仲間とその差異を突き詰め合いながら、一人もあきらめず、もがき合って自己を形成していく国語の授業づくりをデザインします。</p> <p>2. 本講座の大きな特徴</p> <p>【『探究の課題』の設定】</p> <p>本講座の大きな特徴は、授業での「学習課題の設定」にあります。国語の授業で教師がどのような学習課題を子どもに提示するかによって、言葉を愛でる子どもに育つか、言葉を信じない子どもに育てるか、大きく変わってきます。そこで、本講座では以下の3つを学習課題の不問としています。</p> <p>①「主題」を問わない ②「心情」(登場人物の気持ち)を問わない ③「理由」(なぜ?)を問わない</p> <p>です。主題中心主義の国語の授業から、作品(テキスト)中心主義の授業への転回です。たぶん、みなさんが中学校・高等学校で受けてきた国語の授業とは全く異なる授業スタイルだと思います。</p> <p>本講座で、みなさんと一緒に共有したいことは「教える」(作品論・作家論・文章読解)国語の授業ではありません。テキストのことばを通して読み味わう、読み描く、文脈を読む授業にしたいのです。詳細については実際の講義でお話します。</p> <p>【3つの問い直し】</p> <p>そのために本講座では、以下の三つの「聴く」について問い直していきます。</p> <p>①【わたしを聴く】 事前提出物(詩画集・自己紹介シート)から、〈わたし〉の自己形成を問い直します。</p> <p>②【ことばを聴く】 事前提出物(ミニ授業で選んだテキスト)を読み合い、突き詰めたい叙述を問い直します。</p> <p>③【からだを聴く】 教育現場で実践を重ねている先輩のお話から、子どもを感受していく教師のからだや実際の授業での教師の居方について問い直します。</p> <p>【ミニ授業の試み】</p> <p>そして、講義後半は受講生全員に模擬授業(20~30分:受講者数によって時間帯に変更あり)をしていただきます。「教える」授業ではありません。ことばを「読み味わう/読み描く」授業です。受講生(学生)が生徒役になって学習課題を追究します。授業デザインには受講生全員が理解できる『共有の課題』(平等性)と、グループで追究し合う『探究の課</p>
-----------------	--

題』(質の向上)の2つを設定します。

このような授業デザインづくりや学習課題づくりを受講生の仲間と共有することで、今後の教育実習に生かしていただければ幸いです。

## 授業計画

1 日目『聴くということ』

1 回【ガイダンス】自己紹介/本講座のねらい…テキストを読み味わう学習課題はどうあるべきか？(主題を問わない・理由を問わない・心情を問わない)

【演習】「ことば」を聴く『詩「さようなら」(谷川俊太郎)』をテキストに中高生に授業をするとしたら、どのような学習課題を設定するか？』

2 回【演習】ことばを聴く

「受講生が選んだテキストを互いに読み、心に残った叙述・探究の課題にしたい叙述をメッセージとして伝えよう。」〈わたし〉が選んだテキストを受講生はどんな初感想をもったのか？どんな叙述に関心を寄せたのか、生徒の読みの視点を感じ取る。

3 回【演習ペア】

仲間の声を聴く「自己紹介文・詩文集・心に残った叙述について語り合い、『ひと』を感じていく。」

2 日目『子どものくらしに身を置くということ』～教育現場で実践を重ねている先輩から学ぶ(予定)～

4 回【講話・演習】

〈わたし〉の国語授業づくり～ことばと向き合う・子どもと向き合う・自分と向き合う～(先輩のお話)【ビデオカンファレンス】

教育現場の先輩の授業から学ぶ「子どもの声を聴く、友だちとつなぎ、テキスト(叙述)に戻す」

5 回【講話・演習】

教育現場からみえてくる国語授業の課題、今後の国語教育のゆくえ(先輩のお話)予定

6 回【reflection・演習】

先輩のお話を聴いて全体で share⇒レポート作成、模擬授業デザイン作成

3 日目『模擬授業「1 人 20 分間」』～〈わたし〉が構想した学習課題は受講生を夢中にさせたか？工夫させたか？もがかせたか？～

7 回【模擬授業に向けての授業計画】

聴く・つなぐ・もどす (導入計画・指名計画・板書計画など)

8 回【模擬授業】

①1人20分間×4人 \* 授業者の順番は講義当日お知らせします。

9 回【模擬授業】

②1人20分間×4人

4 日目 模擬授業「1 人 20 分間」教師の居方(聴く・つなぐ・もどす)を授業に取り入れる

10 回【模擬授業】

③1人20分間×4人

11 回【模擬授業】

④1人20分間×4人 \* 受講生の人数によって内容に変更もあります。

12 回【カンファレンス】

模擬授業からの学び(省察)/教育実習で生かしたいこと

13 回 本講座の振り返り

\* 上記の講義内容は受講者が 16 人の場合を想定して計画しました。受講者全員に模擬授業をしていただきますが、人数によって講義内容が変わることを予めご承知おきください。

## 授業の方法

講義 グループ学習(男女混合) 演習 ビデオカンファレンス 模擬授業(20分間の模擬授業)

<b>成績評価方法</b>	<p>①事前提出物(詩画集・模擬授業テキスト)状況</p> <p>②講義中の提出物(保育園見学事後レポート・模擬授業ワークシート)状況</p> <p>③講義の出席状況</p> <p>④最終レポート提出状況(講義を受講して学んだこと。4,000字以上。×切 受講後2週間以内)</p>
<b>教科書</b>	<p>「学びの光源」 頓所本一著 明治図書 2,500円</p> <p>* Amazonにて購入いただけます。</p> <p>* 必要であれば講義1日目にお渡しします。代金を持参ください。</p>
<b>参考書</b>	<p>「授業研究入門」稲垣忠彦・佐藤学 岩波書店</p> <p>「学びのゆくえ」牛山榮世 岩波書店</p> <p>「教師花伝書」佐藤学 小学館</p> <p>「教師の身体技法」佐藤学 太郎次郎社</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>1 本講義は「対面」授業が原則です。「対面」授業に参加できない場合は受講を控えてください。</p> <p>2事前提出物について</p> <p>【集中講義前に提出していただきたいこと】</p> <p>【重要】本講座は事前に提出していただくものが多いです。以下のことを念頭に入れて受講判断ください。</p> <p>1 受講者は講義事前に以下までメールをください。事前に提出いただくシートを添付いたします。メールがない場合は受講できませんので予めご承知ください。</p> <p>kuniyuumikihiro2010@yahoo.co.jp</p> <p>2 講義の事前に提出いただくもの【事前に</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	



時間割コード	09229103	担当教員	勝亦 あき子		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)B Practical Studies on Japanese Language B				

授業の目的・概要	<p>本授業は、教育実習に必要な技能を身につけることを目標とします。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.中等教育における国語科の授業計画と実践の手順を理解し、教材研究に基づく学習指導案を作成する。</li> <li>2.協働学習、探究的な学習を意識した学習活動を取り入れて授業を計画する。</li> <li>3.目的と状況に即した教具の選定や使用方法の工夫を取り入れて授業を計画する。</li> <li>4.授業改善につながる観察の要点を理解し、適切に授業を見学する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・学習指導案の構成と学習指導要領との関係</p> <p>第2回 国語科における教材の役割</p> <p>第3回 協働学習・探究的な学習の意義と方法・授業者の役割</p> <p>第4回 授業観察(ビデオ)</p> <p>第5回 授業検討会</p> <p>第6回 教材研究のあり方と教具の工夫</p> <p>第7回 教材研究</p> <p>第8回 指導案作成</p> <p>第9回 指導案検討</p> <p>第10回 模擬授業 A</p> <p>第11回 授業検討 A</p> <p>第12回 模擬授業 B</p> <p>第13回 授業検討 B</p>
授業の方法	<p>第1回～第3回・第6回 授業者による講義および受講生による議論</p> <p>第4回・第5回 授業映像の視聴とその検討</p> <p>第7回・第8回 教材研究と指導案作成</p> <p>第9回 受講生による議論</p> <p>第10回～第13回 模擬授業と授業検討</p>
成績評価方法	参加状況・受講態度・提出物(学習指導案・レポート)により、総合的に評価する。
教科書	<p>【国語編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説</p> <p>【国語編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説</p>
参考書	<p>【国語編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説</p> <p>【国語編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説</p>
履修上の注意・備考	<p>欠席すると、その後の活動が困難となる可能性がある場合がございます。</p> <p>ほぼ毎回グループを編成し共同作業やディスカッションを行いますことをご了承下さい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※附属中等教育学校

時間割コード	09229104	担当教員	田中 暁龍
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(基礎) Basic Studies on Social Studies, Geography and History		
		時限	金 2

授業の目的・概要	<p>&lt;テーマ&gt;</p> <p>中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を理解している。</li> <li>2. 中学生(及び高校生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、評価の考え方の基本を理解している。</li> <li>3. 中学校社会科の学習指導案の構成を理解して(高校への接続を視野に入れて)、具体的に作成できるとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol> <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>本授業は、①社会科の成立からその後の変遷と学習指導要領における社会科(地理・歴史的分野)及び地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係を把握し、③教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を行う。</p> <p>その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
授業計画	<p>&lt;オンライン授業&gt;</p> <p>第1回:オリエンテーションー社会科との出会いー、第2回:社会科の成立ー「問題解決学習と系統学習」ー、第3回:社会科の変遷と新しい学力観ー「『覚える』から『考える』社会科へ」ー、第4回:中学校学習指導要領における社会科(地理的分野)の目標・内容・指導上の留意点、地理歴史科の成立と学習指導要領における地理歴史科の目標と構成、第5回:中学校学習指導要領における社会科と歴史的分野の目標・内容・指導上の留意点、高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点ー「歴史総合」「地理総合」ー、第6回:社会科授業論1(地理的分野)ー「地理的技能、地図の活用と読図・作図」ー、第7回:社会科授業論2(歴史的分野)ー「資料の活用と歴史的思考力」ー、第8回:社会科学習指導案の作成1ー「学習指導案の骨子をつくる」ー、第9回:社会科学習指導案の作成2ー「学習評価と問い、教材の効果的な活用」ー、第10回:社会科学習指導案と模擬授業1ー導入を中心にー、第11回:社会科学習指導案と模擬授業2ー「語り」を中心にー、第12回:社会科学習指導案と模擬授業3ー「板書」を中心にー、第13回:社会科地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正(模擬授業の回数や方法については受講者の人数により変更あり)</p>
授業の方法	講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。
成績評価方法	課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成30年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成31年)
参考書	荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022年) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成20年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成22年) このほか授業中に適宜資料を配布する。

<b>履修上の注意・備考</b>	教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業より必ず出席すること。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09229105	担当教員	田中 暁龍
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A		
時限	金 2		

授業の目的・概要	<p>&lt;テーマ&gt;</p> <p>中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解と指導の実践</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を深く理解している。</li> <li>2. 高校生(及び中学生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、学習評価の考え方を理解している。</li> <li>3. 社会科・地理歴史科にかかわる専門領域や探究的な実践研究の動向を知り、様々な指導理論を理解している。</li> <li>4. 高等学校地理歴史科の学習指導案の構成を理解して(中学校社会科との連続性に配慮して)、具体的に作成するとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol> <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションー地理歴史科における講義型と探究型の授業ー、第2回:歴史教育と教科書ー日本の教科書と世界の教科書、共通教科書ー、第3回:探究型で学ぶ社会科教育の実践と評価ー「思考・判断・表現力等」の育成ー、第4回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点1ー「地理総合」「地理探究」ー、第5回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点2ー「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」ー、第6回:モノ教材の効果的な活用と博学連携、第7回:地理情報システム&lt;GIS&gt;と地域調査ー伝統・文化の理解と持続可能な社会の形成ー、第8回:資料(文字史料・絵画資料等)の効果的な活用と「問い」、第9回:現代的な諸課題と新科目「歴史総合」、学習指導案の作成、第10回:模擬授業1ー導入「効果的な導入とは」、第11回:模擬授業2ー展開「資料の活用」「単元の基軸となる問い」、第12回:模擬授業3ーまとめ「現代的な諸課題とのかかわり」、第13回:社会科・地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正(模擬授業の回数や方法については受講者の人数により変更あり)</p>
授業の方法	<p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業運営を進めていく。</p>
成績評価方法	<p>課題レポートなどの提出物を 60%、発表活動など授業への取り組みを 40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成 30 年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成 31 年)</p>
参考書	<p>荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022 年)</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成 20 年)</p>

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成 22 年)

このほか授業中に適宜資料を配布する。

**履修上の注意・備考**

教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業から出席すること。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09229106	担当教員	野崎 雅秀、橋本 渉		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	<p>本講座では、中学社会および高等学校地理歴史の授業とその実践について、教育実習や教育現場での実践を想定した授業論、方法論、および現場からの教育論として転嫁する。具体的な実践としては、授業づくり(具体的には、指導案作成)や教材の収集と精選およびその組織、実践としての模擬授業、さまざまな生徒の能力への対応技術などを念頭に置き、講座を展開する。学指導要領が改訂され、教育目標や指導の方法は大きく変わろうとしている。本講座は、参加者によるディスカッションや授業づくりを実践的に展開し、教育現場で起こり得る課題や問題を反映した、教科教育の講座として組織する。</p>
授業計画	<p>本講座の授業は、2名の附属学校教員により行われる。前半を橋本、後半を野崎が担当する。2人の授業内容の構成は、それぞれ以下の1から5までで構成される(授業の内容の順ではないので注意)。1. 教育の仕事、2. 歴史、3. 地理、4. 教育方法、5. 多様性と評価。また、本講座で扱う、キー概念(本講座のキーワードと同じ)は、1～10とする。</p> <p>1. 協働、2. 歴史観と視点(歴史の解釈を含む)、3. 地理教育の視点と授業、4. 知識の構造化、5. 歴史学の存在理由、6. 学習指導要領、7. ポストモダンと多様性、8. 模擬授業と授業実践、9. 主権者教育とシティズンシップ。キー概念は、講座内容を構成する個々の内容の中で、度々扱われる概念である。</p>
授業の方法	講義、ディスカッション、グループワーク、発表(模擬授業の実践を含む)
成績評価方法	試験、出席や授業での積極的な参加状況を重視
教科書	<p>教科書の指定は行わないが、授業づくりの基本として、以下の書籍を必読してほしい。</p> <p>J.S.ブルーナー 『教育の過程』岩波書店 1986年</p>
参考書	<p>J.S.ブルーナー 『教育の過程』岩波書店 1986年</p> <p>E.H.カー『歴史とは何か』岩波新書 1962年</p> <p>大野功『社会科教育法』1984年</p> <p>羽田正『新しい世界史へー地球市民のための構想』岩波新書 2011年</p> <p>橋本 渉『シティズンシップの授業』東洋館出版 2014年</p> <p>野崎雅秀『これからの「歴史教育法」』山川出版社 2017年</p> <p>平成30年改訂学習指導要領(本文、解説)</p>
履修上の注意・備考	成績の評価方法にも記載したように、本講座は授業に出席し、参加することが必要である。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09229107	担当教員	小澤 富士男		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	社会成員としての自覚と能力を生き、社会科学的な知識や人文科学的な知識を踏まえ、自主的な探求や主体的な関りを通し、さまざまな授業事例を学びながら、多面的で多角的な社会科・公民科教育を探究する
授業計画	<p>1時間目:「この授業」を創る「この」について「選挙制度」から捉える</p> <p>2時間目:「この授業」を創る「この」について「カンカン列車はまちの旅」から捉える</p> <p>3時間目:主体的個人による公共への旅 授業事例1</p> <p>4時間目:「平和的状态とは何か?」を考える 授業事例2</p> <p>5時間目:「無知のヴェールを被って」(法の支配と人権について学ぶ) 授業事例3</p> <p>6時間目:貨幣を通して金融を展開(ゼロないしはマイナス金利の世界) 授業事例4</p> <p>7時間目:ロールプレイなどの様々な授業法を試みる 授業事例5</p> <p>8時間目:アクティブラーニングによる他者との協働を通した問題解決学習 授業事例6</p> <p>9時間目:「自己責任」時代の「今」とは 公民科教育の課題について考える 授業事例7</p> <p>10 時間目:授業案作成と授業スキルについて 模擬授業への準備</p> <p>11 時間目:授業をやってみよう 模擬授業1</p> <p>12 時間目:授業をやってみよう 模擬授業2</p> <p>13 時間目:初期キリスト教を授業化してみると 授業事例8</p>
授業の方法	授業事例の批判と討議を通して、公民科教育のスキルと教案作成上の留意点を学び、実践的な態度を涵養する
成績評価方法	レポートによる評価 80%及び授業への参加意欲 20%を加味する
教科書	中学校社会学習指導要領 公民科学習指導要領 教科書「中学校社会公民」あるいは「政治・経済」(出版元は問わない)
参考書	吉見俊哉著『ポスト戦後社会』 大澤真幸著『不可能性の時代』(いずれも岩波新書)
履修上の注意・備考	社会的成員としての自覚と批判力、社会へ関わる主体的な態度が求められる
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09229108	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(基礎) Basic Studies on Mathematics				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標にする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人」の先生になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や問題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進める。中学校授業参観、数学体験館での体験も行う予定である。授業・教材における ICT の利活用についても講義する。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション  第2回:学習指導要領の変遷  第3回:教材研究(数量領域「数と式①」)  第4回:教材研究(数量領域「数と式②」)  第5回:教材研究(図形領域①図形の見方)  第6回:教材研究(図形領域②ユークリッド空間)  第7回:教材研究(図形領域③)  第8回:教材研究(関数・解析領域 数学的な見方・考え方)  第9回:教材研究(データの活用・確率)  第10回:学習指導案について  第11回:数学体験館見学  第12回:デジタル教科書の実際  第13回:ICTの活用  第14回:到達度確認課題</p> <p>詳細はオリエンテーションで伝えます。</p>
授業の方法	<p>講義とグループ活動・作業的活動を行う。  アクティブラーニングを基本とする。</p>
成績評価方法	<p>小論文課題と筆記テストを行う。</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 数学編(平成 29 年),  中学校学習指導要領  高等学校学習指導要領解説 理数編(平成 30 年)</p>
参考書	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房  ”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房  その他は授業中に紹介します。</p>
履修上の注意・備考	<p>算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。  授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。  講義回数(14 回)の4分の3以上(11 回以上)の出席を履修条件とします</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと  学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)  <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>





時間割コード	09229109	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 1
講義題目	数学科教育法(実践)A Practical Studies on Mathematics A				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究と模擬授業の実施に重点を置く。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、中学校数学の検定教科書を用い各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成および模擬授業を行い、評価についても考える。教材研究のあり方や課題解決型授業の実践例を構成する。授業・教材における ICT の利活用についても体験する。</p> <p>到達目標は以下の通りとする。</p> <p>「数学教育の目的」「数学的な考え方」などが理解できたうえで、情報機器を使った学習指導案の作成と模擬授業が実施できること。パワーポイントなどを使って模擬授業が出来ることが望ましい。</p> <p>①生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。</p> <p>②教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</p> <p>③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p> <p>⑤当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション。使用テキスト購入。授業分担等</p> <p>第2回:学習指導案の作成について</p> <p>第3回:模擬授業 1(数と式 1:文字式)</p> <p>第4回:模擬授業 2(数と式 2:式の計算)</p> <p>第5回:模擬授業 3(数と式 3:1次方程式)</p> <p>第6回:模擬授業 4(数と式 4:式の計算(2学年))</p> <p>第7回:模擬授業 5(数と式 5:式の計算(3学年))</p> <p>第 8 回:模擬授業 6(数と式 6:2次方程式)</p> <p>第 9 回:模擬授業 7(図形 1:平面図形)</p> <p>第 10 回: 模擬授業 8(図形 2:図形の性質の調べ方)</p> <p>第 11 回: 模擬授業 9(図形 3:図形の性質の調べ方)</p> <p>第 12 回: 模擬授業 10(図形 4:三角形・四角形)</p> <p>第 13 回: 模擬授業 11(図形 4:円)</p> <p>第 14 回: 振り返りとディスカッション(オンライン)</p>
授業の方法	<p>教材研究と模擬授業を必須として行う。</p> <p>模擬授業実施後ディスカッション及び受講生による相互評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>模擬授業、模擬授業の学習指導案、振り返りとまとめの課題により評価する。</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 数学編(平成 29 年)(各自購入)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理数編(平成 30 年)(各自購入)</p> <p>中学校数学の検定済教科書(学校図書株式会社 中学校数学1~3)(第 1 回に購入)</p>
参考書	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房</p> <p>”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房</p> <p>その他は授業中に紹介します。</p>

**履修上の注意・備考**

算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。履修者の模擬授業を中心に進めるため、講義に出席することを前提にします。

数学科教育法(基礎)を履修していることが望ましい。4 領域の内容を理解していること。学習指導案の作成については既習であることを前提とします。受講までに確認しておくこと。

当番回の模擬授業を欠席した場合は、単位を認めないので注意してください。

授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。

講義回数の4分の3以上(11 回以上)の出席(オンラインの回を含む)を履

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09229110	担当教員	石橋 太加志、今野 雅典		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(実践)B Practical Studies on Mathematics B				

授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。
授業計画	<p>第1回:「数学」と「学校数学」との違い</p> <p>第2回:現行の学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム</p> <p>第3回:学習指導要領の歴史</p> <p>第4回:学習指導法</p> <p>第5回:評価</p> <p>第6回:教材研究(空間図形の模型作りを例にして)</p> <p>第7回:教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして)</p> <p>第8回:教材開発(教科書の問題を生かす)</p> <p>第9回:教材開発(生徒の反応・誤答を生かす)</p> <p>第10回:数学的な考え方</p> <p>第11回:ICTの活用</p> <p>第12回:数学的モデル化</p> <p>第13回:学習指導案の書き方</p> <p>第14回:模擬授業(学習指導案の進め方)</p> <p>第15回:模擬授業(授業を評価する)</p>
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。
教科書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
参考書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
履修上の注意・備考	<p>上記の成績評価方法で記入したように、毎回の講義で学生の活動を重視し、さらにレポートを課すので、講義に出席することを前提とする。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※8-9月集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)を参照</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※附属中等教育学校

時間割コード	09229111	担当教員	加藤 竜一		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	理科教育法(実践)C Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	<p>本郷キャンパス教育学部棟 109 教室で行います。</p> <p>教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。</p> <p>理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。</p> <p>この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。</p>
授業計画	<p>※初回のみ、附属学校物理室で行います。2 回目以降は、本郷キャンパス教育学部棟 109 教室で行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員という職業について</li> <li>2. 理科教育の目的・学習指導要領</li> <li>3. 授業の方法と評価</li> <li>4. 授業の教材の具体例</li> <li>5. 授業でのメディア・機器の利用</li> <li>6. 学習指導案の作成</li> <li>7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備</li> <li>8. 模擬授業I①</li> <li>9. 模擬授業I②</li> <li>10. 実験・観察の意義</li> <li>11. 授業における安全管理</li> <li>12. 探求活動の指導</li> <li>13. 模擬授業Ⅱ①</li> <li>14. 模擬授業Ⅱ②</li> <li>15. 模擬授業Ⅱ③</li> </ol>
授業の方法	講義や解説を中心に、模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編</p>
履修上の注意・備考	<p>本郷キャンパス教育学部棟 109 教室で行います。</p> <p>今年度夏季集中に開講される理科教育法(実践)とは別内容。</p> <p>本郷キャンパス教育学部棟 109 教室で行います。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※附属中等教育学校

時間割コード	09229112	担当教員	對比地 覚		
単位数	2.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	理科教育法(実践)A Practical Studies on Natural Science A				

授業の目的・概要	<p>教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。</p> <p>理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「指導案の作成」、「実験・観察の指導」などの事項を扱う。</p> <p>この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員という職業について</li> <li>2. 理科教育の目的・学習指導要領</li> <li>3. 授業の方法と評価</li> <li>4. 評価の演習 I</li> <li>5. 実験・観察の意義</li> <li>6. 授業における安全管理</li> <li>7. 学習指導案の書き方</li> <li>8. 学習指導案の作成／検討</li> <li>9. 模擬授業の準備</li> <li>10. 模擬授業I①</li> <li>11. 模擬授業I②</li> <li>12. 探求活動の指導</li> <li>13. 模擬授業 II ①</li> <li>14. 模擬授業 II ②</li> <li>15. 模擬授業 II ③</li> </ol>
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編</p>
履修上の注意・備考	<p>感染症の状況にもよりますが、実際の中高生に対して模擬授業をしてもらう予定です。</p> <p>そのため、会場は中野区にある教育学部附属中等教育学校とします。</p> <p>オンラインで実施することになった場合は、改めて LMS に URL を掲載します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※附属中等教育学校

時間割コード	09229113	担当教員	青木 秀憲、上岡 洋晴		
単位数	2.0	学期	S2	時限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)A Practical Studies on Health and Physical Education A				

授業の目的・概要	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たった技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た技術、知識、経験などをもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時には不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、現場での遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。</p> <p>本授業は、2020年度に「実践A」、2021年度に「実践B」と「実践C」が既に開講されている。そのため、過去「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とでは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。</p>
授業計画	<p>1. イントロダクション</p> <p>体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義、下手な動作を分析する</p> <p>2. 学習指導案の考え方・理念</p> <p>3. 既修者による模擬授業および振り返り</p> <p>4. 学習指導案・授業時案の作成および発表・質疑</p> <p>5. 指導実践見学(東京大学教育学部附属中等教育学校等での授業見学)</p> <p>6. 模擬授業①および振り返り(既修者は初修者よりも長時間の模擬授業を実施)</p> <p>7. 模擬授業②および振り返り</p> <p>8. ニュースポーツの理解および実践</p> <p>※上記 1～8 の内容を適宜分割して 7 回分の授業で実施する。体育施設、授業見学先の都合もあるため、スケジュールの詳細は別途連絡する。</p> <p>※1 回の授業は原則 2 時限分連続で実施する。</p>
授業の方法	<p>授業期間の前半は講義、ディスカッション、作業が中心。後半は履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う体育実技の模擬授業や、学校現場に向いて行う授業見学など、実習が中心となる。</p>
成績評価方法	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
教科書	<p>文部科学省 . 中学校 : 学習指導要領 (平成 29 年度告示) 「第 7 節 保健体育」 . <a href="https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf</a></p> <p>その他、随時、授業時に紹介する。</p>
参考書	<p>必要があれば、随時授業時に紹介する。</p>

## 履修上の注意・備考

特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。

<注意: 教員免許状取得を考えている学生へ>

平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計 8 単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。

教員免許状の取得を希望する場合、自身に

## 教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法



時間割コード	09229114	担当教員	青木 秀憲		
単位数	2.0	学期	A2	時限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)B Practical Studies on Health and Physical Education B				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た技術、知識、経験をもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時は不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、現場における遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。</p> <p>本授業は、2020 年度で「実践 A」が開講されて以降、2021 年に「実践 B」、「実践 C」が開講済みである。また、本年度 S2 では「実践 A」が開講される。そのため、過去「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。複数回目の履修者にはより多くの実習、模擬授業等の経験を重ねてもらい、さらなる技量の習熟に努める。</p>
<b>授業計画</b>	<p>以下の内容を 7 回の授業に分けて実施する。なお、関係する体育施設や見学先の都合、履修者数や既修者・初修者の人数割合に合わせて授業計画を編成するため、詳細が決まり次第、この場に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「実践 A」模擬授業講評、振り返り(「実践 A」を履修していなくても参加可能)</li> <li>・運動実践例分析</li> <li>・新規模擬授業指導計画、授業時案作成(「実技」、「保健」とも作成)</li> </ul> <p>※「実践 B」で初めて「保健体育科教育法(実践)」を履修する者に対しては、授業指導計画立案の方法、学習指導案の作成方法などを説明する時間を取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属中等教育学校授業見学</li> <li>・保健模擬授業</li> <li>・体育実技模擬授業(種目や場所を変えて複数回実施予定)</li> <li>・運動指導実践例学習(ゲストスピーカーによる実践例報告)</li> <li>・模擬授業振り返り</li> </ul>
<b>授業の方法</b>	<p>初修者に対しては授業期間の前半において、授業運営の基本理念・技法の習得、学習指導案の作成方法やその注意点を教授した上で、学習指導案作成の実習を行う。後半は作成した指導案に基づき、まずは短時間での模擬授業を実施する。既修者に対しては、授業期間の前半から学習指導案の作成実習を行い、後半で模擬授業を複数回実施して、可能な限り実習経験を積むことを目標とする。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
<b>教科書</b>	<p>文部科学省 . 中学校 : 学習指導要領 (平成 29 年度告示)「第 7 節 保健体育」. <a href="https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf</a></p> <p>その他、随時、授業時に紹介する。</p>

	※特に事前に購入、ダウンロードする必要はない。
参考書	必要があれば、随時授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	<p>特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。</p> <p>&lt;注意:教員免許状取得を考えている学生へ&gt;</p> <p>平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計8 単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。</p> <p>教員免許状の取得を希望する場合、自身に</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09229115	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2.0	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	英語科教育法(実践)A Practical Studies on English Language A				

授業の目的・概要	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育で外国語、英語を学ぶ意義を見直し、歴史的変遷と現状分析を通して、英語教師に必要な知識、指導技術を身につける。</li> <li>2. 学習の対象となる英語そのものの理解を深め、授業における運用能力を高める。</li> <li>3. 外国語教育の理論的知識と教授法に関する実践的知識について学ぶことにより、教育実習に対する準備を行う。</li> <li>4. 指導法や教授法をマイクロティーチングの形式で実践したうえで、受講者各自が模擬授業を行い、講評や議論を通して、自らの授業改善につなげることができるようにする。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回:イントロダクション、評価方法の説明、英語の学び方を振り返り、学校教育と教員の役割について意見をまとめる。【キーワード 英語の学び方、学校教育】</p> <p>第2回:英語学習について諸外国での授業と教授法、教材の比較・検討を発表する。【キーワード 言語政策、world Englishes 教授法】</p> <p>第3回:学習指導要領の変遷日本の英語教育の特徴を学習指導要領の歴史的変遷から学び、コミュニケーション能力を身につけさせるための方法について理解を深める。【キーワード 学習指導要領 コミュニケーション能力】</p> <p>第4回:英語教師の資質と能力。【キーワード 英語力、グループ・ワークによるマイクロティーチング】</p> <p>第5回:4 技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、辞書指導】</p> <p>第6回:4 技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、フォニックス】</p> <p>第7回:新しい学習方法【キーワード アクティブラーニング、反転授業、協働学習】</p> <p>第8回:ICT 活用と教育工学【キーワード 板書、LL、CALL、フラッシュカード、電子黒板】</p> <p>第9回:授業構成 導入、展開、評価などの技法を確認し、使えるようにする。【キーワード 学習指導案】</p> <p>第10回:学習評価と言語活動のまとめ【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】</p> <p>第11回:録音と録画を使った授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、】</p> <p>第12回:新しい教授法と模擬授業(1)【キーワード 授業評価、アクティブラーニング】</p> <p>第13回:ICT 活用と模擬授業(2)【キーワード 4 技能、ICT 活用】</p> <p>第14回:学習者要因に配慮した模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】</p> <p>第15回:授業のまとめ【キーワード 教員研修、授業研究】</p>
授業の方法	<p>まず、教える対象となる英語についての基本的な理解を深め、運用能力の向上を図る。英語の特質を理論的に理解したうえで教材開発や言語活動の設定に応用できるようにする。学習指導要領の概要や言語政策、教授法の変遷など歴史的流れと教材論の展開を理解し、教育実習の準備をする。毎時の指導案及び年間授業計画の立て方、授業の構成、教科書の扱い方をアクティブラーニングの形式で学び、それぞれが学習指導案を作成し、模擬授業を行う。受講者による互いの講評や議論を通じて、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とする。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義内容に関するリアクションペーパー(20%)、模擬授業の学習指導案(20%)、模擬授業への講評と議論(20%)、グループ・ワークによるマイクロティーチング(20%) 英語教育に関する最終レポート(20%)を総合的に評価する。</p>
教科書	<p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東洋館出版社 ISBN978-4-491-03460-7</p> <p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05168-5</p>

	<p>中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1558-50</p> <p>中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05169-2</p> <p>高等学校学習指導要領(平成 30 年 3</p>
<p><b>参考書</b></p>	<p>JACET SLA 研究会編『第二言語習得と英語科教育法』東京:開拓社</p> <p>金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』東京:大修館書店</p> <p>金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 高等学校編』東京:大修館書店</p> <p>Jim Scrivener. (2011) <i>Learning Teaching. The Essential Guide to English Language Teaching. Third Edition.</i> Oxford: Macmillan Books.</p>
<p><b>履修上の注意・備考</b></p>	<p>原則として、教員免許取得予定者を対象とします。履修者希望者は予めメールを送信してください。教材配布やオンライン授業について説明します。</p>
<p><b>教育職員免許法上の認定科目</b></p>	<p>教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法</p>

時間割コード	09229116	担当教員	高橋 和子		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)B Practical Studies on English Language B				

授業の目的・概要	<p>小学校・中学校・高等学校の英語教材に焦点を置いて、これらの構造と特色を踏まえた授業実践を目指します。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーション能力育成を目指す日本の英語教育のあり方を、英語教材の変遷を通して理解することができる</li> <li>2) 英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色を理解することができる</li> <li>3) 小学校・中学校・高等学校における、英語教材のあり方を理解することができる</li> <li>4) 英語で書かれたテキストをもとに、自ら英語教材を作成することができる</li> </ol> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力重視の英語教育と、英語教材の変遷について</li> <li>・英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色について</li> <li>・各校種における英語教材の特色について</li> <li>・英語教材と問いの立て方について</li> <li>・デジタル時代における英語教材のあり方について</li> </ul>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション</p> <p>第2回: コミュニケーション能力重視の英語教育と英語教材: 1980年代以降を中心に</p> <p>第3回: 英語教材の見かた: 本文・質問／発問・学習活動／言語活動</p> <p>第4回: 小学校英語教材(1) 会話文</p> <p>第5回: 小学校英語教材(2) 絵本・物語文</p> <p>第6回: 中学校英語教材(1) 会話文</p> <p>第7回: 中学校英語教材(2) 説明文</p> <p>第8回: 中学校英語教材(3) 物語文</p> <p>第9回: 高等学校英語教材(1) 会話文</p> <p>第10回: 高等学校英語教材(2) 説明文</p> <p>第11回: 高等学校英語教材(3) 物語文</p> <p>第12回: これからの英語教材</p> <p>第13回: 最終レポート</p> <p>※注意: 上記計画は、非常時対応及び受講者の状況に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じて LMS で行います。</p>
授業の方法	<p>検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。</p> <p>講義と演習を組み合わせた授業形態です。</p> <p>受講者同士のグループワークを随時取り入れます。</p> <p>※非常時対応および受講者の状況に伴って、上記は変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じて LMS で行います。</p>
成績評価方法	<p>課題(教材作成を含む)50%、最終レポート 50%</p> <p>上記にグループワークの成果も考慮しながら、総合的に評価します。</p>
教科書	<p>・LMS で教材を配布します。</p>

・小学校・中学校・高等学校『学習指導要領』、および『学習指導要領解説』を使用します。

以下の文部科学省ホームページより入手可能です：

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)

## 参考書

・田中武夫・田中知聡 (2018)『英語授業の発問づくり』明治図書

・Berger,

Warren. & Foster,

Elise. (2020). Beautiful questions in the classroom. Corwin.

・McKee,

Robert. (2014). Story: Substance,

structure,

style,

and the principles of screenwriting.

Methuen

・Nuttall,

Christine. (2005). Teaching reading skills in a foreign language. Macmillan.

・Olson,

Randy. (2015). Houston,

we have a narrative. University of Chicago press.

・Raphael,

T.E.,

Highfield,

K. & Au,

K.H. (2006). QAR now: Question answer relationships. Scholastic.

・Wolf,

Maryanne. (2018). Reader,

come home: The reading brain in a digital world. Harper.

その他は授業中に紹介します

## 履修上の注意・備考

・原則として、教員免許取得予定者を対象とします。免許取得予定ではないが履修を希望する方は、以下のメールアドレスまでご相談ください。

・本講義は、夏季集中講義で行います。日程は、関連部署が発信する情報をご覧ください。

・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。

・授業に関する情報は、LMS のお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。

## 教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09229117	担当教員	今田 健蔵、戸上 和正		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)C Practical Studies on English Language C				

授業の目的・概要	中等教育における英語の授業について、現場の実践から学んだり、基づいている理論を学んだりしながら、実技や模擬授業、定期試験の作成などを通して実践力を身につけることを目標とします。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中学校での様々な学習・指導場面におけるディスカッション</li> <li>2 中学校での様々な学習・指導場面の補整、再構成</li> <li>3 中学校での様々な指導場面のワークショップとフィードバック</li> <li>4 高等学校での様々な学習・指導場面におけるディスカッション</li> <li>5 高等学校での様々な学習・指導場面の補整、再構成</li> <li>6 高等学校での様々な指導場面のワークショップとフィードバック</li> <li>7 模擬授業に向けて(準備)</li> <li>8 模擬授業①</li> <li>9 模擬授業②</li> <li>10 英語の授業における評価とは</li> <li>11 定期試験作成</li> <li>12 実際に作った定期試験をやって議論しよう</li> <li>13 定期試験作成についてのまとめ</li> </ol>
授業の方法	講義と演習、及び議論です。
成績評価方法	授業内でのレポートとまとめの課題レポートを基に定めます。
教科書	特にありませんが、復習用に資料を配布する予定です。
参考書	あとに提示します
履修上の注意・備考	今のところ夏季の集中の予定です。欠席により内容が抜けてしまうと後半の模擬授業などに大きく影響しますので、注意してください。授業課題の提示や資料の提供は Google クラスルームを使用します。 教育学部附属中等教育学校で行います。対面で行う予定ですが、状況により、ハイブリッドや完全オンラインになることもあります。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※附属中等教育学校

時間割コード	09229118	担当教員	田中 昌弥		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育原理Ⅱ Educational Principles II				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>今日の教育が形成された歴史的経緯と、その背景で織りなされてきた海外と日本の教育の諸理念・思想を理解する。</li> <li>今日の教育課題を社会・制度・人間発達の相互関係の観点から捉え直す。</li> <li>代表的な教育理論・教育実践が、どのように創られ、選択されたのかを知り、教職に就く者として、これからの時代に求められる教育を具体的に構想できるようになるための基本的素養を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回: I 教職科目としての教育原理の意味</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職と原理の関係</li> <li>2 教師論の変遷と原理的理解の意義</li> </ol> <p>第2回: 3 教育学における位置</p> <p>II 教育の歴史から学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育の源流</li> </ol> <p>第3回: 2 近代教育理念の形成</p> <p>第4回: 3 近代教育の三重構造説</p> <p>第5回: III 公教育の目的と目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公教育の主な目的</li> <li>2 教育目標論</li> </ol> <p>第6回: 21世紀型人材養成論・映像視聴 1 OECD の動向</p> <p>第7回: 学力論、フレネ教育・映像視聴 2 フレネ学校</p> <p>第8回: 新教育、学習権宣言</p> <p>第9回: IV 子ども・学習者理解に基づく教育へ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習者の論理と教育者の論理のミスマッチ</li> <li>2 教育の歴史・社会的規定性</li> </ol> <p>第10回: 3 教育の発達の規定性</p> <p>第11回: 4 臨床的理解(映像視聴 3 「学級崩壊」現象)</p> <p>第12回: 5 様々な規定性を乗り越える教育実践の可能性(映像視聴 1 金森俊朗実践)</p> <p>第13回: ナラティブ・アプローチ、実践分析の枠組み</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論と現実・実践との往還を重視して授業を進めるため、映像や資料を通して具体的な教育現実・実践のイメージをもつことを重視し、その教育的な検討を行う。</li> <li>2. 受講人数にもよるが、討論、発言の機会を折々に設定する。</li> </ol> <p>新型コロナウイルス感染症をめぐる状況によって対面による実施が困難になった場合には、Google Classroom を用いたオンデマンド方式で実施する。2021年度と同様、受講生の疲労度を考慮し、視聴可能期間は、正規の集中講義期間よりも長めに設定する。質問には、メールやオンラインで対応す</p>
成績評価方法	中間レポートと最終レポートを主としつつ、授業への参加、授業の区切りごとに提出してもらったメモも合わせて評価する。
教科書	・汐見稔幸他編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房



<b>参考書</b>	<p>・堀尾輝久『教育入門』(岩波新書)</p> <p>・荒井、田中、本田、宮田、山田編『学力と学校を問い直す』かもがわ出版</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p> <p>※2018 年度以前開講「教育原理」(担当教員:田中昌弥)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照

時間割コード	09229119	担当教員	伊藤 貴昭		
単位数	2.0	学 期	S1	時 限	金 1, 金 2
講義題目	教育心理Ⅱ Educational Psychology II				

授業の目的・概要	<p><b>【目標】</b></p> <p>学習および発達の過程について理解を深め、発達段階に即した子どもの心理的特性を理解し、教育実践場面へつなげるための基礎となる考え方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学で扱われてきた学習の原理、発達、思考の特徴などについて理解を深める。</li> <li>2. 発達段階に即して子どもの心的メカニズムを理解し、教育実践へつなげるための能力を育む。</li> <li>3. 教員になったときに直面する問題に対して、心理学的な観点から考えることができる。</li> </ol> <p><b>【概要】</b></p> <p>教育心理学とは、心理学で明らかにされてきた知見を教育実践に活かすことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学が対象とするテーマの中でも特に「学習の原理」「発達」を中心に子どもの発達状況に応じてどのような心理メカニズムが働いているかについて理解を深めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:学習の原理</p> <p>第2回:記憶のメカニズム</p> <p>第3回:乳児期から児童期の発達の過程</p> <p>第4回:青年期以降の発達の過程</p> <p>第5回:ことばや概念の発達</p> <p>第6回:問題解決と推論のプロセス</p> <p>第7回:協同で取り組むことの効果</p> <p>第8回:学習方略の有効性</p> <p>第10回:動機づけのメカニズム(1)欲求に基づく動機づけ</p> <p>第11回:動機づけのメカニズム(2)認知に基づく動機づけ</p> <p>第12回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは</p> <p>第13回:活動性を高める授業づくり</p> <p>第14回:教育実践に対する教育心理学の貢献</p> <p>第15回:まとめ</p>
授業の方法	2022 年度授業実施方針に基づいて実施します。
成績評価方法	<p>授業への貢献度(10%)各回の課題提出</p> <p>レポート(30%)</p> <p>学期末試験(60%)</p> <p>ただし、出席状況(各回の課題提出の状況)が悪い場合には試験の結果によらず不可とします。</p> <p>※授業実施方針によりオンライン授業となった場合には、学期末試験をレポートに置き換えます。</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編 ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	本授業は教職課程科目のため、出席(毎回の課題提出)を重視します。また、グループ活動への積極的な参加も求めます。

教育実習等で欠席が多数見込まれる場合には、授業時に必ず申し出てください。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照

時間割コード	09229120	担当教員	堤 英俊
単位数	1.0	学期	集中
講義題目	特別支援教育総論 I An Introduction to Special Needs Education I		

授業の目的・概要	<p>本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。</li> <li>2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。</li> <li>3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>次のようなテーマを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育</li> <li>2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮</li> <li>3. 障害の個人モデルと社会モデル</li> <li>4. 発達障害の理解(ASD・ADHD・LD)、神経回路の多様性</li> <li>5. さまざまな障害の理解(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害等)</li> <li>6. 人種、国籍、性、母国語、貧困等の理解</li> <li>7. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ</li> <li>8. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり:学びとケアの共同体</li> <li>9. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり①:授業のユニバーサルデザイン、ICT等の支援技術の活用</li> <li>10. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり②:ペア学習・協同学習</li> <li>11. 特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員等の役割と連携</li> <li>12. 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用、通級による指導、自立活動</li> <li>13. 交流及び共同学習、障害理解教育、多文化教育</li> <li>14. インクルーシブな地域づくり:学校という制度的枠組みをこえて</li> <li>15. これからの特別支援教育／インクルーシブ教育の課題</li> </ol>
授業の方法	講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパー(40%)、課題レポート(60%)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書	<p>堤英俊(2019)『知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたちーインクルーシブ社会への教育学ー』東京大学出版会。</p> <p>木村泰子・小国喜弘 編(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。</p> <p>湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝 編(2019)『よくわかるインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房。</p> <p>この他、授業の中で関係する文献を紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>主体的な参加を前提とする。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p>

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

時間割コード	09229121	担当教員	上野 正道		
単位数	2.0	学期	A2	時限	集中
講義題目	教育課程Ⅱ Curriculum Studies II				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることとする。
授業計画	第1回 ガイダンス 教育課程とは何か 第2回 学校と教育課程の現代史 第3回 グローバル時代の学校と教育課程 第4回 ディスカッションとフィードバック 第5回 近代日本の学校と教育課程 第6回 西洋近代の学校と教育課程 第7回 新教育から現代の教育課程へ 第8回 ディスカッションとフィードバック 第9回 アート教育とカリキュラム 第10回 シティズンシップ教育とカリキュラム 第11回 シティズンシップ教育とカリキュラム 第12回 教職の専門性と教育課程 第13回 まとめ
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点とレポートによる
教科書	上野正道『民主主義への教育』東京大学出版会、2013年
参考書	上野正道他『東アジアの未来をひらく学校改革』北大路書房、2014年
履修上の注意・備考	【履修上の注意】 本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2021年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a> ※2020年度以前開講「教育課程」(担当教員:上野正道)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5参照※F参照

時間割コード	09229122	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	道徳教育法 Methods of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道徳教育の基礎的知識・理解と道徳の指導法を養うことにある。おもに、道徳をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道徳教育の哲学的・倫理的基盤、学校における道徳教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道徳教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。</p>
授業計画	<p>道徳教育の課題や理論、授業の位置付けなどを学び、学習指導構想を作成する。</p>
授業の方法	<p>講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションをおこなう。</p>
成績評価方法	<p>成績は、授業時間内に行う小テスト、小レポート・課題提出、資料作成・発表、最終レポートで判断する。授業内で実施する小テスト・課題等は、公欠のみ考慮する。</p>
教科書	<p>教科書は使用しない。</p>
参考書	<p>参考書は使用しないが、次のものを使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文部科学省『中学校学習指導要領』</li> <li>2 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則』</li> <li>3 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』</li> </ol> <p>3は、可能であれば持参すること。</p> <p>その他、関連する資料・文献等は授業中に適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09229123	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	A1	時限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09229124	担当教員	森 俊二
単位数	2.0	学 期	集中
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities		

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級びらき、学級通信</li> <li>2. 生活指導と生徒指導</li> <li>3. 子ども集団づくりへ</li> <li>4. ゼロトレと子どもの権利条約</li> <li>5. HR 実践分析①</li> <li>6. HR 実践分析②</li> <li>7. 三者協議会と生徒会実践分析</li> <li>8. 指導と管理 ケーススタディ</li> <li>9. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか ②HRにおける行事の指導</li> <li>10. 文化祭指導案討議</li> <li>11. 生徒会の指導</li> <li>12. 子どもをめぐる課題 いじめ問題の指導</li> <li>13. 実践事例分析</li> <li>14. 特別なニーズのある子どもと生活指導</li> <li>15. 実践事例分析 まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)
教科書	『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他編 大学図書出版 2020年 ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税</p> <p>高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税</p> <p>『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800円＋税</p> <p>『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020年 1200円＋税</p> <p>『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018年 1200円＋税</p> <p>『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200円＋税</p> <p>『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税</p> <p>『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016年 2500円＋税</p> <p>『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005年 2100円＋税</p>

『18歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400円＋税

**履修上の注意・備考**

教科書は授業に必須です。必ず各自で授業開始までに準備してください。

教科書・参考書の内容を進んで読んで下さい。

**【履修上の注意】**

※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※7参照※I参照

時間割コード	09229125	担当教員	森 俊二
単位数	2.0	学 期	A1A2
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities		
		時 限	火 4

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級びらき、学級通信</li> <li>2. 生活指導と生徒指導</li> <li>3. 子ども集団づくりへ</li> <li>4. ゼロトレと子どもの権利条約</li> <li>5. HR 実践分析①</li> <li>6. HR 実践分析②</li> <li>7. 三者協議会と生徒会実践分析</li> <li>8. 指導と管理 ケーススタディ</li> <li>9. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか ②HRにおける行事の指導</li> <li>10. 文化祭指導案討議</li> <li>11. 生徒会の指導</li> <li>12. 子どもをめぐる課題 いじめ問題の指導</li> <li>13. 実践事例分析</li> <li>14. 特別なニーズのある子どもと生活指導</li> <li>15. 実践事例分析 まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート50%、平常点50%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)
教科書	『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他編 大学図書出版 2020年 ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税</p> <p>高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税</p> <p>『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800円＋税</p> <p>『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020年 1200円＋税</p> <p>『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018年 1200円＋税</p> <p>『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200円＋税</p> <p>『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税</p> <p>『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016年 2500円＋税</p> <p>『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005年 2100円＋税</p>

『18歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400円＋税

**履修上の注意・備考**

教科書は授業に必須です。必ず各自で授業開始までに準備してください。

教科書・参考書の内容を進んで読んで下さい。

**【履修上の注意】**

※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※7参照※I参照

時間割コード	09229126	担当教員	黒田 友紀		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育の方法Ⅱ Teaching Methods II				

授業の目的・概要	<p>【概要】本授業では、教育方法の理論や、学びや授業、教育評価に関する基本的な考え方について理解し、さまざまな学習形態や ICT・教材教具を活用した授業を具体的にデザインできることをねらいとする。また、実際の授業映像の分析から平等で質の高い学びについて検討し、「学びの専門家」としての教師の技(アート)についてともに考察を行いたい。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の理論と歴史、子どもの学びや授業、教育評価などの基礎的事項について理解する。</li> <li>・授業の目的に応じ、学習形態・教材教具や ICT を活用して、具体的に授業をデザインすることができる</li> <li>・教材研究の方法や授業の構成を考え、学習指導案の作成を含む基本的な指導技術を習得する。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法とは何か、授業について振り返る</li> <li>2. 授業とは何か、教えると学ぶ、授業という場</li> <li>3. 教育方法の理論と歴史(1)一斉授業の成立</li> <li>4. 教育方法の理論と歴史(2)子ども中心主義・進歩主義の教育</li> <li>5. カリキュラムと授業デザイン</li> <li>6. 教育方法の実践例(1)多様な学習形態</li> <li>7. 教育方法の実践例(2)ICT の活用</li> <li>8. 教育方法の実践例(3)課題の設定、教材・教具</li> <li>9. 協同(働)的学び、アクティブ・ラーニングを考える</li> <li>10. 授業のデザイン(1)学習指導案の作成方法、教材研究</li> <li>11. 授業のデザイン(2)教育評価の理論と方法</li> <li>12. 授業デザインと評価:何を評価するか、どんな資質能力を測定するか</li> <li>13. 授業の省察:子どもの学びの様子から考える</li> <li>14. 授業の省察:授業研究と協議会</li> <li>15. 教師の学びと成長</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として、授業のテーマに沿って共有した資料に基づいて、講義+小グループによるディスカッションと質疑+補足説明によって授業をすすめる。</li> <li>・授業ビデオの視聴を行う場合、小グループおよび全体でのディスカッションを行い、その後リフレクションとして小レポートを作成してもらう。</li> </ul>
成績評価方法	事前課題・小レポート(45%)、授業・議論への貢献度(25%)、最終課題(30%)で総合的に評価する。
教科書	特に指定せず、必要な資料は適宜共有する。
参考書	<p>稲垣忠彦、佐藤学『授業研究入門』岩波書店、1996年</p> <p>佐藤学『教育の方法』左右社、2010年</p> <p>小室弘毅・齋藤智哉編著『ワークで学ぶ教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2019年</p> <p>その他、講義の中で、適宜資料を配付する。</p>
履修上の注意・備考	・この講義の履修にあたり必要となる予備知識や事前に履修しておくべき科目は特にないが、授業前に資料等をよく

読み、「自分はどのように考えるか」を明確にして授業に臨んでほしい。

・また、シラバスは、受講生のニーズや状況等に応じて、授業途中にも変更することがある。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照

時間割コード	09229127	担当教員	山本 宏樹		
単位数	2.0	学期	A1	時限	金 2, 金 3
講義題目	生徒指導・進路指導 Student Guidance and Career Guidance				

## 授業の目的・概要

### ■授業の概要

もし授業中に生徒が寝ていたら、教師はどう振る舞えばよいのでしょうか。「高校に進学したくない」という中学生を前に、どのような言葉かけをすればよいのでしょうか。「クラスで無視されている」という相談に対しては、具体的にどのように対応をすべきでしょうか？

教師の日常は、悩ましく切実な判断の連続です。生徒指導と進路指導は、子どもの人格・尊厳の奥深くに立ち至る困難な教育活動であり、子どもから「生涯の恩師」として慕われる可能性がある一方、子どもを深く傷つける可能性もはらみます。

受講生の皆さんも、これまでの学校生活において、多かれ少なかれ生徒の立場で生徒指導・進路指導を経験してきたはずです。この授業では、その時の記憶や想いを足がかりにしながら、今度は教師の立場になって理解を深めていきましょう。

### ■授業の目標

本授業の目的は、生徒指導と進路指導・キャリア教育の理論と方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。

### ■授業の到達目標

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。
- 2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。
- 3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。
- 4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。
- 5) 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。
- 6) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。

## 授業計画

- 第1回：生徒指導・進路指導の意義と目的
- 第2回：生徒指導の現状(1)学校の抱える問題(体罰)
- 第3回：生徒指導の現状(2)学校の抱える問題(行き過ぎた指導)
- 第4回：生徒指導の現状(3)学校の抱える問題(校則問題)
- 第5回：生徒指導の理論(1)生徒指導の原理と学校教育裁判
- 第6回：生徒指導の理論(2)教師の生徒指導上の諸問題の背景要因
- 第7回：生徒指導の方法(1)特別指導・懲戒処分・有形力の行使・機関連携
- 第8回：生徒指導の方法(2)対話的指導・修復的実践・子ども集団づくり・SST
- 第9回：生徒指導の方法(3)暴力行為・いじめ・不登校・非行逸脱・インターネット使用等の現状と対応
- 第10回：進路指導の理論と方法(1)進路指導・キャリア教育の原理

	<p>第 11 回: 進路指導の理論と方法(2) 進路指導の科学(職業選択編)</p> <p>第 12 回: 進路指導の理論と方法(3) 進路指導の科学(進学指導編)</p> <p>第 13 回: 進路指導の理論と方法(4) 進路指導のケーススタディ</p> <p>第 14 回: 総括</p>
<b>授業の方法</b>	講義のほか、毎週グループディスカッションを実施します。
<b>成績評価方法</b>	授業への7割以上の出席を成績評価の前提条件として、授業内レポート 60%、期末レポート 40%で評価します。
<b>教科書</b>	特定の教科書は使用せず、適宜資料を配付します。
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『学習指導要領』および『学習指導要領解説 総則編』(<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a>)</li> <li>・文部科学省『生徒指導提要』2011 年(<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm</a>)。</li> <li>・山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣アルマ、2014 年。</li> <li>・教育科学研究会[編]『いじめと向きあう』旬報社、2013 年。</li> <li>・高原史朗『中学生を担任すること―「ゆめのたね」をあなたに』高文研、2017 年。</li> <li>・山下英三郎『いじめ・損なわれた関係を築きなおす―修復的対話というアプローチ』学苑社、2010 年。</li> <li>・山本宏樹「なぜ学校で体罰や指導死が起こるのか? ―社会に蔓延する“ダークペダゴジー”」2017 年(<a href="http://synodos.jp/education/19720">http://synodos.jp/education/19720</a>)。</li> <li>・山本宏樹「『ダークペダゴジー』が、危険タックルを引き起こした。教育学者が指摘」2018 年(<a href="https://www.huffingtonpost.jp/2018/05/29/darkpedagogy_a_23446448/">https://www.huffingtonpost.jp/2018/05/29/darkpedagogy_a_23446448/</a>)。</li> </ul>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>・初回到授業の進め方について資料配付のうえ説明を行いますので、やむをえず初回到欠席をした場合は2週目の授業までに必ず申し出てください。</p> <p>学生からの質問・相談には随時お答えしていますので、お気軽にご連絡ください。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照



時間割コード	09229128	担当教員	稲吉 玲美
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	教育相談Ⅱ School Counseling II		
		時限	集中

授業の目的・概要	<p>授業の目的:</p> <p>教育相談に係る諸理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解する。特に、児童・生徒の問題をとらえるアセスメントの視点と、問題への多角的なアプローチの視点を学ぶ。</p> <p>到達目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒を理解するための多角的な視点について説明ができる。</li> <li>・児童・生徒の抱える問題に対して、多角的な視点をもってアセスメントができる。</li> <li>・児童・生徒の抱える問題に対して、支援の計画を立てることができる。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション:教育相談とは</li> <li>2. 児童・生徒を理解するためのまなざし(発達とアタッチメント)</li> <li>3. 児童・生徒を理解するためのまなざし(知覚・学習・知能)</li> <li>4. 児童・生徒を理解するためのまなざし(対人関係・集団の心理学)</li> <li>5. 児童・生徒の SOS(問題はどのように現われるか)</li> <li>6. 児童・生徒の SOS(問題の発生・維持要因)</li> <li>7. 教育相談での問題のアセスメント</li> <li>8. 支援のための具体的な方法(カウンセリングの基本)</li> <li>9. 支援のための具体的な方法(教育相談と心理的支援①)</li> <li>10. 支援のための具体的な方法(教育相談と心理的支援②)</li> <li>11. 学校現場における教育・支援体制</li> <li>12. 支援の計画・実施</li> <li>13. 支援の計画・実施、まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>講義形式のほかに、ペアワークやグループワークを取り入れる。</p> <p>積極的な授業参加が求められる。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における取り組み 60%(参加状況 30%, 小レポート 30%)</li> <li>・最終レポート課題 40%</li> </ul> <p>* 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮する。授業に集中し、グループワークや全体に貢献する姿勢を高く評価する。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とする。</p>
教科書	特に指定しない。授業中に資料を配布する。
参考書	<p>「子どもを支援する教育の心理学」村上香奈、山崎浩一(編)ミネルヴァ書房</p> <p>「よくわかる臨床心理学」下山晴彦(編)ミネルヴァ書房</p> <p>その他、授業内で適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>事前に履修しておくべき科目等はないが、児童期・思春期の心理的問題について扱うため、発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。</p> <p>本授業は、ディスカッションやグループワークの時間が想定されている。</p> <p>また、小レポート課題を翌日の初回授業に提出することが求められる。</p>



時間割コード	09229129	担当教員	鈴木 悠太
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	教師論Ⅱ Teaching and Teacher Education II		

授業の目的・概要	<p>本授業の主題は、授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践である。すなわち、受講者のこれまでの学校教育における体験(被教育体験)を基盤とし、学びとは何か、授業とは何か、教職とは何か、学校とは何かについての原理的な検討を経て、より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基礎を独自に形成することである。</p> <p>これらを通して、より良い教育の担い手(生涯において学び続ける教師)となるための基盤を確立する。</p> <p>本授業の到達目標は、①学校改革・授業改革の基本となる概念や理論を活用し、②受講者自身のこれまでの教育体験(被教育体験)を深く省察し自己に相応しい教育観を形成し、③より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基盤について独自の見解を客観的・具体的に説明できること、である。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「学校改革の現場の声を聴き、現場から学ぶ」とは何か。</li> <li>2. 授業研究を中心とする学校改革</li> <li>3. 学校改革の理論</li> <li>4. 授業改革の理論</li> <li>5. 学校改革の事例: 日本国内の展開</li> <li>6. 学校改革の事例: 国際的な展開</li> <li>7. 授業改革の事例: 日本国内の展開</li> <li>8. 授業改革の事例: 国際的な展開</li> <li>9. 教師の専門家共同体</li> <li>10. 教師の専門家としての学び</li> <li>11. 教職の専門性</li> <li>12. 協同的な学び</li> <li>13. 教育政策実施研究の視点</li> <li>14. 授業改革・学校改革研究の方法論</li> <li>15. 授業改革・学校改革のアクション・リサーチ</li> </ol>
授業の方法	<p>本授業の方法は、教科書や配布資料に基づき、学校改革・授業改革の概念や理論についての講義を行い、適宜グループ・ワーク(協同学習)を取り入れる。受講者には、それぞれの被教育体験を基盤としながら、自己に相応しい教育観の形成やより良い学校とより良い授業の構想に関する自己の見解を説明できるようになることが期待される。</p>
成績評価方法	<p>最終レポート: 50%(授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践の理解、教育観の省察と形成)、平常点評価: 50%(授業の到達目標の達成のための授業への参加度と授業内の小レポートの作成)。</p>
教科書	<p>鈴木悠太、2022、『学校改革の理論—アメリカ教育学の追究—』、勁草書房。</p> <p>Yuta Suzuki, 2022, Reforming Lesson Study in Japan: Theories of Action for Schools as Learning Communities, Routledge.</p> <p>鈴木悠太、2018、『教師の「専門家共同」の形成と展開—アメリカ学校改革研究の系譜—』、勁草書房。</p>
参考書	<p>鈴木悠太、2019、「学校の教師」、高橋浩・金田健司(編)『教育の本質と教師の学び』、学文社、pp. 123-146。</p> <p>秋田喜代美・佐藤学(編)、2015、『新しい時代の教職入門【改訂版】』、有斐閣。</p> <p>佐藤学、2015、『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン—』、岩波書店。</p>

佐藤学、1997、『教師というアポリアー—反省的实践へ—』、世織書房。

**履修上の注意・備考**

講読する論文や実践記録について丁寧に読み込み授業内の学びを深める。授業後には授業内の学びをさらに深めるために発展的に論文や実践記録について引き続き丁寧に読み込む。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09229130	担当教員	山本 義春、浅井 幸子		
単位数	3.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習 I Student Teaching I				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。</li> <li>2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。</li> </ol>
授業計画	<p>事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。</p> <p>本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。</p> <p>事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。</p>
授業の方法	<p>事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。</p> <p>本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。</p> <p>事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。</p>
成績評価方法	<p>授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。</p>
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	<p>履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(2週間)

時間割コード	09229131	担当教員	山本 義春、浅井 幸子		
単位数	5.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習Ⅱ Student Teaching II				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。</li> <li>2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。</li> </ol>
授業計画	<p>事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。</p> <p>本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。</p> <p>事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。</p>
授業の方法	<p>事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。</p> <p>本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。</p> <p>事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。</p>
成績評価方法	<p>授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。</p>
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	<p>履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(3週間以上)

時間割コード	09229132	担当教員	山本 義春、樫尾 文雄、南澤 武蔵、一柳 智紀、斎藤 兆史、両角 亜希子、本田 由紀、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	A2	時限	金 5, 金 6
講義題目	教職実践演習(中・高) Seminar on Professional Practice in Teaching				

授業の目的・概要	<p>教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。</p> <p>内容は、以下の2つに大別される。</p> <p>① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解:現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。</p> <p>② 授業の計画・実施・研究協議:グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。</p>
授業計画	-
授業の方法	教育学研究科教員と東大付属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。
成績評価方法	演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。
教科書	特に指定しない。
参考書	各回担当講師が紹介する情報を参考にされたい。
履修上の注意・備考	教職実践演習を履修する年度末に、教育職員免許状を取得する見込み者又は教育職員免許状の取得に必要な単位の修得をすべて終える見込みの者が対象となる。履修登録は UTAS によらず特別な方法で行うので、下記「関連ホームページ」にて各自確認のうえ遺漏のないよう注意すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229133	担当教員	村野 光則
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	木 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship		

授業の目的・概要	中学社会科・高校公民科の教育実習に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション, 学習指導要領と社会科がめざすもの</p> <p>第2回:生徒の実態に応じた授業と評価を考える</p> <p>第3回:社会科の授業の創り方(1)素材集めと授業構成のコツ</p> <p>第4回:社会科の授業の創り方(2)さまざまな授業実践例</p> <p>第5回:社会科の授業の創り方(3)生徒の学習スタイルと授業形態</p> <p>第6回:社会科の授業の創り方(4)ICTの活用法</p> <p>第7回:社会科の授業の創り方(5)授業技術(板書の約束, 見やすいプリント作り, 質問の仕方, 時間管理, 声の強弱など)</p> <p>第8回:論理的思考力を育てる</p> <p>第9回:批判的思考力を育てる</p> <p>第10回:模擬授業①現代社会の諸問題「少子化について考える」</p> <p>第11回:模擬授業②現代社会の諸問題「高齢社会について考える」</p> <p>第12回:模擬授業③憲法「憲法とは何か～立憲主義」</p> <p>第13回:模擬授業④憲法「基本的人権」(自由権)</p> <p>第14回:模擬授業⑤憲法「基本的人権」(社会権)</p> <p>※各模擬授業の回には、学習指導案の作成についての内容が含まれます。模擬授業のテーマは変わる可能性があります。</p>
授業の方法	前半は授業技術についての講義・体験学習で、後半は模擬授業をしてもらいます。
成績評価方法	模擬授業の実技を評価する。
教科書	朝比奈 なを『ルポ教育困難校』(朝日選書) 苅谷剛彦『コロナ後の教育へーオックスフォードからの提唱』中公新書ラクレ
参考書	『たった一つを変えるだけ: クラスも教師も自立する「質問づくり」』新評論 『思考スタイルー能力を生かすもの』新曜社 『協調学習とは: 対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業』北大路書房
履修上の注意・備考	実技科目なので、無遅刻・無欠席が原則です。 「覚えさせる授業」ではなく「考えさせる授業」づくりのための講座です。大学受験用の授業中心の教育実習校に行く予定の学生には向いていません。 教科書は授業で使用するというわけではなく、必ず読んでおいてほしい書籍ということです。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法



時間割コード	09229134	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス

時間割コード	09229201	担当教員	下地 秀樹		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	教育原理 I Educational Principles I				

授業の目的・概要	「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐり、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を原理的に考える」第一歩である。遠回りのようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。
授業計画	<p>授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のようなテーマを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間のメルクマール</li> <li>2. 人類化と人間化</li> <li>3. 近代化の行方:イゾラド</li> <li>4. 生命倫理を考える:エンハンスメント</li> <li>5. 正常と異常を考える:野生児の事例</li> <li>6. 近代学校の胎動と近代の人間観</li> <li>7. 臨界期</li> <li>8. 現代発達環境論</li> <li>9. 発達と教育の基礎理論</li> <li>10. 明治初期の教育</li> <li>11. 戦時下の教育</li> <li>12. 教育基本法</li> <li>13. 戦後の中等教育制度</li> <li>14. 学力観:PISA 等の構想</li> <li>15. 現代の学校改革</li> </ol>
授業の方法	<p>基本的には講義形式であるが、ほぼ毎回、上記問題群に関わる小レポートまたは小テストを課す。その論述を相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。講義は、その結果を反映させながら構成する。</p> <p>「教職に関する科目」(教員免許取得のための必修科目)であるが、教員免許取得にいたるプロセスのベースとなる問題群について、あまり先を焦らずに考える時間としたい。</p>
成績評価方法	<p>学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、いずれにしても、さらに相互批評を行う。どちらにするかは、授業中に受講者との相談により決定する。成績評価は、前記「授業の方法」欄に示した小レポートや小テストと、この総括テストまたは期末レポートを総合した平常点評価とする。敢えて配分を記すと、小レポートおよび小テスト 80%、総括テストまたは期末レポート 20%とする。</p>
教科書	堀尾輝久他編『新版 地球時代の教育原理』(三恵社)
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	<p>この科目は教職に関する科目である</p> <p>※2021 年度以前開講「教育原理」(担当教員:下地秀樹)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照

時間割コード	09229202	担当教員	勝野 正章		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 6
講義題目	教師論 I Teaching and Teacher Education I				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。</li> <li>2. 教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に、その検討のための材料を提供する。</li> <li>3. 教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む。</li> </ol> <p>【授業の概要】授業を通じて教員の職務内容とその特徴、教員にとっての学ぶことの意味、教員の服務と身分保障、教員養成の歴史、保護者・地域住民との関係づくり等について理解する。さらに、教員のライフコースに即して新採用教員、中堅教員、管理職教員の話聴く機会を設けることで、上記の理解を深めるとともに、教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に対して、その検討のための材料を提供する。</p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション 授業計画、参考書、評価方法の説明</p> <p>第2回: 教員の職務【キーワード やりがい、無境界性、不確実性、再帰性】</p> <p>第3回: 教員にとっての学ぶことの意味【キーワード 研修の権利と義務、同僚性、授業研究】</p> <p>第4回: 教員のライフコース【キーワード 初任期、中堅期、管理職期】</p> <p>第5回: ゲストティーチャー(新採用教員)</p> <p>第6回: 教科指導の基礎【キーワード 教材研究、授業のデザイン、学習評価】</p> <p>第7回: 生徒指導の基礎【キーワード 子ども理解、コミュニケーション、カウンセリング】</p> <p>第8回: 教員の服務と身分保障【キーワード 身分上の義務、職務上の義務、ILO/ユネスコ教員の地位に関する勧告】</p> <p>第9回: ゲストティーチャー(中堅教員)</p> <p>第10回: 教員養成の歴史と現代的課題【キーワード 師範学校、開放制教員養成、免許状制度】</p> <p>第11回: 保護者・地域住民との関係づくり【キーワード 開かれた学校づくり、信頼、説明責任】</p> <p>第12回: ゲストティーチャー(管理職教員)</p> <p>第13回: 授業のまとめ</p> <p>ゲストティーチャーの都合等により、授業計画には変更がありうる。</p>
授業の方法	<p>毎時、授業でとりあげたトピックに関するグループ・ディスカッションの時間を設けるとともに、リアクションペーパーを記入して、内容理解の確認、深化を図るとともに振り返りを行う。なお、この授業はオンライン(Zoom)で実施する。</p>
成績評価方法	<p>講義で扱った内容に関する理解の確認を中心とする試験を行う。この試験の結果に授業への参加態度等を加味し、上記の到達目標を基準として総合的に評価する。</p>
教科書	なし
参考書	<p>佐藤学・秋田喜代美編著『新しい時代の教職入門』(有斐閣アルマ)</p> <p>勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』(有斐閣)</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし</p> <p>※2018 年度以前開講「教師論」(担当教員: 勝野正章)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09229203	担当教員	知念 渉		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	教育と社会 Education and Society				

授業の目的・概要	<p>教育のあり方は、社会の状況と深く関係している。本授業では、教育と社会の関係性について検討し、教育政策や学校現場の教育実践を広い視野から考察する力を養うことを目指す。</p> <p>本授業は、大きく分けて三つの段階に分けられる。第一段階(第 1-5 回)は、社会の中で近代学校が果たす役割を、現代的状況をふまえて理解する。第二段階(第 6-10 回)は、学校の中で周辺的な状況に置かれやすい社会的背景をもった子どもたちと学校教育の関係を検討する。その指導上の課題を理解するとともに、その課題を克服するための方途を学校・家庭・地域のつながりを重視する「力のある学校」論や諸外国の学力格差是正政策から考える。そして第三段階(第 11-12 回)は、マスメディアと教育の関係を中心に据え、近年の教育政策の動向を理解する。最終回(第 15 回)では、授業を振り返って教育を社会との関係性で考えることの重要性を認識する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 学校化社会としての現代日本</li> <li>3. 学校の社会的機能と役割: 理念と現実</li> <li>4. 高学歴社会における教育機会と費用負担</li> <li>5. 学校と労働市場の接続をめぐる問題</li> <li>6. 教育と子どもの貧困</li> <li>7. 教育とジェンダー</li> <li>8. 教育とセクシャルマイノリティ</li> <li>9. 教育と被差別部落</li> <li>10. 教育とナショナリティ</li> <li>11. 学校安全とメディア</li> <li>12. いじめとメディア</li> <li>13. まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>各回の授業の前に、教科書を読んで課題に取り組む。そのうえで、授業ではより詳しい解説および議論を行う。そして、授業の最後には、授業を通して考えたことをリアクションペーパーにまとめてもらう。</p> <p>初回で詳しく説明する。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 授業外課題: 30%</li> <li>- 各回のリアクションペーパー: 40%</li> <li>- 期末レポート: 30%</li> </ul> <p>初回の授業で詳しく説明する。</p>
教科書	<p>中村高康・松岡亮二編, 2021, 『現場で使える教育社会学: 教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房。</p>
参考書	<p>中澤渉, 2021, 『学校の役割ってなんだろう』筑摩書房。</p>

片山悠樹他,  
2017,  
『半径5メートルからの教育社会学』大月書店。  
若槻健・西田芳正編,  
2010,  
『教育社会学への招待』大阪大学出版会。

**履修上の注意・備考**

授業外課題を通じて教科書を読み込んでもらうことを前提にして、議論等を行う回があります。学生の積極的な参加を期待します。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照

時間割コード	09229204	担当教員	小野田 亮介		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	教育心理 I Educational Psychology I				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】「学ぶこと」や「教えること」のメカニズムについて心理学の観点から理解し、子どもの学習を支援できるようになることを目指す。また、教育心理学的な視点から社会的な問題を分析し、教育の展開可能性を考えられるようになることを目指す。</p> <p>【概要】教育心理学の中でも「発達」「教授・学習」「思考」などのテーマを中心とした講義を行う。各テーマについて心理学の知見を紹介し、それらの知見を踏まえて自他の学習場面を分析し、支援に反映する方法について考える。</p>
授業計画	<p>第 1 回:ガイダンス-教育心理学とは</p> <p>第 2 回:認知と言語の発達</p> <p>第 3 回:社会性の発達-障害のある子どもへの理解と支援</p> <p>第 4 回:記憶のメカニズム</p> <p>第 5 回:知識と理解</p> <p>第 6 回:問題解決</p> <p>第 7 回:学習のメカニズム</p> <p>第 8 回:動機づけ(1)自己決定と自己効力感</p> <p>第 9 回:動機づけ(2)原因帰属と達成目標</p> <p>第 10 回:学級集団と教師の関係</p> <p>第 11 回:集団の中での学習</p> <p>第 12 回:授業のデザインと評価</p> <p>第 13 回:期末テストおよび解説</p> <p>※講義内容は変更になることがある。</p>
授業の方法	<p>遠隔講義としてオンデマンド型の講義を行う。</p> <p>講義前の予習課題(初回はなし)と、講義受講後のリアクションペーパーの提出を求める。</p> <p>講義内課題として WEB 調査に参加し、心理学の方法論について体験的に学ぶ場合もある。</p> <p>講義資料は ITC-LMS の「教材」にアップするので確認して欲しい。</p>
成績評価方法	<p>予習課題・リアクションペーパー(20%)</p> <p>講義内課題(20%)</p> <p>期末レポート(60%)</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	授業時に適宜指示する。
履修上の注意・備考	<p>授業スライドを PDF で配付する。</p> <p>オンデマンド型の場合は、授業スライドに対して説明を加えている動画をみながら学習を進めて欲しい。</p> <p>資料や動画にアクセスできるページは ITC-LMS に掲載する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照

時間割コード	09229205	担当教員	岩田 一正		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	教育課程 I Curriculum Studies I				

授業の目的・概要	<p>教育課程やカリキュラムは、学習指導要領や教科書と同一視され、固定化されたものと認識される傾向があるが、本授業はこの認識の妥当性を考察していくことを課題とする。</p> <p>この課題に迫るために、カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の内容・歴史的変遷・役割・意義・改訂の背景、教科横断的総合的学習、カリキュラムを改善するための学力調査の方法、ヒドゥン・カリキュラム、他国のカリキュラムなどを概観していく。そしてこの作業を通じて、カリキュラムの具体的内容の選択基準やカリキュラム編成の方法・類型を批判的に検討できる力を獲得するとともに、学校や子ども、また地域に即してカリキュラムを編成する意義を理解していくことを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. カリキュラムの構成要素</li> <li>3. 戦前・戦時期のカリキュラム、学習指導要領の変遷 1【1947 年、1951 年、1958 年学習指導要領の内容、社会的背景】</li> <li>4. 学習指導要領の変遷 2【1968 年、1977 年、1989 年学習指導要領の内容、社会的背景】</li> <li>5. 学習指導要領の変遷 3【1998 年、2008 年、2017 年学習指導要領の内容、社会的背景】</li> <li>6. カリキュラム評価の方法【PDCA サイクルの確立、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS、ランダム化比較実験】</li> <li>7. 教科領域横断的総合的学習の編成 1【総合的学習の時間の意義、総合学習の映像資料の視聴】</li> <li>8. 教科領域横断的総合的学習の編成 2【地域、学校、子どもに即した総合学習のテーマ設定、学びの蓄積、総合学習で生じ得る困難】</li> <li>9. カリキュラム編成の背後にある教育観、カリキュラム編成の原理・方法・類型、教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準、各カリキュラム編成方法の差異</li> <li>10. ヒドゥン・カリキュラム 1【ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開】</li> <li>11. ヒドゥン・カリキュラム 2【ヒドゥン・カリキュラムの事例、ジェンダー】</li> <li>12. 他国のカリキュラム①【各国の学力調査・統計から見える姿、映像資料の視聴】</li> <li>13. 他国のカリキュラム②【アメリカと韓国のカリキュラム】</li> <li>14. 他国のカリキュラム③【イギリスとフィンランドのカリキュラム】</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>以上のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。</p>
授業の方法	<p>本授業はプレゼンテーション・ソフトを用いた講義形式として実施する。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料を視聴する機会を設ける。なお、テーマによってはグループ・ワークに取り組み、それを踏まえてレポートを記述してもらう。</p> <p>講義で用いるスライドを PDF ファイルとしたものを LMS を通じて配布するので、事前に読んでもらいたい。</p> <p>なお、COVID-19 の感染状況によって遠隔授業を実施することとなった際には、Zoom を用いて授業を実施する。</p>
成績評価方法	<p>筆記試験(60%:前記した「授業の目標」達成しているかどうかを評価する)、小レポート(40%:授業の際に提示する課題について簡単なレポートを何回か執筆してもらうこととなる)。</p> <p>ただし、COVID-19 の感染状況によって授業の方法を変更することとなった場合には、評価方法を変えることを予定している。</p>
教科書	金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019 年。

<p><b>参考書</b></p>	<p>文部科学省(文部省)『学習指導要領』(各年度版)</p> <p>Philip Jackson, Life in Classrooms, Holt, Rinehart and Winston, 1968.</p> <p>国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能』1・2・3、ぎょうせい。 同前『生きるための知識と技能』4・5・6・7、明石書店。 ブルデュー、パスロン『再生産』藤原書店、1991年。 天野正子編『新編 日本のフェミニズム 8 ジェンダーと教育』岩波書店、2009年。 直井道子・村松泰子編『学校教育の中のジェンダー』日本評論社、2009年。 生田久美子編著『男女共学・別学を問いなおす』東洋館出版社、2011年。 教育科学研究会編『学力と学校を問い直す』かもがわ出版、2014年。 丹羽美之・吉見俊哉編『記録映画アーカイブ 2 戦後復興から高度成長へ』東京大学出版会、2014年。 鈴木大裕『崩壊するアメリカの公教育』岩波書店、2016年。 北川達夫他編『フィンランドの教育』フォーラム・A、2016年。 エステル・デュフロ『貧困と闘う知』みすず書房、2017年。 日英教育学会編『英国の教育』東信堂、2017年。 岩田一正『教育メディア空間の言説実践』世織書房、2018年。 デイヴィッド・ラバリー『教育依存社会アメリカ』岩波書店、2018年。 樋田敦子『東大を出たあの子は幸せになったのか』大和書房、2018年。 ジャック・ジェニングズ『アメリカ教育改革のポリティクス』東京大学出版会、2018年。 OECD『図表で見る教育 OECD インディケーター』2021年版、明石書店、2021年。 文部科学省『諸外国の教育動向』2020年度版、明石書店、2021年。 その他の参考文献は、授業の際に提示する。</p>
<p><b>履修上の注意・備考</b></p>	<p>学部 1 年生から履修できる科目であるため、受講するために必要な予備知識というものはないが、上記した PDF ファイルを事前に読んで授業に参加してもらいたい。</p> <p>※2018 年度以前開講「教育課程」(担当教員:岩田一正)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
<p><b>教育職員免許法上の認定科目</b></p>	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照</p>



時間割コード	09229206	担当教員	西野 真由美		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校カリキュラムの全体を捉え、教科等横断的な視点や地域社会の資源を活用した道徳教育のカリキュラム・マネジメントを実践し、道徳授業を構想する力を育てることを目標にしています。</p>
授業計画	<p>以下のテーマに沿って、進めます。</p> <p>(1)学校における道徳教育の意義</p> <p>学校で「道徳」を「教える」なんて不可能、もしできるとしても、危険。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育が何を指すのかを批判的に検討しましょう。</p> <p>(2)日本における道徳教育の歴史</p> <p>明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。</p> <p>(3)道徳教育の理論</p> <p>代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。</p> <p>また、道徳の教科化に向け、「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。</p> <p>(4)現代的な諸課題と道徳教育</p> <p>キャリア教育、科学技術教育、情報教育など現代的な諸課題に道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、カリキュラムと授業を構想します。</p>
授業の方法	<p>授業は、対面もしくはリアルタイム型のオンラインで実施予定です。実施方法は、3月中旬に決定して本シラバスでお知らせ予定です。オンラインで実施の場合も、皆さんの意見をできるだけ反映しながら、インタラクティブな授業になるように努力します。ぜひ積極的に参加してください。</p>
成績評価方法	<p>毎時間の授業で提出していただくアクションペーパーと授業で指定する参考文献へのレポートで評価します。</p>
教科書	<p>講義テーマごとにレジュメを配布します。</p>
参考書	<p>参考文献はテーマ別に指示します。授業で配布するレジュメに提示した参考文献のなかから、一冊を選んでレポートを提出して下さい。</p>
履修上の注意・備考	<p>授業では、様々なグループワークを実施します。オンラインでグループでの共同作業やディスカッションをしていただくこととなりますので、受講環境にご留意ください。授業で使用する資料や課題は、ITC-LMS で配布していきます。授業前後に確認するようにしましょう。</p> <p>初回の授業は、4/11(月)です。授業は対面型で実施予定です。ただし、最初の2回(4/11, 4/18)は、オンライン型での実施となります。オンライン情報は、4月にITC-LMSでご案内します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09229207	担当教員	小国 喜弘、草薨 佳奈子		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	火 6
講義題目	特別活動論 Extra-Curriculum Activity				

授業の目的・概要	<p>社会が変わる中、特別活動の内容や指導法も変化している。特別活動は教科外活動を通じて多岐にわたる資質・能力の育成が期待されているが、教科書がなく教員の創造性や指導力が試される領域であるともいえる。本コースでは、特別活動の目標、内容、実践、課題を学ぶとともに、人間形成、他者との共存、社会との関わり方など、将来の社会生活につながる能力・資質、学校生活のあり方についても検討していく。</p>
授業計画	<p>第1回 教科外活動としての特別活動</p> <p>第2回 特別活動の目標と意義</p> <p>第3回 学級活動・ホームルーム活動</p> <p>第4回 学校行事の意義と実践</p> <p>第5回 生徒会活動の意義と実践</p> <p>第6回 特別活動と生徒指導</p> <p>第7回 特別活動における体験活動</p> <p>第8回 特別活動における人間形成と市民性教育</p> <p>第9回 グループ発表</p> <p>第10回 グループ発表</p> <p>第11回 グループ発表</p> <p>第12回 グループ発表</p> <p>第13回 海外の特別活動とその実践</p> <p>第14回 特別活動の指導と評価</p> <p>第15回 特別活動の今日的役割、まとめ</p>
授業の方法	<p>特別活動は日々の学校生活で重要な役割を果たしているが、教科の活動と比較すると教育的意義が必ずしも理解されていないことが多い。本講義では批判的に特別活動の目的や教育活動の内容を検討し、これからの社会を担う次世代の育成に、必要な資質・能力について考えていく。また批判的思考力や協働する体験をつけるため、グループディスカッションを行う他、グループ発表、レポートにも取り組む。</p>
成績評価方法	<p>本授業の評価は、以下の規準によって行う。授業への参加度・リアクションペーパー(30%)、グループ発表(30%)、期末レポートの内容(40%)により、総合的に判断する。</p>
教科書	<p>『特別活動の理論と実践(アクティベート教育学 11)』単行本(ソフトカバー) 汐見稔幸(監修)、 奈須正裕(監修)、 上岡 学(編集)、 林 尚示(編集)</p> <p>『特別活動論 / (新・教職課程シリーズ)』犬塚文雄編著、一藝社</p>
参考書	<p>国立教育政策研究所教育課程研究センター(2016)学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)</p> <p>中学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)</p> <p>高等学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)(同前)</p> <p>中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編(文部科学省ホームページ)</p> <p>高等学校学習指導要領 解説 総合的な探究の時間編(文部科学省ホームページ)</p> <p>日本特別活動学会(2010)『新訂 キーワードで拓く新しい特別活動』</p> <p>『特別活動』折出健二・和井田清司他、学文社</p>

『特別活動』(新しい教職教育講座 教職教育編) 中村 豊、原 清治(編著)

**履修上の注意・備考**

初回の授業では授業方法、授業形態、履修上の諸注意について説明するため、履修希望者は必ず出席すること。  
授業で事前学習に基づきグループワークを行うため、必ず行うこと。また毎授業後にリアクションペーパーの提出がある。積極的な発言・参加を求める。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※1 参照

時間割コード	09229208	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2.0	学期	S1	時限	月 5, 月 6
講義題目	教育の方法 I Teaching Methods I				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]</p> <p>学校教育における「授業」について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特質、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における授業の特質について理解する。</li> <li>2. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。</li> <li>3. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。</li> <li>4. 専門家としての教師の知識の特徴、専門的発達について理解する。</li> <li>5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。</li> </ol> <p>[授業の概要]</p> <p>学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取することができるのか、ということを追及していく。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ガイダンス</li> <li>②教室という時空間</li> <li>③教室における学習の特徴</li> <li>④ディスカッション1</li> <li>⑤学習者とは</li> <li>⑥学習者の声を聴く</li> <li>⑦ディスカッション2</li> <li>⑧授業の成り立ち</li> <li>⑨授業を準備する</li> <li>⑩授業をおこなう</li> <li>⑪授業を評価する</li> <li>⑫ディスカッション3</li> <li>⑬まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>講義を中心に、適宜、受講者間のディスカッションを取り入れる。</p> <p>ただし、COVID-19 による感染症の拡大状況によっては、オンライン、あるいはオンデマンドに切り替える可能性もある。</p>
成績評価方法	<p>定期試験を行わず、平常試験(課題・レポート等)で総合評価する。</p> <p>「毎回の小課題」(60%)、「最終論述課題」(40%)によって総合的に評価する。ただし、毎回の小課題の提出が全体の3分の2に満たない場合、および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。</p>
教科書	指定せず、授業中に資料を配付する。

<b>参考書</b>	<p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』(放送大学教育振興会)</p> <p>秋田喜代美・佐藤学(編著)『新しい時代の教職入門』(有斐閣)</p> <p>稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』(岩波書店)</p> <p>佐藤学『教育方法学』(岩波書店)</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>授業は対面で実施するが、出欠確認、資料送付、毎回ミニレポート提出に LMS を使用するので、LMS に接続して作業のできる端末を持参すること。</p> <p>※2018 年度以前開講「教育の方法」(担当教員: 藤江康彦)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照</p>

時間割コード	09229209	担当教員	栗田 佳代子		
単位数	1.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	ICT を活用した効果的な授業づくり Creating effective your course using ICT				

授業の目的・概要	<p>授業の概要</p> <p>本授業では、今後の教育における ICT 技術の重要性を理解し、教師として正しい知識を獲得し、未来の教育に活用していくための基盤を形成することを目指す。ICT 技術は日進月歩で進化を続けるものであることから、基礎知識を得て活用しつつも常に更新し、生徒や学生とともに学んでいく姿勢を獲得することも目的の一つである。</p> <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会を支える ICT 技術の意義および役割を理解する</li> <li>・ICT 技術が未来の学びの可能性を広げ、特に協働学習と個別最適化に寄与することを理解する</li> <li>・ICT 技術を利用した教育の陥穽を理解する</li> <li>・これからの教師の指導力および校務に ICT 活用が必須とされることを理解する</li> <li>・情報モラルや情報セキュリティを含めた ICT 活用能力を学習者に身につけてもらうための基礎知識を獲得する</li> </ul>
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回:現代社会の ICT の役割、学校とテクノロジー</p> <p>第2回:学びにおける対話・協働に寄与する ICT 技術</p> <p>第3回:個別最適化された学びを実現する ICT 技術</p> <p>第4回:デジタルコンテンツの役割</p> <p>第5回:ICT を活用した指導力</p> <p>第6回:ICT 技術の陥穽</p> <p>第7回:情報モラル・情報セキュリティの基礎知識</p> <p>第8回:校務に活用する ICT 技術</p> <p>この科目は集中講義形式として行い、1 単位に相当する内容を含む。</p>
授業の方法	集中講義形式で行う
成績評価方法	集中講義における各種ワークへの参加(50%)と終了後のレポート課題(50%)で評価を行う。
教科書	稲垣忠・佐藤和紀 編(2021)「ICT 活用の理論と実践」北大路書房
参考書	浅野大介(2021)「教育 DX で「未来の教室」をつくらう—GIGA スクール構想で「学校」は生まれ変わるか」学陽書房
履修上の注意・備考	・集中講義はオンラインで実施予定とする。携帯やタブレットではなく、PC で参加すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※M参照

時間割コード	09229210	担当教員	寺崎 里水
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	進路指導・生徒指導 Career Guidance and Pupil Guidance		
時限	月 6		

授業の目的・概要	<p>学校教育における生徒指導、進路指導およびキャリア教育の意義と原理を理解するとともに、今日の中学生、高校生を取り巻く環境、若者のキャリア形成上の課題について学ぶ。また、個別の事情や課題を抱えた児童・生徒に対する生徒指導、進路指導およびキャリア教育の適切な指導に向けた方法原理、体制づくり、法令の内容を理解する。</p> <p>具体的には個別のトピックをとりあげながら、家庭環境の変化、多様性への対応、標準的キャリアの揺らぎ、若者文化と学校文化の衝突などの学校をとりまく状況を理解し、生徒に向き合うための教育観、発達観、指導観を確立する。また、ロールプレイングやグループワークを取り入れながら、児童生徒理解、個別の課題への対応、家庭や地域・関係機関との連携などに関して、実践に向けた基礎的な知識や指導方法を獲得する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒指導・進路指導の意義と教育課程上の位置づけ</li> <li>2 社会の変容と学校における生徒指導の変化①生徒理解、居場所づくり</li> <li>3 社会の変容と学校における生徒指導の変化②生活習慣の確立と規範意識の醸成</li> <li>4 教育問題への対応①:学校に行かない、行けない子ども</li> <li>5 教育問題への対応②:非行、逸脱行動</li> <li>6 教育問題への対応③:生徒指導の体制と方法</li> <li>7 進路指導・キャリア教育①:若年層のキャリア形成上の諸課題</li> <li>8 進路指導・キャリア教育②:キャリアプランを考える</li> <li>9 進路指導・キャリア教育③:学校の教育活動とキャリア教育</li> <li>10 進路指導・キャリア教育④:生涯にわたるキャリア形成</li> <li>11 学校と家庭・地域・関係機関との連携</li> <li>12 地域・学校の多様性と進路指導・生徒指導</li> <li>13 いじめ自殺裁判から「いじめ」と「自殺」を考える</li> <li>14 自分自身の命を守る安全教育</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>講義形式を主体として、課題に応じてグループワークや DVD 鑑賞、ロールプレイングを行う。その結果をコメントシートやミニレポートにまとめて提出してもらう。</p> <p>講義は、授業の内容に関するプリントを配布し、それに沿った形で進める。</p>
成績評価方法	授業中のグループワークの成果や課題をまとめたコメントシート 40%、期末試験 60%。
教科書	とくに指定しない。
参考書	文部科学省(2010)『生徒指導提要』※web でダウンロード可能 授業内で適宜指示する。
履修上の注意・備考	配布資料をしっかりと保存すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照

時間割コード	09229211	担当教員	大瀧 玲子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	教育相談 I School Counseling I				

授業の目的・概要	<p>教育相談の意義と必要性について理解すること、幼児・児童および生徒の心理社会的発達と教育的課題について理解し、支援に必要な基礎的知識を身につけることを目標とする。</p> <p>①学校における教育相談の意義と理論について理解する</p> <p>②カウンセリングの理論や技法に関する基礎的知識を身につける</p> <p>③教育相談の具体的な進め方と対応の要点、学内外の連携について理解を深める</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション／教育相談とは</p> <p>第 2 回:子どもの発達</p> <p>第 3 回:児童・思春期の精神疾患の理解と対応</p> <p>第 4 回:カウンセリングの基本とその考え方</p> <p>第 5 回:カウンセリングの基本的な技法</p> <p>第 6 回:学校におけるカウンセリング、教育相談の進め方</p> <p>第 7 回:不登校の理解と対応</p> <p>第 8 回:いじめ・非行の理解と対応</p> <p>第 9 回:発達障害の理解</p> <p>第 10 回:発達障害への対応</p> <p>第 11 回:保護者の相談、学校内外の連携</p> <p>第 12 回:様々な不適応を示す子どもたちへの理解と対応、総括</p> <p>定期試験</p>
授業の方法	<p>講義形式を基本として、教育現場における教育相談の重要性、教育現場において幼児・児童・生徒が直面しやすいメンタルヘルス上の問題およびそれに対応するために必要なカウンセリングの基礎知識について概説する。毎回の講義内で、教員が提示する教育相談上の諸問題について考察し、リアクションペーパーにまとめる。また講義内で小グループの話し合いを行うことがある。</p>
成績評価方法	<p>定期試験(60%)</p> <p>授業参加およびリアクションペーパー等(40%)</p>
教科書	持参が必要な教科書等は特になし
参考書	<p>「よくわかる臨床心理学」下山晴彦(編) ミネルヴァ書房</p> <p>その他、授業内で適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>事前に履修しておくべき科目等はないが、子どもの発達に関する講義内容が多く含まれるため、発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照※L 参照



時間割コード	09229212	担当教員	小国 喜弘、星加 良司		
単位数	1.0	学期	A1	時限	金 5
講義題目	特別支援教育総論Ⅱ An Introduction to Special Needs Education II				

授業の目的・概要	<p>本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。</li> <li>2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。</li> <li>3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>10月7日 オリエンテーション:授業の目的の説明、ゲストスピーカー「私のインクルーシブ教育体験」 (ゲストスピーカーの方のご息様のビデオをITC-LMSにアップロードしますので、事前に視聴してください。約20分)</p> <p>10月14日 いかに学校の中に「社会的障壁」は存在するのか:障害の社会モデルの観点から</p> <p>10月21日 「共に学ぶ」教育の歴史を考える:排除の制度化とその再編</p> <p>10月28日 「共に学ぶ」学校・授業をどのようにすればいいのか:個別指導計画、ユニバーサルデザインの問題</p> <p>11月4日 合理的配慮をどう実践するのか:社会モデルに基づく「支援」とは</p> <p>11月11日 学校の中での排除をどう乗り越えるのか:学校づくりとの連携を含めて</p> <p>11月18日 ディスカッション、レポート</p>
授業の方法	<p>オンラインで行う。</p> <p>講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。</p>
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパー(計50点)、期末レポート(50点)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	適宜配布する
参考書	<p>木村泰子・小国喜弘(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。</p> <p>この他、各回の授業の中で関係する文献を紹介する。</p>
履修上の注意・備考	主体的な参加を前提とする。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

特設科目

時間割コード	09229903	担当教員	星加 良司		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	ディスアビリティ・スタディーズ Disability Studies				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229904	担当教員	熊谷 晋一郎、高橋 麻衣子、綾屋 紗月、並木 重宏、福島 智、近藤 武夫、星加 良司		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 4
講義題目	バリアフリー総論 Introduction to Barrier-free Studies				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>歩道にひいてある黄色い点字ブロックのデコボコが不便だと感じたことはありませんか？満員の通勤電車で電動車いす利用者が乗って来たら少し迷惑だと感じますか？</p> <p>近年、わたしたちの周りでは、「バリアフリー化」と呼ばれる環境整備が様々な場面で進められており、多くの場合、それは障害者にとって「やさしい」ことだと肯定的に受け止められています。ところが、ある障害者にとって「やさしい」環境を整備しようとしたところ、それが別の障害者や障害をもたない人たちにとって「やさしくない」環境を生み出してしまう、という事態も起きています。このように考えると、バリアフリーとは、一方で問題を解決しつつも、他方で別の問題を新たに生み出してしまうという二重性を内在した営みだと言うことができます。</p> <p>本講義では、バリアフリー化によって生み出される新たな問題と、その問題をめぐって人びとの間に引き起こされる衝突・対立を「バリアフリー・コンフリクト」というキーワードで捉えます。本講義を通じて、多様化、複雑化が進む現代社会において生じている様々なコンフリクトと向き合い、解決していくための技法について一緒に考えていきましょう。</p>
<b>授業計画</b>	<p>以下に示したテーマでの講義を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーコンフリクトとは何か</li> <li>・「回復」と「代償」のあいだ</li> <li>・読み書きできない子どもの難関大学進学は可能か？</li> <li>・障害者への割引サービスをずるいと感じるあなたへ</li> <li>・裁かれない人がいるのはなぜか？</li> <li>・実験室におけるコンフリクト</li> <li>・障害についてのスティグマとマイクロアグレッション</li> <li>・全体の振り返りとまとめ</li> </ul> <p>回・講義日・担当教員名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2022年10月5日 熊谷</li> <li>2) 2022年10月12日 熊谷・Kupferman</li> <li>3) 2022年10月19日 近藤</li> <li>4) 2022年10月26日 近藤</li> <li>5) 2022年11月2日 高橋</li> <li>6) 2022年11月9日 高橋</li> <li>7) 2022年11月16日 星加</li> <li>8) 2022年11月30日 星加</li> <li>9) 2022年12月7日 並木</li> <li>10) 2022年12月14日 並木</li> <li>11) 2022年12月21日 綾屋</li> <li>12) 2023年1月4日 綾屋</li> <li>13) 2023年1月11日 福島</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	<p>本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(中邑賢龍、福島智、近藤武夫、熊谷晋一郎、高橋麻衣子、並木重宏、綾屋紗月)および東京大学学院教育学研究科付属バリアフリー教育開発研究センター(星加良司)に所属する教員がオムニバス形式で行う講義です。Scott Kupferman(コロラド大学コロラドスプリングス校 准教授</p>

	／フルブライト招聘講師)もゲスト講師として講義を行います。
<b>成績評価方法</b>	期間終了後に提出を求めるレポートによって評価を行います。
<b>教科書</b>	なし
<b>参考書</b>	『バリアフリー・コンフリクト 争われる身体と共生のゆくえ』 中邑賢龍, 福島 智(編), 東京大学出版会, 2012年9月
<b>履修上の注意・備考</b>	授業内容の問い合わせについては、直接担当教員までご連絡下さい。 講義はオンラインで開講します。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09229905	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 3
講義題目	ダイバーシティと社会 Diversity and Society				

授業の目的・概要	<p>近年「ダイバーシティ(多様性)」という言葉が、社会や組織の目指すべき目標と関連づけられて語られるようになっていきます。そこでは性別や年齢、性的指向や性自認、障害等にもとづく差異が、社会全体の「活力」や企業の「生産性」向上に直結するものであるかのように捉えられがちです。しかし、私たちの間にある差異は平板なものとしてではなく、権力関係を含んだものとして存在しています。それゆえ、さまざまな摩擦や衝突を生み出すものでもあります。</p> <p>この授業の目的は、私たちの間の差異の編成のされ方やそこに働く権力関係に目を向けることで、ダイバーシティを社会的公正の観点から捉え直すことにあります。その際、フェミニズム研究やクィア研究、ディスアビリティ研究等の知見を参照することで、ダイバーシティについて学際的かつ多領域的に学んでいきます。</p>
授業計画	<p>第1回: ガイダンス&amp;イントロダクション</p> <p>第2回: マジヨリティ性と特権性</p> <p>第3回: インターセクショナルリティ①</p> <p>第4回: インターセクショナルリティ②</p> <p>第5回: 多様な男性性 (Masculinities)</p> <p>第6回: 「男らしさを競う」文化を捉え直す</p> <p>第7回: 視点としてのクィア</p> <p>第8回: 制度としての異性愛</p> <p>第9回: 強制的異性愛と強制的健全性</p> <p>第10回: 「共生社会」批判①</p> <p>第11回: 「共生社会」批判②</p> <p>第12回: 「消費」「活用」されるダイバーシティ</p> <p>第13回: まとめと振り返り</p>
授業の方法	<p>対面・オンライン (Zoom) 併用型で実施します。</p> <p>授業内容は、担当教員による講義と指定文献についてのディスカッションが中心です。受講生には指定文献を事前に読み、内容を理解した上で授業に参加することが期待されます。</p> <p>Google Classroom のリンクは以下です。</p> <p><a href="https://classroom.google.com/c/NDk4OTczNjQ4MDQ3?cjc=rbiqfh6">https://classroom.google.com/c/NDk4OTczNjQ4MDQ3?cjc=rbiqfh6</a></p>
成績評価方法	<p>1) 平常点: 35 点</p> <p>2) 動画レポート: 20 点 (10 点 × 2 回)</p> <p>3) リーディングレポート: 45 点 (15 点 × 3 回)</p>
教科書	特に定めない
参考書	特に定めない
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229906	担当教員	福島 智
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	障害の意味を考える Considering the Meaning of Disability		

授業の目的・概要	<p>この社会で「障害」と呼ばれる状態・現象について考える。指導教員は、「盲ろう者」(視覚と聴覚に障害を併せ持つ障害者)であり、教員自身の体験に立脚しつつ、受講者の体験や想像力との相互作用により、「思想的化学反応」を生み出すことを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション。</li> <li>2. 障害、障害者をめぐる言説の概要。</li> <li>3. 障害学(ディスアビリティ・スタディーズ)の国内外の研究・実践動向。</li> <li>4. 「障害」を体験する(盲ろうシミュレーション体験の実施)。</li> <li>5. 「体験」を振り返る。</li> <li>6. 「体験」からなにを見だし、なにを考えるか。→「点字」、および「指点字」の基礎的実技に挑戦する。</li> <li>7. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅠ(視覚障害)</li> <li>8. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅡ(重度身体障害)</li> <li>9. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅢ(その他の障害者)</li> <li>10. 社会に蔓延する障害差別→相模原障害者殺傷事件を考える。</li> <li>11. なにが差別もたらすのか→能力差別の本質。</li> <li>12. 障害と苦悩。</li> <li>13. 障害の有無を超えた、苦悩と生の関係。</li> <li>14. まとめ。</li> </ol>
授業の方法	<p>本講義は4日間の集中講義形態をとる。少人数(10人程度の受講者を想定)の受講者と指導教員とのディスカッション、受講者同士のディスカッションの他、「障害(盲ろう)のシミュレーション体験」や点字等の基礎的実技にもチャレンジしてもらう予定であり、こうした参加型の授業に積極的に取り組んでもらえる受講者を期待している。</p>
成績評価方法	平常点
教科書	なし。
参考書	<p>以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。</p> <p>『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)</p> <p>『ぼくの命は言葉とともにある』福島智、致知出版社(2015)</p> <p>『夜と霧』ヴィクトール・フランクル、みすず書房(2002)</p>
履修上の注意・備考	積極的な受講者を期待している。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229907	担当教員	遠藤 利彦、多賀 徹太郎、浅井 幸子、野澤 祥子		
単位数	2.0	学期	A2	時限	集中
講義題目	発達保育実践政策学概論 Introduction to early childhood development, education, and policy research				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229908	担当教員	尾竹 永子
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	デリシャスムーブメント: (Time is not Even Space is not Empty) Delicious Movement: Time is not Even Space is not Empty		

授業の目的・概要	<p>この授業は、ニューヨーク在住のコンテンポラリーアーティストによる歴史、身体、時間、空間の認知とあらたな表現の可能性を多角的に探る授業である。探求、</p> <p>認識、発見のプロセスとして身体を動かし、時間と空間が不均衡でありながら連続していることを触知、経験する。他者の身体と感性を学び、自らの認識力、想像力、感受性、美意識を育てる。言葉を使わずにも何をどのように認知し、あるいはコミュニケーションするか？ そのようにして学んだことをどのように再び言葉で表現するか？ collective learning と self-curation を探索。</p>
授業計画	<p>スタジオで体を動かし対話する。テキストを読み、映像を見る。思考を進めるため毎日ジャーナルを書いて提出。コースの最後はシラバスを補足、深化させるつもりでそれぞれのプロジェクトを進めクラスでシェア。</p>
授業の方法	<p>ムーブメントの実習:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.まず床に寝て身体をゆっくり動かす事で自分の身体への自覚をたかめる。</li> <li>2.自己表現にとらわれず 課題にそって 身体をうごかす。</li> <li>3.動物、植物、鉱物、もの、環境を身体を通して探る。他者にむかう経験を通じて他者と自分との共通点と違いの発見。境界を経験することによって本質を認識する。</li> <li>4.空間と時間を感じし過去と未来を抱えた現在を大きな時間の流れのなかで認識する。</li> <li>5.他の参加者と一緒に動き、見合う。</li> <li>6.ムーブメントをとおして芸術性と美の可能性を試行、発見する。</li> </ol> <p>読む、書く、</p>
成績評価方法	<p>課題の読み込みとビデオなどを注意深く見ること、締切を守った良質な宿題の提出、出席、授業での積極的参加、他の参加者への協力、さらにと期末プロジェクトとそのプレゼンテーション。</p>
教科書	<p>林京子 祭りの場</p> <p>林京子 トリニティからトリニティへ (<a href="https://www.amazon.co.jp/">https://www.amazon.co.jp/</a>長い時間をかけた人間の経験-講談社文芸文庫-林京子/dp/4061984071 に併録)</p> <p>大江健三郎 ヒロシマ ノート</p> <p>上記を注文してください</p> <p><a href="https://www.eikootake.org/virtual-studio">https://www.eikootake.org/virtual-studio</a></p> <p>ほか</p>
参考書	<p>グーグルフォルダーをみてください。</p> <p><a href="https://drive.google.com/drive/folders/1jcSvv0IUkAId5RH9g_wVI_qTQThjLA01?usp=sharing">https://drive.google.com/drive/folders/1jcSvv0IUkAId5RH9g_wVI_qTQThjLA01?usp=sharing</a></p> <p>Eiko &amp; Koma、Time is not Even, Space is not Empty PDF</p> <p>Eiko Otake, A Body in Places PDF ほか</p> <p><a href="https://www.eikootake.org/media-work">https://www.eikootake.org/media-work</a></p> <p><a href="https://www.eikootake.org/the-duet-project">https://www.eikootake.org/the-duet-project</a></p> <p><a href="http://eikoandkoma.org/videos">http://eikoandkoma.org/videos</a></p>
履修上の注意・備考	<p>駒場キャンパスでの対面授業での集中講座です。授業が始まる前に必ずアップデートをチェックしてください。</p>



授業は全クラスに出席してください。

林京子と大江健三郎の上記の本を注文してください。

できればラップトップ型の PC を持ってきてください。

動きやすい、無地かそれに近い服装で参加してください。床に寝たり立って動いてもらうので それができるように準備してください。

3 回目以降からのコースへの参加はできません。

<https://www.eikootake.org/media-work> のなかから 2-3 作ビデオを選んで見てそれについて 感想を書き 上記のメールアドレスに受講前におくってください。そのさい 私に知ってほしいあなたのこと紹介がわりに少し書いてください。写真も送ってもらえると嬉しいです。履修するか決まっていない人は 今書かなくても良いですが 少しビデオを見てもらえると クラスをとるかを決めるのに参考になると思います。TEACHING の項目になかにはクラスでの様子も出ています。

時間割コード	09229909	担当教員	中西 正康、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 6
講義題目	演技実践 Acting Lesson				

授業の目的・概要	プロの俳優が行う演技練習を通し自分自身と向き合い、感性を磨き、共感力、コミュニケーション能力を高め豊かな人間になる。
授業計画	<p>対面：</p> <p>俳優が行うワークを通して自分自身と向き合い、リアリズム演技の根幹である自分と役を繋げることを学んでいきます。</p> <p>相手の言葉を聞いてそれを繰り返すレペティション練習を中心に学びます。ただ言葉を繰り返すだけではなく、相手の様子、心の態度から気持ちや感情を受け取り、それを自分がどう感じているのかを相手に伝えます。この練習を行うことにより楽器(自分自身)が繊細になり、相手と共鳴し、交流ができ、思考を使わずに衝動に従い自由になれ、想像の世界で真に生きることができるようになります。</p> <p>レペティションを使い、キャラクターワーク最終的には実際に演じてみます。</p>
授業の方法	<p>対面</p> <p>または</p> <p>オンライン</p>
成績評価方法	<p>平常点</p> <p>演技的に上手い下手ではなく、どれくらい自分を解放できているか、相手とコミュニケーションがとれているかをポイントに評価をします。</p>
教科書	「リアリズム演技」著・ポビー中西（而立書房）
参考書	「サンフォード・マイズナー・オン・アクティング」―ネイバーフッド・プレイハウス演劇学校の1年間(而立書房)
履修上の注意・備考	<p>時間厳守</p> <p>オンラインの場合:授業に集中できる環境</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229910	担当教員	近藤 良平、岡田 猛		
単位数	2.0	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	身体表現の実践 Practice of Physical Expression				

授業の目的・概要	<p>本授業は、第一線で活躍する振付家・ダンサーの近藤良平による身体表現の授業である。</p> <p>本授業では、実際の身体表現を通して、身体で創造するとはどういうことかを体感することを大きな目的としている。</p>
授業計画	<p>授業進行の詳細については、受講者とのやり取りの上で随時変更していくが、今のところ、以下のような大枠で行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、身体への様々なアプローチ</li> <li>2. 身体への様々なアプローチ、身体表現のワーク①、ディスカッション①</li> <li>3. 身体への様々なアプローチ、身体表現のワーク②、ディスカッション②</li> <li>4. 身体への様々なアプローチ、身体表現のワーク③、ディスカッション③</li> <li>5. 身体への様々なアプローチ、身体表現のワーク④、ディスカッション④</li> <li>6. 創作</li> <li>7. 発表、ディスカッション</li> </ol>
授業の方法	<p>身体表現、ディスカッションなどの方法をとる。</p> <p>感染状況など諸条件により、内容や開講形式は変動する可能性がある。</p>
成績評価方法	<p>○以下の4点を踏まえて総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート</li> </ol>
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	<p>実技の授業なので毎回参加することは大切である。</p> <p>実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。</p> <p>準備しておくといもの：動きやすい服装、飲み物、タオルなど。</p> <p>ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も歓迎します。また、どの学部の学生も歓迎します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229911	担当教員	尾上 明代		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	ドラマセラピーを通じた表現実践 Practice for Expression through Drama Therapy				

<b>授業の目的・概要</b>	<p><b>授業の目標</b></p> <p>ドラマや劇を通して、「演じる」という芸術表現形態の楽しさを体験することで、創造性や自己表現力、自発性などを高めることを目標とする。</p> <p>グループダイナミクスやリフレクションを使うドラマセラピーのワークを媒体とすることにより、上記と同時に、コミュニケーション技術、自分自身とさまざまな他者への理解力、受容力を高めることができる。</p> <p>ドラマセラピーの理論的背景についての基本的理解が得られる。</p> <p>「演じること」は身体、感情、知性を統合して行う活動であり、さらにドラマセラピストである講師が自由で楽しい感覚を提供しながら授業を進めることにより、上記のような能力が同時に高まることが可能となる。</p> <p><b>授業の概要</b></p> <p>ドラマや劇を演じることを通して表現力や創造性を高めることを目指すコースである。</p> <p>「創造的教養人(岡田・縣、2013)*」を育成する一環として、表現を創造的かつ主体的に楽しむ体験を提供し、受講後の研究や職業生活、また人生を豊かにすることの一助になるようなアクティビティーで構成している。</p> <p>グループワークの中においては自分を客観視できるだけでなく、自分の人生だけでは体験できない、他者の人生・状況・考え方などについても、より深い新しい理解が可能になる。また「ドラマ」で「役」を演じるということが、実はいかに「現実生活」を豊かにし、また問題解決のツールとして使えるかを、知的学習からだけでなく、身体・感情・感覚でホリスティックに理解し、かつ体得できるところがポイントである。</p> <p>ドラマセラピーはクリエイティブアーツセラピー、またグループセラピーの一つで、ドラマ・演劇のプロセスを系統的かつ意図的に用いる体験的アプローチである。この手法により、自己の意識と無意識を含む様々な心的要素がとり扱われ、また、他者や環境との関係、および他者の多様な側面の探索も可能になる。そのため、自己覚知と他者理解が深まり、視点や行動、社会関係の変化を促すので、「セラピー」という狭い枠を超えて、人の創造性・自発性が必要となる多くの分野に汎用できる。特に教育分野では有用性が高い。</p> <p>* 岡田猛・縣拓 (2013), 芸術の認知科学 展望論文 創造の主体者としての市民を育む:「創造的教養」を育成する意義とその方法, 認知科学, 20(1), pp27-45.</p>
-----------------	--

<b>授業計画</b>	<p>第1回 このクラスの実施方法のオリエンテーションと最初の interaction のためのゲーム</p> <p>第2回 想像力・創造力・即興力を豊かに</p> <p>第3回 フィクション(架空)とリアリティー(現実)の間を行き来する</p> <p>第4回 おとぎ話—象徴・架空の力</p> <p>第5回 ドラマセラピーの基本的な理論と事例(講義)</p> <p>第6回 「詩」の鑑賞ワークショップ</p> <p>第7回 心の障害物を乗り越えるドラマ</p> <p>第8回 人間関係、及び社会問題の探索1 (ソシオドラマ)</p> <p>第9回 人間関係、及び社会問題の探索2(ソシオドラマ)</p> <p>第10回 人間関係、及び社会問題の探索 3(ソシオドラマ)</p>
-------------	---

	<p>第11回 「ドラマ」から「現実」の変容へ</p> <p>第12回 自分の「role」認識</p> <p>第13回 グループプロセスの終結・まとめ</p>
<p><b>授業の方法</b></p>	<p>夏季集中授業として対面で実施します。この授業形態を活かして、体験・ディスカッション・座学などをバランスよく配置し、わかりやすく、また疲れすぎないプロセスを作り進めていきます。</p> <p>表現実践としてドラマ的ゲームや演技を行い、個人とグループの変容や発展を体験的に理解してもらいます。「演じる」ことへの不安をとりのぞき、楽しく取り組めるように漸進的に丁寧に進めていきます。このこと自体が、ドラマセラピーを媒体に使う利点の一つであるので、アクティビティーに不安がある人がいたとしても、心配せずに受講してください。</p> <p>毎回、プ</p>
<p><b>成績評価方法</b></p>	<p>表現力や創造性、自他の理解力などの発展・深化を、授業参加の様子やディスカッションの内容(50%)、期末レポート(50%)から総合して評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p>	<p>教科書は生協等で手に入れて、二日目までに1章の事例を読んでおいてください。</p> <p>心ひらくドラマセラピー：自分を表現すればコミュニケーションはもっとうまくいく！</p> <p>尾上明代著(河出書房新社)</p>
<p><b>参考書</b></p>	<p>ドラマセラピーのプロセス・技法・上演—演じることから現実へ</p> <p>ルネ・エムナー 著(北大路書房)</p>
<p><b>履修上の注意・備考</b></p>	<p>体験型の学習なので、基本的に全回出席することがまず大切です。</p> <p>授業内での積極的な参加態度はもちろん良い評価の対象にはなりますが、「授業」だからといって、すべてのワークに無理に参加をしなければならない、というプレッシャーを感じる必要はありません。</p> <p>その時どきの自分の心身の状態に合わせて参加して下さい。</p> <p>「演技が得意な人、人前で発表することが好きな人」にのみ適しているアプローチではないかという勘違いもあるかもしれませんが、そうではなくてアクト(行動、演技)することが「多くの人が取り組みやすく、創造力や表</p> <p>この科目の登録はS2と同じになりますので、登録切はそれぞれの学部・研究科の期日に従って下さるようお願い致します。</p> <p>日程：</p> <p>7月30日(土)2～5限</p> <p>7月31日(日)2～4限</p> <p>8月6日(土)2～4限</p> <p>8月7日(日)2～4限</p>
<p><b>教育職員免許法上の認定科目</b></p>	

時間割コード	09229912	担当教員	Steven Fischer		
単位数	2.0	学期	S2	時限	月 1, 木 1
講義題目	Cartoon Storytelling Cartoon Storytelling				

授業の目的・概要	<p>This course is for anyone who has an interest in expressing themselves through cartoons and those interested in cartoons as an art form. This class is about realizing the potential of becoming a cartoonist no matter your skill level. This course is intended to introduce students to the possibilities cartooning offers as a vehicle to express and communicate effectively. Students should realize that while commercial cartooning may require certain skills and abilities,</p> <p>the only limitation in the art of cartoon storytelling are those self-imposed. Anyone willing to express him or herself honestly can create a legitimate comic. Our objective is to create and complete an original story with original characters.</p>
授業計画	105 min. sessions each Wednesday
授業の方法	<p>lecture,</p> <p>exercises,</p> <p>projects</p>
成績評価方法	<p>Class Participation25%</p> <p>Attendance25%</p> <p>Writing assignments25%</p> <p>Final Project25%</p>
教科書	n/a
参考書	n/a
履修上の注意・備考	<p>While participants will be creating many cartoons during the course (in comic book, comic strip, single panel, and storyboard formats),</p> <p>the final project – and goal of this course – is for each student to produce a completed cartoon story in comic boo</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229913	担当教員	Michael Spencer		
単位数	2.0	学 期	S2	時 限	火 5, 火 6
講義題目	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music Sound Sense: Reevaluating our relationship with music				

授業の目的・概要	<p>The objectives for this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>· to expand your knowledge of musical practice</li> <li>· to be able to apply analytically the concepts introduced within the course, across a wide range of musical genres, but without the need for any formal training in musical theory.</li> <li>· To understand the value of music and its deeper role in society</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>· Thinking differently: music, memory, patterns and the management of expectation, educational practice in schools, societal change and the influence of the record industry on listening habits.</li> <li>· The building blocks of music, an introduction: rhythm, melody, harmony, texture, dynamic, silence</li> <li>· Rhythm: physiology and movement</li> <li>· Melody: prosody and respiration</li> <li>· Harmony: Pythagorus, the harmonic series, horizontal motion and vertical structures, Rameau (the Isaac Newton of music), the invention of music notation, and the problem with keyboards</li> <li>· Texture: aural colours and the blending of sounds</li> <li>· Dynamics: instrument design, noise, technological enhancement</li> <li>· Silence: the forgotten element</li> <li>· Architecture: the transition from simple to complex musical structures</li> <li>· Active listening: refining one's listening practice</li> <li>· Review</li> </ul>
授業の方法	<p>The course will be comprised of information giving, interactive challenges,</p>

	and facilitated exchanges between participants
<b>成績評価方法</b>	Class participation (presentations and in-class discussions)
<b>教科書</b>	Not applicable
<b>参考書</b>	A wide variety of music examples will be referred to throughout the course. In addition, recommended lists for further listening will be provided at the end of each session
<b>履修上の注意・備考</b>	Before the course you will be required to prepare a short presentation (2-3 minutes) about a specific piece of music with which you feel a particular connection. There are no prerequisites for how you might do this. N.B. please inform the lecturer by email  Not applicable
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	



時間割コード	09229914	担当教員	篠原 猛史、岡田 猛		
単位数	2.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	現代美術の磁場 Intensity of Contemporary Arts				

授業の目的・概要	この授業は、芸術表現のスキルの獲得ではなく、自分自身の心の中にある表現の種子を探し、それを表現の形にすることを支援する授業である。実技と講義を通して、各回のテーマに関する考察を深める。その際、一方的な授業ではなく、講師と受講生がやりとりをしながら授業を進行していく。受講生は、そのような活動を通して、自分の内面を掘り下げ、自己基盤の熟成に向けたベクトルを見つけることを目指す。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.偶然と必然から生まれて来たもの</li> <li>2.意識と無意識の境界</li> <li>3.内に在る波動と循環</li> <li>4.初期的イメージから展開へのプロセス</li> <li>5.意識の連動と表現</li> <li>6.感覚と理性のバランスと表現の関係性</li> <li>7.現在と過去への遡及の意味</li> <li>8.作品と自身の距離</li> <li>9.音と可視化</li> <li>10.イメージの可視化と多様性</li> <li>11.平面作品、立体作品の表現と特性</li> <li>12.色彩とフォルムの関係性とアンビバレント</li> <li>13.創造、体験、アクションの重要性</li> </ol>
授業の方法	講義と実技を組み合わせで行う。美術の画材に限らず、様々な素材を使って創作を行う。作品の発表会やディスカッションも実施する。
成績評価方法	授業への積極的な参加、課題作品の提出、自分の表現プロセスについての省察のレポート。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	実技を含むので、授業参加と実技の実施が必須。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09229915	担当教員	岡田 猛
単位数	2.0	学 期	S1S2
講義題目	邦楽実技実習 I (箏曲山田流) Studio Lessons in Traditional Japanese Music: Yamada School Koto Music		
		時 限	木 1

授業の目的・概要	<p>この授業は、東京藝術大学との連携授業です。ゲスト講師として、山田流箏曲の萩岡由子先生に実技の指導をお願いしております。授業は東京藝大にて実施されます。</p> <p>この授業の趣旨は、山田流箏曲という音楽の魅力を知って頂くことです。実践の中では、楽器を弾くことを習得するだけでなく、山田流の大きな魅力の一つである「歌」、また楽器を弾きながら歌う、という事にも挑戦して頂きます。また折に触れて、歴史や楽器についての講義、そして、時には演奏の鑑賞を含め授業を進める予定です。礼儀を基本に、昔ながらのお稽古にならう日本スタイルの授業の中で、是非、山田流箏曲の音楽を楽しんで頂きたい。</p> <p>邦楽において、また山田流箏曲において初心者である方も、授業の内容や進行のスピードなどはその都度その方に合わせていきますので、ご安心ください。</p>
授業計画	実技実習・講義・演奏鑑賞・(ミニ成果発表演奏会)を毎回実施します。
授業の方法	<p>授業開催日:木曜日1限(9:00~10:30)</p> <p>場所:東京藝術大学上野校地音楽学部1号館3階</p> <p>【1-3-28 邦楽合奏教室】</p> <p>基本的に対面授業。</p> <p>藝大の規則に合わせて、90分授業を全15回です。</p> <p>履修上の注意をよく読んでください。</p>
成績評価方法	授業の出席、宿題提出、実技評価
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数制限有り(上限8人)</li> <li>・楽器、爪(山田流)などは借用可。</li> <li>・爪に関してはサイズ合わせなどもあるため要相談。</li> <li>・4月6日の午後5時まで、萩岡由子先生に受講希望のメールを出してください。もし制限人数を超える場合は、6日の夜に受講の可否についてのメールが萩岡由子先生から届きますので、それに従って下さい。</li> <li>・重要！今年度は受講生の数が定員に達しましたので、受講は締め切りました。</li> </ul> <p>東京藝大への入構は、守衛所で学生証を提示し、氏名・連絡先・向かう教室・入校また退校時に時間を記入の上、守衛所を通る事となっています。</p> <p>コロナ対策に関して、</p> <p>【行動指針】&lt;<a href="https://www.geidai.ac.jp/news/2020061289370.html">https://www.geidai.ac.jp/news/2020061289370.html</a>&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校する日は、必ず自宅にて検温の実施。</li> <li>・発熱(37.5度以上又は平熱よりおおむね1度以上高い体温)や、咳や鼻水など、比較的軽い風邪の症状がある場合など、体調不良のときは、必ず登校を禁止するよう、大学から決められています。</li> </ul> <p>箏曲</p>
教育職員免許法上の認定科目	東京藝術大学連携講義

時間割コード	09229916	担当教員	岡田 猛
単位数	2.0	学 期	A1A2
講義題目	邦楽実技実習Ⅱ(長唄三味線) Studio Lessons in Traditional Japanese Music: Nagauta Shamisen		
		時 限	木 1

<b>授業の目的・概要</b>	<p>この授業は、東京藝術大学との連携授業です。ゲスト講師として、長唄三味線の関口奈々恵先生に実技指導をお願いしています。授業は東京藝大にて行われます。</p> <p>長唄三味線を通し、三味線の仕組みや演奏法を知ると共に、日本の文化、伝統音楽、西洋音楽との違いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■三味線という楽器の構造を知り、実際に小曲を弾けるようにする。</li> <li>■三味線の伝来や、三味線には種類があることを知ってもらう。</li> <li>■伝統音楽における「口伝」とはどのようなものかを実際に習ってみることによって、より理解を深めてもらう。</li> </ul> <p>日本人の生活に根付いて発展していった三味線音楽の様式を知ってもらい、長唄の魅力を感じてもらえたらと思っています。</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 三味線の歴史、仕組み、譜面、演奏法を知る。三味線の調弦・構えを出来るようにする。 撥で3つの絃に当てる練習をする。本調子の「さくら(本手)」を弾いてみる。</p> <p>第2回 調弦と本調子の「さくら(本手)」の復習。本手が弾けたら替手を弾いてみる。本手と替手を一緒に合わせてみる。出来たら三下りの「さくら(本手と替手)」を弾いてみる。一緒に合わせてみる。</p> <p>第3回 調弦と本調子の「さくら(本手と替手)」三下りの「さくら(本手と替手)」の復習。 口三味線の説明。「佃の合方(本手)」の口三味線を言ってみる。言えたら弾いてみる。 言いながら弾いてみることで、覚え方を知る。</p> <p>第4回 調弦と「さくら(本手と替手)」「佃の合方(本手)」口三味線の復習。 出来たら「佃の合方」の替手を弾いてみる。一緒に合わせてみる。</p> <p>第5回 調弦と「さくら(本手と替手)」「佃の合方(本手と替手)」口三味線の復習。 かけ声をかけることにより、息を合わせることを知る。実際にかけ声をかけて弾いてみる。</p> <p>第6回 調弦と「さくら(本手と替手)」「佃の合方(本手と替手)」口三味線の復習。 長唄「小鍛冶」より、「セリの合方」の口三味線を言ってみる。言えたら弾いてみる。</p> <p>第7回 調弦と「さくら(本手と替手)」「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」復習練習。</p> <p>第8回 調弦と「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」復習。 中学校の教材にも入っている長唄「勸進帳」より「寄せの合方」の口三味線を言ってみる。 言えたら弾いてみる。</p> <p>第9回 調弦と「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」復習。 「寄せの合方」を重点に練習する。</p> <p>第10回 調弦と「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」「寄せの合方」復習。 慣れてきたらテンポを上げて弾いてみる。</p> <p>第11回 調弦と「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」「寄せの合方」復習練習。 「千鳥の合方」を弾いてみる。</p> <p>第12回 調弦と「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」「寄せの合方」 「千鳥の合方」復習。</p> <p>第13回 調弦と「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」「寄せの合方」</p>

	<p>「千鳥の合方」復習。</p> <p>舞台では横一列で演奏するため、指揮者のいない横並びでの演奏を体験する。</p> <p>第 14 回 調弦と「佃の合方(本手と替手)」「セリの合方」「寄せの合方」</p> <p>「千鳥の合方」復習。横並びで最終発表に向けての練習。</p> <p>第 15 回 今までの復習をし、教室で小さな発表会。</p> <p>模範演奏を聴く。質疑応答。</p>
<b>授業の方法</b>	<p>東京藝術大学(1-3-28教室)にて、三味線の実技授業。</p> <p>東京藝大の規則に合わせて、90分授業を全15回。</p> <p>9時から10時半。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>授業への参加、三味線の実技修得状況並びに取り組みの様子。</p>
<b>教科書</b>	<p>特になし</p>
<b>参考書</b>	<p>特になし</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>人数制限あり(10名まで)</p> <p>9月1日から9月29日17時までの期間に、東京藝大邦楽科の助手室のメールアドレス(hougakuka@ml.geidai.ac.jp)に受講の希望をメールで伝えて下さい。人数が多い場合は抽選となります。その期間を過ぎると、受講は受け付けない可能性があります。</p> <p>なお、東京藝大への入構は、守衛所で学生証を提示し、氏名・連絡先・向かう教室・入校また退校時に時間を記入の上、守衛所を通る事となっています。</p> <p>コロナ対策に関して、</p> <p>【行動指針】 &lt;<a href="https://www.geidai.a">https://www.geidai.a</a></p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>東京藝術大学連携講義</p>

時間割コード	09229917	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	フェミニズム理論 Feminist Theory				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>フェミニズム理論は、1960年代後半に登場した第二波フェミニズム(女性解放運動)の運動と思想をもとに発展してきた知識の枠組です。当初は、女性学(Women's Studies)と呼ばれる学問領域の中で、主に男女間の不平等や格差の検証に焦点をあて、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにし、説明するための道具立てとして用いられてきました。その後 1980年代になると、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、男性学(Men's Studies)という専門領域の登場にも寄与します。</p> <p>ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された1980年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられることとなります。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。「女性学」や「男性学」に代わるものとして、「ジェンダー論」という名称が好まれるようになった理由の一端はここにあります。</p> <p>こうした経緯を経て、現在フェミニズム理論は、男女間だけではなく女性間・男性間に存在するさまざまな不平等や格差を捉える認識枠組みとして展開されています。本授業では、フェミニズム理論が登場・発展した歴史的背景に加え、現代社会において生じているさまざまな不平等や格差を批判的に捉える際に有用な概念や議論を紹介します。</p>
<b>授業計画</b>	<p>フェミニズム理論は、1960年代後半に登場した第二波フェミニズム(女性解放運動)の運動と思想をもとに発展してきた知識の枠組です。当初は、女性学(Women's Studies)と呼ばれる学問領域の中で、主に男女間の不平等や格差の検証に焦点をあて、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにし、説明するための道具立てとして用いられてきました。その後 1980年代になると、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、男性学(Men's Studies)という専門領域の登場にも寄与します。</p> <p>ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された1980年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられることとなります。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。「女性学」や「男性学」に代わるものとして、「ジェンダー論」という名称が好まれるようになった理由の一端はここにあります。</p> <p>こうした経緯を経て、現在フェミニズム理論は、男女間だけではなく女性間・男性間に存在するさまざまな不平等や格差を捉える認識枠組みとして展開されています。本授業では、フェミニズム理論が登場・発展した歴史的背景に加え、現代社会において生じているさまざまな不平等や格差を批判的に捉える際に有用な概念や議論を紹介します。</p>
<b>授業の方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業では70分程度の講義の後、講義内容に関するグループ・ディスカッションを25分程度行います。講義とグループ・ディスカッションの内容をもとに、授業後、コメントを提出してください。</li> <li>●パワーポイントを投影しながら講義を行いますが、プリント(パワーポイントを印刷したもの)は配布しません。パワーポイントのデータは授業の前日の夜までにGoogle Classroomにアップします。必要に応じて各自ダウンロード・印刷し、授業に持参してください。</li> </ul>
<b>成績評価方法</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平常点 30点</li> <li>2) 動画レポート 30点</li> <li>3) 期末レポート 40点</li> </ol>

<b>教科書</b>	授業で購読する文献は、授業内で配布します
<b>参考書</b>	授業で購読する文献は、授業内で配布します
<b>履修上の注意・備考</b>	特になし
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09229918	担当教員	李 炯植、小国 喜弘		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 5
講義題目	子どもの貧困問題に関するサービスラーニング I The Issue of Child Poverty (Service Learning)				

授業の目的・概要	<p>日本における子どもの貧困の実態について理解を深め、解決のためのアプローチについて実践の事例を元にしなが ら検討していくことで今後の貧困対策のあり方について学ぶことを目的とする。</p> <p>特に NPO が行う子どもへの支援や自治体の取り組み、日本の政策動向などを手掛かりにしなが ら学びを深めていく。</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション、授業の進め方、教員紹介、受講者の関心の共有</p> <p>第 2 回:子どもの貧困とは、子ども達の現状、課題の構造</p> <p>第 3 回:日本における子どもの貧困対策の課題、政策動向</p> <p>第 4 回:NPO 法人 Learning for All のアプローチ</p> <p>第 5 回:支援における当事者の存在</p> <p>第 6 回:学習支援と市場化</p> <p>第 7 回:ゲストスピーカーによる講義と討論①</p> <p>第 8 回:ゲストスピーカーによる講義と討論②</p> <p>第 9 回:ゲストスピーカーによる講義と討論③</p> <p>第 10 回:ゲストスピーカーによる講義と討論④</p> <p>第 11 回:映像から学ぶ子どもの貧困①</p> <p>第 12 回:映像から学ぶ子どもの貧困②</p> <p>第 13 回:本講義を通してのリフレクション、学びの共有</p> <p>※ゲストスピーカーは子ども支援の実践者や政策形成に関わる専門家などの登壇を予定しています</p>
授業の方法	<p>感染状況と受講者数を踏まえた上で、オンラインか対面での実施とするかを決定する予定です。</p> <p>開講期間中に任意で NPO 法人 Learning for All の支援拠点への見学を案内いたします。関心のある方はそちらへの参加もご検討ください。</p>
成績評価方法	毎回の出席(リアクションペーパー)と最終レポートを 5:5 で評価します。
教科書	必要となる文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。
参考書	適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	